祇園Ⅰ遺跡第６次　掘立柱建物跡（南から）

中尊寺跡第96次　１号溝（沢跡）を掘り込む多数の柱穴（北東から）

花立Ⅱ遺跡第27次　南西区（東から）

花立Ⅱ遺跡第28次　溝跡土層断面（北から）

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅰ遺跡第６次　　中尊寺跡第93・95・96次
花立Ⅱ遺跡第27・28・29次

序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧観自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。また、このほかに101箇所を数える遺跡や埋蔵文化財が町内に数多く残されています。これらは地域の風土や歴史が生み出した貴重な文化遺産であり、本町の歴史・文化を考える上で重要な資料であります。また、これらの歴史資料は本町のみならず県民・国民的財産であり、その保存・活用の重要性はいうまでもありません。

本報告書は令和２年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査成果を収録したものです。同事業では祇園Ⅰ遺跡、中尊寺跡、花立Ⅱ遺跡の３遺跡・６地点の調査を行っております。

特に花立Ⅱ遺跡第27次調査では、12世紀の四面庇建物跡が見つかりました。この建物跡は12世紀の平泉で特徴的に見つかる有力者の建物跡で、平泉の都市空間を考える上で貴重な資料を得ることができました。

調査データは広く活用され、今後の考古学研究・文化財の愛護・理解の一助になれば幸いです。

最後に、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に深く感謝申し上げます。

令和４年３月

平泉町教育委員会

教育長　吉　野　新　平

例　言

1　本書は令和２年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査の報告である。

2　令和２年度の発掘調査は、祇園Ⅰ遺跡、花立Ⅱ遺跡、中尊寺跡の３遺跡・６地点について行った。野外調査期間は令和２年４月３日から令和２年９月25日、室内整理期間は令和３年３月31日までである。また、中尊寺跡第95次の試掘調査として令和元年に実施した中尊寺93次調査も併せて掲載した。

3　発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

(1)　令和２年度

平泉町教育委員会

教育長	岩渕　実		

平泉文化遺産センター

所長	千葉　登		
所長補佐	鳥原弘征	主事	鈴木理世
主任主査文化財調査員	菅原計二	調査補助員	二階堂里絵
主任主査文化財調査員	鈴木江利子	調査補助員	佐藤昌弘
文化財調査員	鈴木博之	調査補助員	熊谷明美
主任	佐々木成淳	調査補助員	菊地遵子

(2)　令和３年度

平泉町教育委員会

教育長	岩渕　実	（～令和３年９月30日）
	吉野新平	（令和３年10月１日～）

平泉文化遺産センター

館長	千葉　登	主事	鈴木理世
館長補佐	鳥原弘征	主任	荻山美浩
主任主査文化財調査員	菅原計二	調査補助員	二階堂里絵
主任主査文化財調査員	鈴木江利子	調査補助員	佐藤昌弘
文化財調査員	鈴木博之	調査補助員	熊谷明美
主任	佐々木成淳	調査補助員	菊地遵子

4　発掘調査・室内整理は菅原・鈴木江利子・鳥原が担当し、佐藤・菊地の協力を得た。事務は鈴木理世が担当した。

5　本書の執筆は、Ⅰ－１・３・５を菅原計二、Ⅰ－２・４・６を鈴木江利子、それ以外を鳥原弘征が担当した。

6　調査の基準点は、平文基準点（平面直角座標Ｘ系に準拠）をもとに調査員が打設した。なお、測量成果は過去の図面と合成できるよう測地2000に変換して使用した。

7　土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。

8　調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会、平泉町HP等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。

9　発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）

文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

10　出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。

11　発掘調査参加者（順不同・敬称略）

石川叢竜、石川誠、及川勝、小野寺啓悦、春日谷初男、川崎寛、小岩住ネ、小松代方代
佐々木政記、佐々木敏治、佐々木直久、佐藤綾男、佐藤潔、佐藤義雄、佐藤彦悦、佐藤参
佐藤正志、菅原久美子、鈴木健一、高橋喜一、高橋純一、瀧澤昌治、東福正博、千葉あえ子
千葉勝也、千葉京子、千葉景姫、千葉セツ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉義男
鳥畑恵美子、那須野繁男、橋階義彦、藤原榮治、丸山雅子、吉田琴子

目　　次

巻頭カラー

序

例言

目次

抄録

Ⅰ　平泉遺跡群発掘調査報告

1　祇園Ⅰ遺跡第6次 …… 2

2　中尊寺跡第93・95次 …… 12

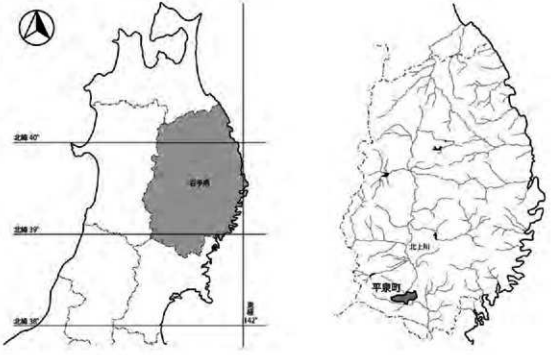
3　中尊寺跡第96次 …… 28

4　花立Ⅱ遺跡第27次 …… 50

5　花立Ⅱ遺跡第28次 …… 84

6　花立Ⅱ遺跡第29次 …… 104

Ⅱ　工事立会



平泉町の位置

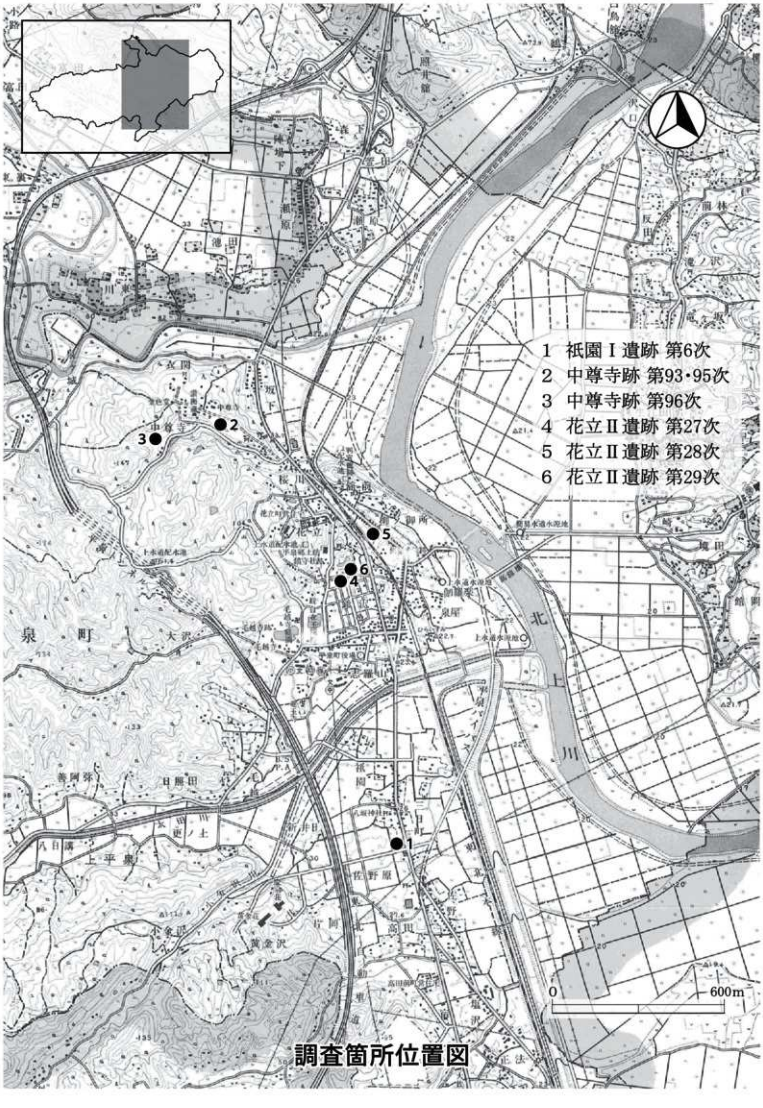
報 告 書 抄 録

ふ り が な	ひらいずみいせきぐんはっつちょうさほうこくしょ
書 名	平泉遺跡群発掘調査報告書
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	岩手県平泉町文化財調査報告書
シリーズ番号	第141集
編 著 者 名	島原弘征　菅原祥二　鈴木江利子
編 集 機 関	平泉町教育委員会
所 在 地	〒029－4102　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地２　電話(0191)46-2111(代)
発 行 年 月 日	西暦2022年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
衣関Ⅰ遺跡第６次	衣関152-5	03402	NE86-0006	38° 58′ 30″	141° 07′ 00″	20200803～0925	100㎡	住宅新築
中尊寺跡第93次	衣関66		NE75-0302	39° 00′ 03″	141° 06′ 10″	20190527～0619	20㎡	内容確認
中尊寺跡第95次	衣関66		NE75-0302	39° 00′ 03″	141° 06′ 10″	20200403～0526	100㎡	仏堂建設
中尊寺跡第96次	衣関102		NE75-0302	38° 59′ 59″	141° 05′ 53″	20200525～0807	240㎡	住宅新築
花立Ⅱ遺跡第27次	鈴沢85-2		NE76-1015	38° 59′ 38″	141° 06′ 45″	20200604～0818	720㎡	アパート建設
花立Ⅱ遺跡第28次	花立122-1		NE76-1015	38° 59′ 39″	141° 06′ 53″	20200424～0522	30㎡	物置新築
花立Ⅱ遺跡第29次	花立147-3		NE76-1015	38° 59′ 30″	141° 06′ 48″	20200731～0908	110㎡	住宅新築

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
衣関Ⅰ遺跡第６次	散布地	平安	掘立柱建物跡、溝跡、柱穴	かわらけ、国産陶器、刀口	
中尊寺跡第93次	寺社・経塚	縄文・平安	溝跡、整地	かわらけ、近世銭貨、角釘、剥片石器	
中尊寺跡第95次	寺社・経塚	縄文・平安	礎石建物、溝跡、整地	かわらけ、陶器、須恵器、縄文土器、銭貨	
中尊寺跡第96次	寺社・経塚	縄文・平安	掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柱穴	かわらけ、中国産磁器、国産陶器、近世陶磁器、銭貨、石製品	
花立Ⅱ遺跡第27次	寺社・城館	平安	掘立柱建物跡、沢跡、整地、土坑、溝跡、柱穴	かわらけ、中国産陶磁器、国産陶磁器、種子	
花立Ⅱ遺跡第28次	寺社・城館	平安	土坑、溝跡	かわらけ、中国産磁器、国産陶器、木製品、丸、全面製品、石器	
花立Ⅱ遺跡第29次	寺社・城館	平安	土坑、溝跡、柱穴、落ち込み	かわらけ、中国産磁器、国産陶器、種子	

要 約	平泉遺跡群の発掘調査報告書である。 花立Ⅱ遺跡第27次調査では、12世紀の両面庇建物跡が確認され、12世紀の平泉の都市空間を考える上で貴重な資料を得ることができた。


1 祇園Ⅰ遺跡 第6次
2 中尊寺跡 第93・95次
3 中尊寺跡 第96次
4 花立Ⅱ遺跡 第27次
5 花立Ⅱ遺跡 第28次
6 花立Ⅱ遺跡 第29次
泉町
北上川
0
600m

調査箇所位置図

祇園Ⅰ遺跡第６次発掘調査

１　調査要項

地　　点　岩手県西磐井郡平泉町平泉字祇園152番２、214番２
調査面積　100㎡
調査期間　令和２年８月３日～９月15日
原　　因　住宅建築
調査担当　菅原計二

２　位置と概要

調査地点はＪＲ平泉駅の南約１㎞に位置し、12世紀の奥州藤原氏時代の南方鎮守祇園社跡と伝わる八坂神社から約200ｍ南側に当たる。現状の地形は北上川西岸の沖積平坦面で、一帯には昭和40年代以前の水田を区画整理による造成が行った水田が広がる一方、県道300号（県道三日町瀬原線・旧国道４号）に沿って住宅が立ち並ぶ。当地点の標高は約23～24ｍである。平成７年度に行った第１次調査は、本調査区（６次）の北東約30ｍの地点で行った同一敷地内の調査で、現在の住宅東側に当たる。ここから12世紀の掘立柱建物跡が三時期の重複をもつ形で検出した。この内、最も古い１号建物跡は柱穴掘方の直径が約１ｍ、柱痕跡33㎝、柱間2.5ｍを測る大型の掘立柱建物跡であった（第２図）。本調査（６次）は重機で表土と昭和40年代以降の客土や水田耕作土を除去した地山面で遺構を検出した。調査の結果、調査区中央から西側にかけて大小34個の柱穴と溝跡１条を検出し、柱穴の景観から掘立柱建物跡１棟を想定した。柱穴の埋土からロクロかわらけと羽口が出土し、12世紀の掘立柱建物跡と判断した。以下は経過である。８月３日重機による掘削を開始。この後、作業員による残土の処理と壁切り・遺構検出・精査・実測を並行して行った。21日から掘立柱建物跡の南側と西側の景観を追跡して小トレンチを掘り下げ、柱穴を確認した。27日調査区全体の写真撮影、９月３日資材撤去、11日と15日に埋戻し作業を行い、現地での調査を終了した。

第１図　位置図（1/5,000）

3　調査成果

(1)　遺構　柱穴34（掘立柱建物跡１棟）、溝跡１

(2)　遺物　かわらけ片少量、国産陶器（常滑産甕）１、羽口少量、近現代陶磁器、雑物等

（1）土層（第６図）

当調査区の土層は、調査区北壁と西壁の土層断面で土層を観察した。表土から地山を含めて大きくⅠ～Ⅳ層に分けられる。Ⅰは表土(1)・水田表土(1-1)・客土(1-2～1-7等)・撹乱、Ⅱは客土で地山を切土盛土した造成土、Ⅲは水田耕作土(2)と基盤造成土(3)・旧水田床土(1-8)・旧地形堆積土(1-11)、Ⅳは地山である。

調査区の標高は北西端の表土で23.90ｍ、北東端23.57ｍ、東側の畑23.47ｍ、低位の水田が23.27ｍ、調査区南側の水田が23.25ｍ、西側の隣地水田面が23.31ｍである。調査区の埋土は北側中央から西側にかけては表土や旧水田層を切土して盛土造成を行っている。東側では客土や撹乱が旧水田層を被い、現状は畑や花木の植栽地となっていた。南側は地山を切土盛土した平坦面の上に水田耕作土が被う。これらの表土・客土と水田層、南側では地山ブロック主体の造成土を取り除いた粘土質の地山が道構検出面で、この面から柱穴や溝跡を検出した。地山面の標高は中央が約23.00ｍ、南側23.00～22.86ｍ、北側は中央より一段低い平坦面で22.80ｍである。南側の地山面では杭穴（ほにお穴）を多数検出した。これらは直径10㎝程度の円形で、埋土は水田耕作土と同様の灰黄褐シルトである。杭穴の図は省略した。

表１　土層

Ⅰ	表土・水田表土・撹乱等	10YR4/2灰黄褐シルト(表土・水田表土)・にぶい黄褐シルト(客土)
Ⅱ	客土(切土盛土)・造構作土	2.5Y7/4浅黄粘土主体＋灰黄褐シルト混・10YR4/3にぶい黄褐シルト(下位)
Ⅲ	水田・造成土・旧水田床土等	10YR4/2灰黄褐シルト～粘土主体　杭穴も同質　酸化鉄分層は黄褐シルト
Ⅳ	地山	2.5Y7/4浅黄粘土(南側)、7.5GY5/1緑灰・5GY5/1オリーブ灰粘土(北側)

（2）遺構（第３図）

柱穴並びに掘立柱建物跡

大小34個の柱穴を検出した。直径約80㎝の円形もしくは不整形を呈するものから直径20㎝に満たない小さなものがある。この内、調査区中央から南西側にかけて大きな柱穴プランが並び、敷地西端と南側の水田部分を追跡して検出した結果、東西二間×南北二間の規模を持つ掘立柱建物跡１棟を検出した。北側では３個の柱穴がＬ字形に2.50ｍ間隔で展開する。また１号溝と重複する形で小規模の柱穴を検出した。

１号掘立柱建物跡（第４図・写真図版３）

10個の規模の大きな柱穴により想定した二間×二間の建物跡で、Ｎ１°Ｅの軸線で南北棟に展開する。

建物規模は柱穴の中心で東西方向では北辺（柱穴31・２・３）と南辺（柱穴34・30・29）が5.60ｍ、柱間は西から2.80ｍ・2.80ｍである。南北方向は西辺（柱穴31・32・33・34）と東辺（柱穴３・４・26・29）が7.80ｍ、柱間は北から2.50ｍ・2.80ｍ・2.50ｍを測る。柱穴の形状は直径50～80㎝大の円形で、埋土の上位は不整形に掘り込まれた様相で掘方の埋土を被う。掘方は浅黄粘土もしくは緑灰～オリーブ灰地山ブロック粘土と灰黄褐シルトの混土が主体で、埋土中に黒色炭化物を少量含む。１号建物跡の柱痕跡は不明瞭で、柱穴の上位には埋土を再度掘り込んだような堆積土の乱れた窪んだ層位が認められることから、人為的に柱の抜取りを行ったものと判断した。調査区中央で検出した柱穴２・３・４は完掘したが、これ以外の西辺と南辺の７個の柱穴は検出のみに留めている。新旧関係では柱穴３が柱穴22に切られ、柱穴４が１号溝に切られている。柱穴12・21は柱穴４の精査後にプランを確認したが新旧関係は不明である。柱穴４の掘方は周囲の地山を浅く円形の土坑状に掘り込み、一度埋

め戻した後に中央部を円筒状に掘り込んだ様相に捉えられ、全体的にロウト形を呈する。遺物は柱穴３から羽口の小片、柱穴33の検出面からロクロかわらけが出土した。埋土状況と遺物の年代から12世紀の掘立柱建物跡と考えられる。

L字形に展開する柱穴

調査区北側で柱穴22・６・25がL字形に展開する。柱穴６と25がN93°Eの軸線で東西に2.50m、柱穴６と22がN３°Eの軸線で南北に2.50mの間隔を持つ。柱穴22が柱穴３を切る。規模や深さ・埋土が似るが、用途や年代は不明である。

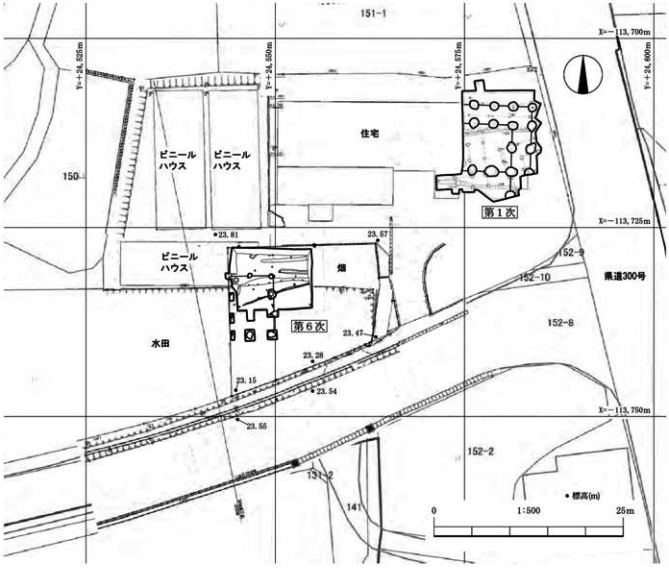
１号溝および１号溝と重複する小規模な柱穴

調査区東壁の中央から南西壁面にかけて検出した直線的な溝跡でN70～73°Eの軸線で地山を掘り込み、両端は東西の調査区域外に続く。検出長は10.30m、溝幅50～70cm、東壁断面では深さ18cmを測り、断面形はU字から浅い皿形を呈する。溝跡の西端と中央部分は削平により失われている。底面標高は西端と中央で22.83m、東端が22.91mであるが底面の所々に平坦な高まりがある。埋土は灰黄褐シルトに地山ブロックが10～30％混入する人為的な埋土が主体で比較的しまりがあり、黒色炭化物を少量含む。埋土には流水に伴う水成堆積を示すような砂質の層位は認められなかった。柱穴４と重複する部分では溝跡の掘り込みが浅く埋土も似ているが、柱穴４のプランが１号溝を切っておらず溝跡が新しいものと判断した。この１号溝と重複して小規模な柱穴(13～18・20・24・28)を検出した。この柱穴の埋土は灰黄褐シルトが主体で地山ブロックが少量混入し、溝跡の上面で検出できたものと１号溝の埋土を掘り下げた底面で柱穴と認識したものがある。１号溝・小規模な柱穴ともに遺物が出土せず詳細は不明である。12世紀以降に溝を掘り込み、これを布掘りとして小柱穴を伴う柵状の施設の可能性もある。

（３）遺　物（第８図・写真図版２）

遺構から少量の遺物が出土した。１と２はロクロかわらけ底部の破片である。１は柱穴１の埋土の下位から(底径4.5cm)、２は掘立柱建物跡の柱穴33検出面から出土した(底径7.4cm)。３は12世紀の常滑産陶器壺の胴部破片(６cm大)で遺構外から出土、４は柱穴３の埋土から出土した羽口の小破片、５は遺構外出土の羽口である(６cm大の破片)。この他に遺構外から近現代の陶磁器や雑物が少量出土した。

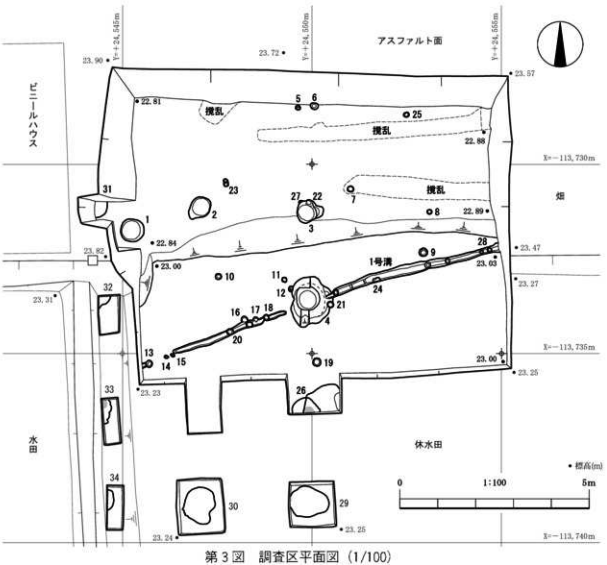
写真図版１　祇園Ⅰ遺跡第６次調査区　全景（南東から）



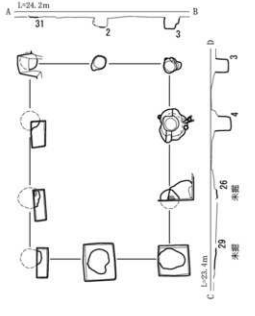
第2図　祇園Ⅰ遺跡第1次・第6次調査区　平面図（1/500）

4　まとめ

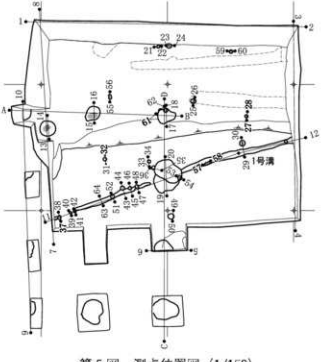
当調査区は平泉字祇園地区の八坂神社から南に約200ｍの地点に位置する。調査の結果、遺構は二間×三間の掘立柱建物跡１棟を含む大小34個の柱穴と溝跡１条を検出した。遺物は掘立柱建物跡の柱穴から12世紀のロクロかわらけ片や羽口片が出土した。この二間×三間建物跡と第１次調査の大型建物跡の軸線はほぼ正方位で一致し、共に柱穴の柱が抜き取られた様相であることが共通する。二棟の建物跡が12世紀の同時期に存在した可能性がある。１号溝並びに重複する小柱穴は小規模な柵状の施設と推定した。溝跡と小柱穴からの出土遺物は無く、年代は不明である。



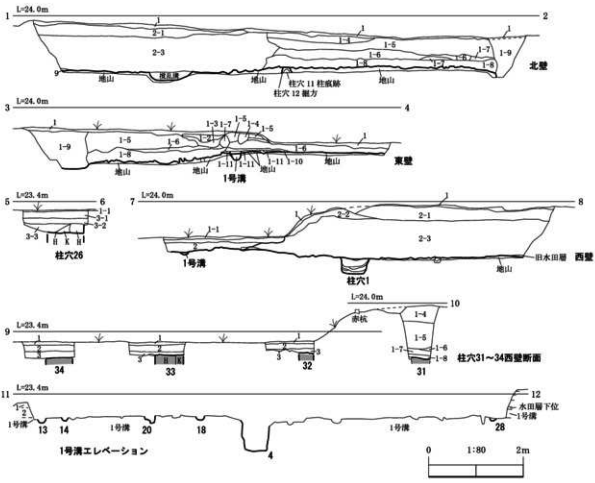
第３図　調査区平面図（1/100）



第４図　１号建物跡平面図・
エレベーション図(1/150)



第５図　測点位置図（1/150）



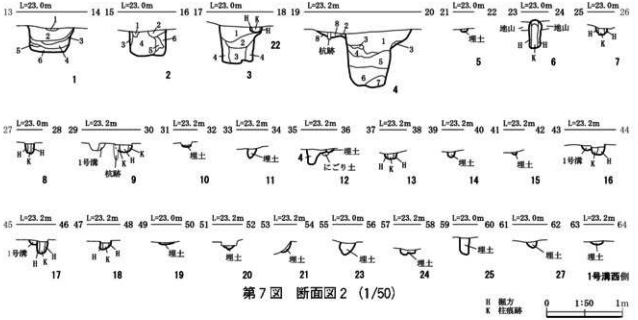
SP.1-2北壁・3-4東壁・7-8西壁断面

Ⅰ 1	表土	10YR4/2灰黄褐シルト主体
Ⅰ 1-1	水田表土	10YR4/2灰黄褐シルト3
Ⅰ 1-2	植栽穴	10YR4/3にぶい黄褐シルト
Ⅰ 1-3	砕石ラン	5Y6/1灰
Ⅰ 1-4	植栽痕跡	10YR4/2灰黄褐シルト主体
Ⅰ 1-5	客土	10YR4/2灰黄褐シルト
Ⅰ 1-6	客土	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/3浅黄地ブ粘土30%混　客土
Ⅰ 1-7	客土	10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土10%混
Ⅲ 1-8	旧水田層	10YR4/2灰黄褐シルト
Ⅰ 1-9	攪乱	上水道管埋設　1-5～1-8の埋土が混じる
Ⅲ 1-10	旧水田床土	2.5Y5/2暗灰黄シルトグライ化。上面に酸化鉄分層10YR5/6黄褐シルトが薄く被う
Ⅲ 1-11	旧地形埋土	10YR4/2灰黄褐シルト　1号溝の埋土に似るが地山ブロックをほとんど含まない
	1号溝埋土	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土10～30%混　砂質分がみられない
Ⅱ 2	客土	昭和40年代以降の造成土　地山粘土の切土盛土が主体　砕石ラン少量混
Ⅱ 2-1	耕作土	10YR4/3にぶい黄褐シルト　客土の上に乗る畑耕作土　ビニールハウスが建つ
Ⅱ 2-2	客土	昭和40年代以降の造成土　地山粘土の切土盛土が主体　砕石ラン少量混
Ⅱ 2-3	客土	2.5Y7/4浅黄（上位）～7.5GY5/1緑灰（下位）地山ブロック粘土主体＋10YR4/2灰黄褐シルト20%混 昭和40年代以降の造成土　所々に砕石ラン混入　下位に旧水田耕作土が残る

SP.5-6　柱穴26追跡トレンチ南壁

Ⅰ 1-1	水田表土	10YR4/2灰黄褐シルト
Ⅲ 3	水田耕作土	10YR4/2灰黄褐シルト
Ⅲ 3-1	水田造成土	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土～7.5Y5/2灰オリーブ地山ブロック10%混　切土盛土層
Ⅲ 3-2	水田造成土	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック40%混　グライ化して7.5Y6/2灰オリーブとなる
Ⅲ 3-3	攪乱状	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土　3-2に似る　柱穴26東側を掘り込む窪み

第6図　断面図1（1/80）



第７図　断面図２（1/50）

柱穴1　1　2.5Y4/1黄灰粘土、酸化して2.5Y7/4浅黄＋5Y4/2灰オリーブ地山ブロック粘土20%＋1ミリ大のC1%混
2　2.5Y4/1黄灰粘土＋5Y4/2灰オリーブ地山ブロック粘土10%＋5ミリ大炭化物（C）C1%混
3　2.5Y4/1黄灰粘土＋5Y4/2灰オリーブ地山ブロック粘土20%混
4　5Y4/2灰オリーブ地山ブロック粘土主体＋2.5Y4/1黄灰粘土10%混
5　5Y4/2灰オリーブ地山ブロック粘土主体＋2.5Y4/1黄灰粘土20%混　4に似る
6　2.5Y4/1黄灰粘土主体＋5Y4/2灰オリーブ地山ブロック10%混
柱穴2　1　7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土主体
2　2.5Y4/1黄灰粘土主体＋7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土1～3cm大で40%混
3　7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土主体
4　10Y4/2オリーブ灰粘土主体＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック20%混
5　10Y6/1灰地山ブロック粘土＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土30%混
6　5Y3/1オリーブ黒粘土＋7.5GY5/1緑灰地山ブロック40%混
柱穴3　1　7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土主体＋2.5Y4/1黄灰粘土20%混
2　7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土主体＋2.5Y4/1黄灰粘土10%混
3　2.5Y4/1黄灰粘土＋7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土20%混
4　7.5GY6/1緑灰地山ブロック粘土主体＋2.5Y4/1黄灰粘土20%混混
柱穴4　1　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土20%＋C3～10ミリ大2%混
2　10YR4/2灰黄褐シルト
3　2.5Y6/3にぶい黄シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土40%混
4　10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土40%混
5　2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土＋10YR5/2灰黄褐シルト40%混
6　10YR4/1褐灰粘土＋10Y6/2オリーブ灰地山ブロック粘土30%混
7　7.5Y7/1灰白粘土＋2.5Y4/1黄灰粘土20%混　グライ化
8　2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック主体＋10YR4/2灰黄褐シルト20%　柱抜取り時の掘削跡の埋土か
柱穴5　埋土　10YR4/1褐灰粘土＋7.5Y5/2灰オリーブ地山ブロック粘土40%混
柱穴6　掘方　10Y6/2オリーブ灰粘土地山ブロック＋10YR4/2灰黄褐シルト30%
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト＋10Y6/2オリーブ灰粘土地山ブロック40%混
柱穴7　掘方　5Y5/2灰オリーブ地山ブロック粘土＋2.5Y4/2暗灰黄シルト20%混
柱痕跡　2.5Y4/2暗灰黄シルト主体＋5Y5/2灰オリーブ地山ブロック粘土20%混
柱穴8　掘方　2.5Y4/2暗灰黄シルト主体＋10Y5/2オリーブ灰地山ブロック粘土10%混
柱痕跡　2.5Y4/2暗灰黄シルト主体＋10Y5/2オリーブ灰地山ブロック粘土10%＋5ミリ大のC1%混
柱穴9　掘方　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土30%混
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土10%＋C1%混
柱穴10　埋土　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%
柱穴11　埋土　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%＋3～5ミリ大のC1%混
柱穴12　埋土　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土30%混　小穴
柱穴13　掘方　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%混
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土10%混
柱穴14　埋土　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%混　不整形な凹み　小穴
柱穴15　埋土　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%混　不整形な凹み　小穴
柱穴16　掘方　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土主体＋10YR4/2灰黄褐シルト10%混
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト＋地山ブロック5%＋C5ミリ大で1%混
柱穴17　掘方　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30%混
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%混
柱穴18　掘方　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土主体＋10YR4/2灰黄褐シルト20%混
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土10%混
柱穴19　埋土　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土主体　地山底面との境に2.5Y4/2暗灰黄シルトが薄く入る浅い凹み
柱穴20　掘方　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土主体＋10YR4/2灰黄褐シルト10%混
柱痕跡　10YR4/2灰黄褐シルト＋地山ブロック5%＋C5ミリ大で1%混
柱穴21　埋土　2.5Y5/3黄褐シルト＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土20%混

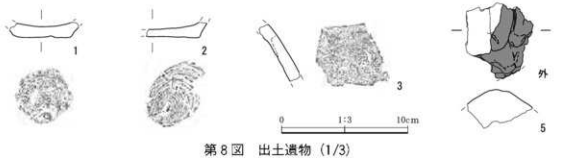
柱穴22	掘方	7.5GY5/1緑灰地山ブロック粘土＋2.5Y4/2暗灰黄シルト20%混
	柱痕跡	2.5Y4/2暗灰黄シルト主体＋10Y4/2オリーブ灰地山ブロック20%混
柱穴23	埋土	2.5Y4/2暗灰黄シルト＋7.5GY6/1緑灰地山ブロック粘土混
柱穴24	埋土	2.5Y4/2暗灰黄粘土～シルト主体
柱穴25	埋土	2.5Y4/2暗灰黄粘土主体＋7.5Y5/2灰オリーブ地山ブロック20%混
柱穴26	掘方	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック30%混＋2ミリ大のC1%未満混
	柱痕跡	10YR4/2灰黄褐シルト～2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック20～30%混
柱穴27	埋土	2.5Y4/2暗灰黄シルト＋7.5Y5/2灰オリーブ地山ブロックシルト40%＋5ミリ大のC1%混
柱穴28	埋土	10YR4/2灰黄褐シルト主体
柱穴29	埋土	10YR4/2灰黄褐粘土＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土20～30%混
柱穴30	埋土	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土1～5cm大30%＋10YR7/6明黄褐粘土10%混＋3～10ミリ大のC1%混
柱穴31	掘方	2.5Y4/2暗灰黄粘土主体＋5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土30%混　2～3ミリ大のC1%混
柱穴32	埋土	10YR4/2灰黄褐粘土＋2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック30%＋1～5ミリ大のC1%混
柱穴33	掘方	10YR4/2灰黄褐粘土＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土2～3cm大で30%混、3～10ミリ大のC3%混
	柱痕跡か	10YR4/2灰黄褐粘土～シルト主体2.5Y7/3浅黄地山ブロック5%＋C1%混　ロクロかわらけ片出土
柱穴34	埋土	10YR4/2灰黄褐粘土主体＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土20～30%混＋2～15ミリ大のC3%混
1号溝	埋土	10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土20～30%＋2ミリ大のC1%混
地山(北側・南側)		7.5GY5/1緑灰粘土　グライ化（北側）・2.5Y7/4浅黄粘土（南側）

表2　遺構（2）　柱穴

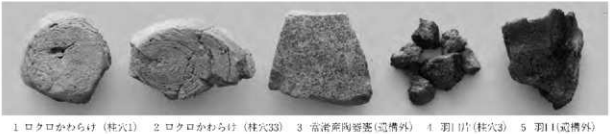
No	掘方(cm)	形状	柱痕跡(cm)	形状	底面標高(m)	
1	67×62	円	32×23	楕円	22.45	※2
2	50×65	楕円	40×22	楕円	22.36	
3	70×55	不整	不明	－	22.32	※3
4	110×80	楕円	不明	－	22.20	
5	11×13	円	不明	－	22.73	
6	15×15	円	10×10	円	22.49	
7	21×18	円	13×10	楕円	22.67	
8	13	円	9×7	円	22.66	
9	23	円	13	円	22.86	
10	16×15	円	不明	－	22.96	
11	13×12	円	不明	－	22.88	
12	16	円	不明	－	22.88	
13	16×19	楕円	不明	－	22.97	
14	13× 8	楕円	不明	－	22.87	
15	14× 8	楕円	不明	－	22.87	
16	18×17	円	不明	－	22.84	
17	16×14	円	不明	－	22.78	

No	掘方(cm)	形状	柱痕跡(cm)	形状	底面標高(m)	
18	12×16	楕円	不明	－	22.85	
19	23×24	円	不明	－	22.87	
20	19	円	不明	－	22.83	
21	17×15	楕円	不明	－	22.85	
22	18	円	13×14	円	22.73	
23	10	円	不明	－	22.64	
24	10	円	不明	－	22.60	
25	12	円	不明	－	22.56	
26	72	円	30	円	未掘	
27	14	円	不明	－	22.70	
28	14	円	不明	－	22.83	
29	104×82	楕円	不明	－	未掘	
30	82×98	楕円	不明	－	未掘	
31	35以上	不明	不明	－	未掘	
32	30以上	不明	不明	－	未掘	
33	35以上	不明	不明	－	未掘	※1
34	50以上	不明	不明	－	未掘	

（直径：東西×南北cm　※1・※2　ロクロかわらけ出土　※3　羽口片出土）



第8図　出土遺物（1/3）



1 ロクロかわらけ（柱穴1）　2 ロクロかわらけ（柱穴33）　3 常滑甕胴部窯（溝外）　4 羽口片（柱穴3）　5 羽口（溝外）

写真図版2　出土遺物

祇園Ⅰ遺跡第６次調査区　全景（北東から）

第６次調査区　掘立柱建物跡（南から）

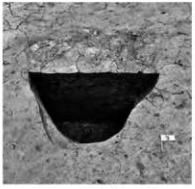
写真図版３

柱穴33かわらけ出土（東から）

柱穴1下位かわらけ出土（東から）

柱穴1と柱穴31検出（東から）

柱穴4断面（東から）



柱穴3断面（東から）

1号溝東側と柱穴28（南東から）

第6次調査区東側と第1次調査区の現状（南西から）

写真図版4

中尊寺跡第93・95次発掘調査

1　調査要項

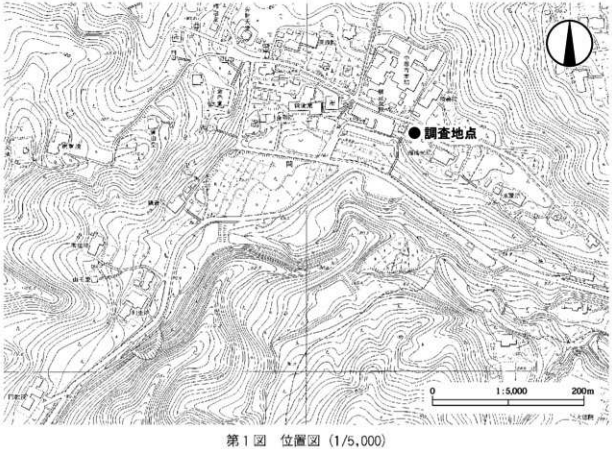
調査地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字衣関66番地
調査面積	93次：20㎡　95次：100㎡
調査期間	93次：令和元年５月27日～６月19日
	95次：令和２年４月３日～５月26日
調査原因	薬師堂改築のため
調査担当	鈴木江利子

2　調査の経緯

明治18年に再建された中尊寺薬師堂は、桁行三間、梁行二間、屋根は寄棟造りで向拝一間を葺き降ろしている堂である。御堂の正面は東（南東）を向いている。経年劣化によって雨漏り等支障が生じてきており、解体して桁行三間、梁行四間の堂を新たに建立することとなった。

このため令和元年度に試掘調査（93次）並２年度に本調査（95次）を実施した。95次調査では、薬師堂解体後、礎石の位置を記録した。礎石の撤去後、建築予定範囲の調査に移行した。95次調査では試掘で確認した明治以前と思われる４個の礎石に加え、新たに３個の礎石を検出した。調査結果を踏まえ、新しい薬師堂建築の際には、検出した礎石を保護した施工としている。

周辺地形は、お堂の周りは平坦であるが、参道側である北側を除き下り勾配である。西や東、南側も山の斜面であり、北東側は南東から上り坂の参道が平坦になる箇所である。調査では、北側は平坦に地山が切土され、中央から南・東側で斜面に盛土している状態を確認した。



第１図　位置図（1/5,000）

3　調査の成果

検出遺構：盛土整地、礎石建物跡２棟、溝跡２条

盛土整地は明治のお堂（薬師堂）を建てる際に造成した層位である。礎石建物は今回解体・除却している礎石建物１（薬師堂）と、これより古い礎石建物２である。溝跡２条のうち１条は、調査区中央から南に流れている。１条は礎石建物１に伴う雨落ち溝である。

（１）盛土整地（図版７・９・11 写真図版１・２）

盛土は、近世・近代に二度薬師堂を建立した際に北西側を切土し、発生土を南東側に盛土していた。

Ⅰ	表土・盛土撹乱	現代の表土　厚さ数cm～30cm
Ⅱ	明治以降の盛土	解体した薬師堂（明治十八年建立）が建てられた際に行われた整地と考えられる。
Ⅲ	近世の盛土	近世の礎石（礎石１～７）に伴う盛土。寺伝では明暦三（1657）年に、明治以前の薬師堂が建立したとされている。
Ⅳ	地山	調査区全域に広がる。概ね北から南に下る斜面であったが、近世以降の薬師堂建立時に堂周辺を削平している。

95次断面９－10では、解体した薬師堂を建立した際に造成したⅡ層が10～40cm程堆積し、その下に近世段階での整地層であるⅢ層が10～40cm程堆積している。Ⅱ層は中央から南東側にかけて、Ⅲ層は南東側を中心に堆積している。

Ⅱ・Ⅲ層の帰属時期であるが、Ⅱ層は解体した薬師堂基壇と同一層であることから、明治十八年以降、Ⅲ層はⅡ層下であることから、近世と判断した。

93次調査で、盛土には、浅黄～にぶい黄橙色で白色に近い色調の地山ブロックが多く混じり、北西側の地山を削平し低い側に層位的に堆積している状態が確認できた。数回あるいは数時期に分けて傾斜部を埋めて平坦地を広げている状況である。断面７－８では盛土の層位が顕著であるが、ほぼ明治の解体した薬師堂に伴うものと考えられる。また近世のお堂を建てる際にも平場の確保をしている可能性がある事から、中心域に近い盛土においては、明治以外も考えたい。第７図断面15－16の18層は周辺よりも白色が強く地山の削平土が多く混じる状態である。断面７－８の７～９層よりも前に埋めている可能性があり、そうであればⅢ層に相当する。

盛土は深い箇所で40～50cmあり、下には旧表土と思われる褐色や自然堆積層が広がっている。旧表土や自然堆積層の下は遺構や地山、地山の風化や崩壊層になっている。

調査区北東側の断面23－24にある溝状の箇所は範囲が曖昧であり、流水の痕跡も認められなかった。整地の可能性がある。

（２）礎石建物１（図版４・５・８ 写真図版１・２）

明治の薬師堂を除却し礎石が現れた段階で礎石の配置図を作成した（第４図）。礎石は54個で大きさが30～60cmである。縁にはやや小ぶりなものを用いているが南西辺は傾斜しているためか大きめの石を用いている。また身舎の４隅（A２・E２・A８・E８）には55～102cmの大ぶりの礎石を充てている。大きさについては表土を避けきれていないため、上記より大きい場合がある。N27°Eの方向で、柱間隔（礎石間隔）は0.9～1.05mを基本としている。

（３）礎石建物２（図版２・３・６・10 写真図版１・３）

93次では御堂南西側で礎石と思われる４個の石を検出している。95次調査で礎石５～７の３か所を確認した。

規模は南西辺で1間（礎石1・2・3）2.1m、北西辺で1間（礎石1・4・5）2.2mを測る。柱間寸法は南西辺が礎石1・2間は1.0m、2・3間は1.1mである。北西辺は北から1m、1.2mである。礎石5・6・7の間隔は2.0と1.0mで、5・6の間に礎石は検出していない。また礎石7は平坦な面を見せていない事から動いている可能性がある。礎石の配置はN27～28°Eで、明治の薬師堂の向きとほぼ同じである。礎石の大きさは30～50cmで、礎石建物1と比べるとやや小ぶりである。Ⅱ層の除去中に検出したことから、明治に建立した薬師堂の前身建物と考えられる。

（4）溝跡（図版2・6・7・11 写真図版2）

北東から南西に向いている溝状の遺構を検出している。検出距離は7.8m、幅は0.6～1.3m、深さは0.15～0.4mである。下層に砂の堆積など流水を示す痕跡は確認できなかったが、自然に埋まっている。底は、南側に下がり、調査区外に向かう。北側は薬師堂の下に向かっていることからも盛り土される以前の遺構であり、周辺では一番古い状況である。地形に沿って、南東側に下がっている事から、自然の落ち込みと判断した。拳大から頭大の石が数個検出したが、遺物は出土していない。

調査区西側にある溝は、礎石建物1に伴う雨落ち溝で現状のものである。

4　出土遺物

今回の調査ではかわらけ小細片、陶器、須恵器、近世陶磁器、古銭等を出土した。かわらけは旧表土からの出土が多い傾向であるが、表土や除却した薬師堂礎石掘方などからも出土している。陶器も礎石の掘方から出土している。

近世陶磁器は、礎石の掘方や礎石除去後に埋まった土から、古銭も礎石掘方や、礎石を抜いた跡から出土した。

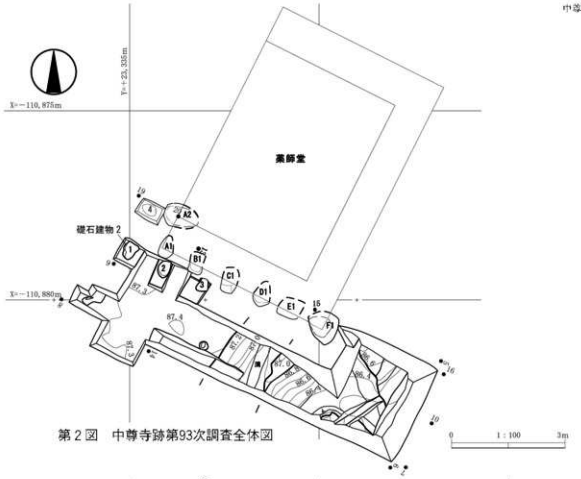
5　まとめ

○明治18年薬師堂建立時、及び近世の前身建物造営時に北西側を切土し、発生土を南東側に盛土した状況が認められる。

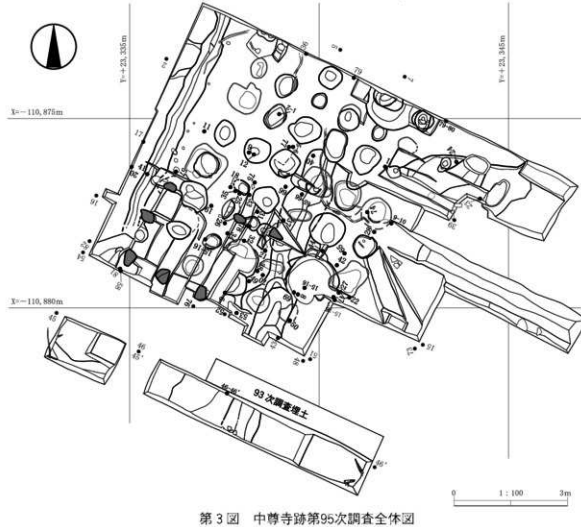
○Ⅱ層面で確認した近世の礎石建物は、解体した薬師堂の前身建物と考えられる。

○Ⅲ層下では溝1条を検出したが、遺物の出土もなく年代は不明である。かわらけを出土する面は旧表土と思われる層位で、溝埋土より上の堆積である。

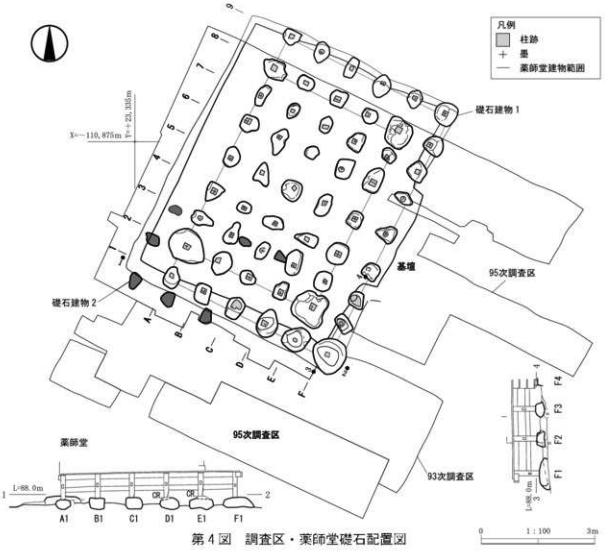
薬師堂礎石配置状況（北東から）



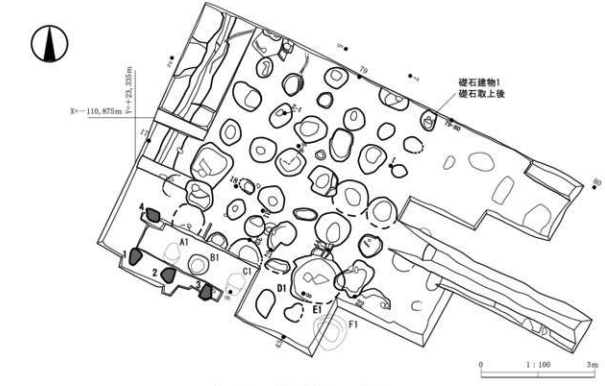
第２図　中尊寺跡第93次調査全体図



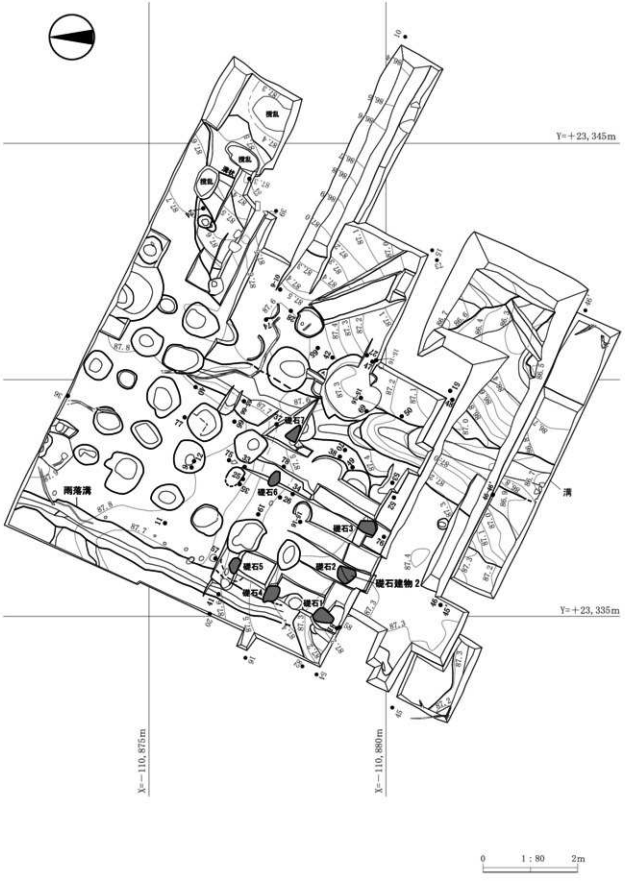
第３図　中尊寺跡第95次調査全体図



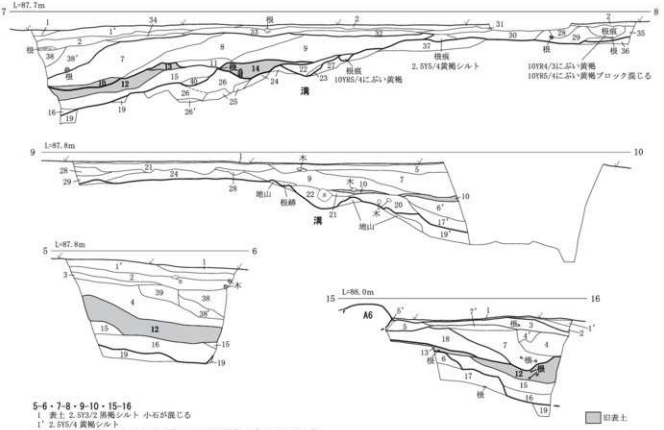
第4図　調査区・薬師堂礎石配置図



第5図　薬師堂礎石堀り方図



第6図　中尊寺跡第93・95次調査完掘図

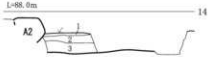


5-6・7-8・9-10・15-16

1 表土 2.5Y3/2 黒褐シルト 小石が混じる
1' 2.5Y5/4 黄褐シルト
2 2.5Y4/2 暗灰黄シルト 2.5Y7/2灰黄シルトと石が混在 西寄りに2.5Y3/2黒褐と白色ブロック混じる
3 10YR5/4にぶい黄褐シルト 2.5Y7/2灰黄粒状に混じる
4 2.5Y5/4黄褐シルト～砂 2.5Y7/3灰黄シルト混
4' 4と同 根が入る
5 礫右脇方 10YR5/4にぶい黄褐砂 10YR6/4にぶい黄橙と10YR4/2灰黄褐シルトブロック混入 炭少含
5' 10YR4/2灰黄褐砂 礫右との隙間に入り込んだか
6 地山崩壊層か 10YR5/4にぶい黄褐シルト 10YR4/6褐の粘土混入する 炭少し含
6' 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/4 にぶい黄橙ブロック混入
7 盛土 2.5Y5/4 黄褐シルトに 10YR6/4 にぶい黄橙の砂含
7' 10YR5/4にぶい黄褐シルト やわらかい 西側に10YR7/4にぶい黄橙のシルトブロック混入
8 盛土 10YR5/4 にぶい黄褐シルト しまりない 10YR7/3 にぶい黄橙軽石混入
9 盛土 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙石(シルト)混入
10YR7/6 明黄褐の石も少し混じる
10 10YR4/3 にぶい黄褐シルト～砂 10YR6/4 にぶい黄橙のシルトブロック少し混じる
11 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙の石と 10YR6/6 明黄褐のシルトブロック少し含
12 旧表土 10YR4/4褐シルト しまりない 2.5Y7/2灰黄シルトや同色岩石混入
13 旧表土 10YR6/2灰黄褐砂 鉄分の集積あり 旧表土
14 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 自然堆積層 しまりなくやわらかい 10YR7/4 にぶい黄橙ブロック少し混じる
15 自然堆積 10YR4/6褐シルト 粘性少し有 2.5Y6/4にぶい黄の岩状ブロック少し混入
16 自然堆積 10YR5/6黄褐シルト 粘性少し有 しまりない
17 地山崩壊層か 10YR5/6黄褐シルト 粘性少し有 しまりない
17' 10YR6/6 明黄褐シルト 10YR5/6 黄褐粘土ブロック混入
18 2.5Y5/4 黄褐シルト～砂 2.5Y7/1 灰白～7/2 灰黄シルトや岩粒多く混入
19 地山 10YR5/6 黄褐シルト
19' 10YR7/4 にぶい黄橙シルト やわらかい 自然堆積
20 10YR7/4 にぶい黄橙シルト やわらかくしまりない 自然堆積
21 10YR4/6 褐シルト 鉄分含
22 廃堆土 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙ブロックや岩ブロック少し混じる 根が入りやわらかい層
23 廃堆土 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 10YR7/3 にぶい黄橙(地山)混じる
24 地山 2.5Y7/3 浅黄シルト やわらかい 2.5Y6/3 にぶい黄シルト混入
25 2.5Y7/4 浅黄砂 地山起源
26 地山 10YR6/6 明黄褐シルト しまりない 40 の束寄りは 10YR6/6 明黄褐で囲くしまる
26' 地山 10YR6/6 明黄褐
27 地山 10YR6/6 明黄褐シルト 2.5Y7/3 浅黄混じる
28 10YR6/4 にぶい黄橙岩あり 砂っぽい 2.5Y5/3 黄褐シルト混入
29 10YR6/4 にぶい黄橙 やわらかい
30 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 2.5Y7/3 浅黄ブロック混入 地山起源
31 2.5Y5/4 黄褐シルト 2.5Y6/4 にぶい黄シルト混じる
32 2.5Y5/4 黄褐シルト
33 2.5Y3/2 黒褐シルト 2.5Y4/1 黄灰混じる
34 2.5Y4/4 オリーブ褐シルト 2.5Y3/3 暗オリーブ褐シルト混じる 根を多く含
35 2.5Y7/2 灰黄と 2.5Y4/2 暗灰黄シルト 2.5Y7/2 灰黄シルトと石が混在
36 地山 2.5Y7/2 灰黄
37 地山 2.5Y7/2 灰黄
38 2.5Y4/3 オリーブ褐(鉄錆状あり)
38' 2.5Y5/4 黄褐 2.5Y7/1 灰白ブロック混入
39 2.5Y5/4 黄褐 2.5Y7/1 灰白ブロック混入
40 10YR5/6 黄褐粘土 10YR4/4 褐シルト混入 くぼみ状根の締あり

19-20

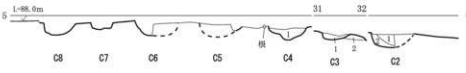
1 表土 10YR3/2黒褐シルト 根や岩がある
2 10YR5/2灰黄褐シルト 10YR4/3にぶい黄褐混入 石が入る木の根あり



13-14

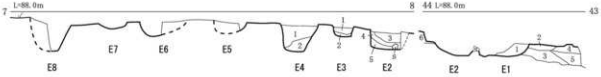
1 表土
2 10YR3/4暗褐シルト 10YR6/4にぶい黄橙シルトブロック混入
3 10YR5/4にぶい黄褐 やわらかい 10YR7/4にぶい黄橙シルトブロック少し混じる

第7図 93次断面図



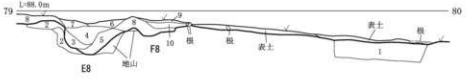
5-6
1 礫石抜き跡 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 木の葉と10YR7/3 にぶい黄橙シルトブロックなどが混じる
2 10YR8/3 浅黄橙 砂ブロック主 10YR5/4 にぶい黄褐シルトと砂分少し含

31-32
1 10YR6/3 にぶい黄橙シルトブロック 10YR4/4 褐シルトブロック混入 砂分少し混じる
2 10YR7/4 にぶい黄橙シルト

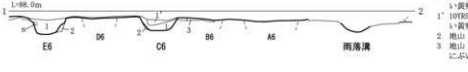


7-8
1 10YR3/4 暗褐シルト 2.5Y7/4 浅黄砂ブロックと 10YR4/3 にぶい黄褐シルト、木片など混じる
2 10YR7/4 にぶい黄橙シルト
3 10YR4/4 褐シルト 10YR8/3 浅黄橙粒状に混じる 4との間に木の層が入る
4 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 5との間に 10YR6/3 にぶい黄橙の根の跡有
5 10Y25/4 にぶい黄褐 ややしまり有

43-44
1 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR7/3 にぶい黄橙シルトブロックと 10YR4/4 褐シルトブロックなどが混じる 下方は砂っぽい
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR4/4 褐と 10YR8/3 浅黄橙砂ブロックなどが混じる
3 10YR5/4 にぶい黄褐(～10YR5/6 黄褐) 炭含 10YR6/6 明黄褐と 10YR8/1 灰白砂ブロック含
4 10YR6/3 浅黄橙岩・砂ブロック主体 10YR6/3 にぶい黄橙砂少し混入
5 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 上方は黄褐に近い色で砂っぽい
6 地山 10YR8/3 浅黄橙主体



79-80
1 10R5/6 黄褐シルト～粘土 10YR6/4 にぶい黄橙シルト含 地山崩壊あるいは地山根が入り混含
2 地山 10YR7/3 にぶい黄橙 固くしまる地山 掘方脇の方は岩粒とカーボンを含みやや粗い
3 10YR7/3 にぶい黄橙シルト 10YR6/4 にぶい黄橙シルト混じる 炭・表土層混入
4 抜き取り跡 10YR6/3 にぶい黄橙シルト 根が入り表土層と岩粒などが混じる
5 掘方 10YR7/4 にぶい黄橙シルト 下の地山よりゆるい掘方層
6 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 10YR5/4 にぶい黄褐混じる 抜き跡の崩壊層
7 10YR6/4 にぶい黄橙 6より均一な土 抜き取り崩壊
8 10YR8/2 灰白シルト 砂分含 層土
9 表土 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 木の根が多く入る
10 埋め土 10YR7/4 にぶい黄橙シルト 10YR6/6 明黄褐と 2.5YR/3 挟黄などのシルトブロック混じる



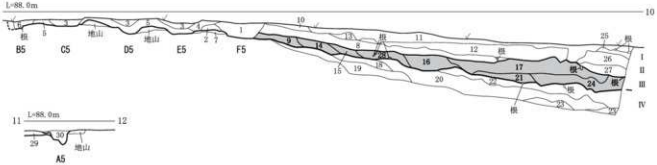
1-2
1 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 10YR5/4 にぶい黄褐シルト混入 根など混じる
1' 10YR5/3 にぶい黄褐シルト 10YR5/4 にぶい黄褐と細かい木片入る
2 地山 10YR7/3 にぶい黄橙シルト
3 地山 10YR7/3 にぶい黄橙 上方に 10YR6/3 にぶい黄橙等の土が堆積している

17-18
1 10YR7/4 にぶい黄橙シルトブロック 10YR4/4 褐シルトブロック混入 砂分少し含 礫石設置の掘り込み
2 10YR4/4 褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙ブロック、木の葉・根など含 解体時の埋め土
3 10YR5/4 にぶい黄褐 しまりない
4 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR7/2 にぶい黄橙ブロックと砂含

21-22
1 礫石抜き取り 10YR5/4 にぶい黄褐シルト やわらかい 根の左側上方には 10YR7/4 にぶい黄橙と 6/6 明黄褐のブロック混じる
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト しまりない 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック混入 炭少し含
3 10YR6/3 にぶい黄橙シルト 10YR8/3 浅黄橙ブロック混入
4 P2 か 10YR6/4 にぶい黄橙シルト～砂 10YR6/6 明黄褐シルトブロック混入
5 10YR7/4 にぶい黄橙砂ブロック主体 10YR5/4 にぶい黄褐シルト少し混じる
6 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
7 10YR6/4 にぶい黄橙シルト～砂 10YR5/4 にぶい黄褐シルトブロック混入
8 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/4 にぶい黄橙砂ブロック混入
9 10YR6/4 にぶい黄橙シルト～砂 砂分少し混じる
10 10YR6/4 にぶい黄橙シルト～砂 10YR5/6 黄褐シルトブロック少し混じる

0 1:60 2m

第8図 95次断面図（1）

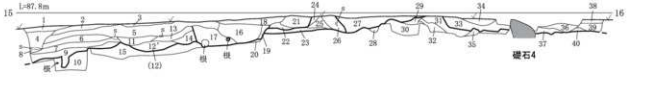


9–10

1 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR6/6 明黄褐シルトブロック混入
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト サラサラしている 自然
3 今回解体時埋め土 薬や木片など出る 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙砂ブロックなど混じる
4 今回解体時埋め土 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 10YR8/2 灰白粒混入（掘方と記入してあるが解体埋め土なのか）
5 礫石設置穴か 10YR6/4 にぶい黄橙シルト しまりない 10YR8/3 浅黄橙シルトブロック混入
6 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/3 浅黄橙ブロック混入 上方に3層薄く乗る 礫層
7 地山 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/2 灰白砂ブロック混入
8 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂 白い粒石（軽石）・炭少し混じる
9 10YR5/6 黄褐シルト 10YR6/8 明黄褐シルトブロック混入
10 表土 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂 しまり有
11 表土 砂石
12 10YR6/8 明黄褐シルト 10YR8/3 浅黄橙シルトブロック多く混入 10YR5/4 にぶい黄褐シルト混入 下方に 10YR4/4 褐シルトブロック少し混入 炭粒少し含
13 10YR5/4 にぶい黄褐～4/4 褐シルト 8 層の白い粒含
14 10YR5/6 黄褐シルト しまりある 10YR5/4 にぶい黄褐シルトが混じる
15 10YR5/6 黄褐シルト 10YR6/6 明黄褐ルトブロック混入
16 10YR4/6 褐粘土 木の根が細く入っていて しまりある
17 10YR4/3 にぶい黄褐 粘性あるがしまりがない 木の根が多く入る
18 10YR6/6 明黄褐粘土 地山
19 10YR6/6 明黄褐粘土 木の根・炭少し入る しまりある 地山
20 7.5YR5/6 明褐シルト 木分含み粘性ある 10YR4/3 にぶい黄褐粘土ブロック混じる 地山
21 7.5YR5/6 明褐粘土 炭少し混じる
22 7.5YR5/6 明褐粘土 木の根が入り 10YR4/3 にぶい黄褐シルトが混じる 地山
23 7.5YR5/6 明褐シルト 木分含み粘性ある 地山
24 10YR3/3 暗褐シルト 木の根多い 炭少し混じる 旧表土
25 10YR4/4 褐シルト やわらかくしまりない
26 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック混入
27 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR5/4 にぶい黄褐粘土ブロックや 10YR7/3 にぶい黄橙シルトブロック混入
28 10YR5/6 黄褐シルト～粘土 木の根多く入る

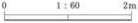
11–12

29 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/3 浅黄橙の小ブロック含
30 抜き取り跡 10YR4/3 にぶい黄褐と 5/4 ブロック、木片入る

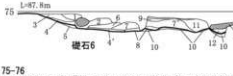


15–16

1 現代埋め土 10YR4/4 褐 10YR7/3 にぶい黄橙シルトが重なっている
2 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 表土か
3 現表土 10YR3/3 暗褐と草根・砂などと堆積
4 10YR7/4 にぶい黄橙ブロック主 10YR5/2 灰黄褐シルト混入
5 10YR4/3 にぶい黄褐シルト～砂 10YR7/4 にぶい黄橙砂ブロック径4より細かいブロックで混入
6 10YR5/4 にぶい黄褐シルト やわらかい 10YR7/4 にぶい黄橙砂ブロック混入
7 10YR7/4 にぶい黄橙ブロック主 10YR4/3 にぶい黄褐少し混じる
8 10YR4/3 にぶい黄褐シルト
9 10YR4/4 褐 木の根入る
10 地山 10YR4/6 褐シルト やや しまりある
11 10YR4/3 にぶい黄褐シルト～砂 10YR6/4 にぶい黄橙砂ブロック少し混じる
12 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR3/3 暗褐シルト
12' 12 と同 暗褐の混じり少なない
13 10YR4/4 褐 10YR6/3 にぶい黄橙 白い軽石ブロック混入
14 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 白い粒少し混じる
15 地山 10YR5/6 黄褐シルト(～砂)
16 礫石抜き跡 10YR5/4 にぶい黄褐シルト しまりない 木の葉や根、10YR6/4 にぶい黄橙ブロック少し混じる
17 礫や根ま跡 10YR5/4 にぶい黄褐シルト しまりない 10YR6/3 にぶい黄橙砂混入 10YR8/2 灰白(軽石)砂混入
18 表土 10YR4/4 褐シルト～砂
19 掘え跡か根か 10YR5/4 にぶい黄褐 しまりない
20 17 層と同だが固くしまる 10YR6/8 明黄褐砂ブロック混入
21 17 層と同 掘え跡か抜き跡 鉄分含
22 10YR7/4 にぶい黄橙ブロック主 10YR4/3 にぶい黄褐少し混じる
23 10YR5/4 にぶい黄褐砂 地山上の堆積か
24 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
25 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック少し混じる
26 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック多く含 しまりある
27 礫石抜き跡 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 木の葉と 10YR7/3 にぶい黄橙シルトブロックなどが混じる
28 10YR8/3 浅黄橙砂ブロック主 10YR5/4 にぶい黄褐シルトと鉄分少し含
29 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/4 にぶい黄橙ブロック少し混じる
30 10YR4/4 褐シルト しまりまでない
31 根り込み跡 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/3 浅黄橙砂ブロック混入
32 10YR6/4 にぶい黄橙シルト やわらかい
33 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
34 表土 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック混入
35 10YR6/4 にぶい黄橙シルト～砂 やや しまる
36 10YR5/4 にぶい黄褐砂 上方は 10YR4/3 にぶい黄褐シルトブロックと 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック混じる
37 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
38 表土 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 砂と鉄分が層位状に堆積する
39 10YR5/4 にぶい黄褐砂 39 の下は 10YR8/3 浅黄橙固くしまる地山
40 10YR7/4 にぶい黄橙砂 しまりある

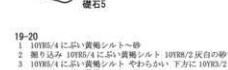


第9図　95次断面図（2）

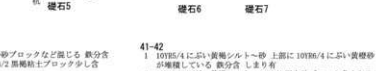


75-76
1 10YR7/4 にぶい黄橙シルト 10YR8/2 灰白岩ブロック混入(右周辺は岩のブロックが少ないように見える) 砂混じる
2 10YR7/4 にぶい黄橙
3 10YR8/3 浅黄橙シルト 固くしまる
4 10YR5/4 にぶい黄褐砂 10YR7/3 にぶい黄橙ブロック、鉄分・炭少し含
4' 10YR5/4 にぶい黄褐砂 4 のような混じりが少ないが同じ流れだと思われる
5 地山 10YR8/3 浅黄橙砂
6 10YR6/4 にぶい黄橙 やわらかい
7 10YR6/4 にぶい黄橙 やわらかい 10YR4/2 灰黄褐シルトブロックと岩粒が混入する 6 層との境が不明瞭
7' 7 層よりも黒味をおびている 10YR4/3 にぶい黄褐砂 炭と 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック混入
8 10YR7/4 にぶい黄橙砂 しまりない 10YR6/6 明黄褐ブロック少し含
9 10YR7/4 にぶい黄橙 地山ブロック層
10 10YR7/3 にぶい黄橙砂 地山崖上層(地山)
11 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 炭と根が混じる
12 10YR6/4 にぶい黄橙砂～シルト 10YR5/3 にぶい黄褐シルトブロック少し混じる

57-58
1 10YR6/3 にぶい黄橙砂 10YR5/4 にぶい黄褐砂混入
2 10YR5/4 にぶい黄褐砂 2.5Y7/3 浅黄砂ブロック混入 礫石の掘り込み
3 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック 10YR5/4 にぶい黄褐シルト混入
4 10YR5/3 にぶい黄褐シルト～砂 10YR5/4 にぶい黄橙小ブロック混入
5 10YR3/2 黒褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック混入

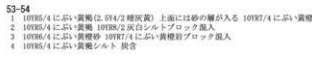


19-20
1 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
2 掘り込み 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/2 灰白の砂ブロックなど混じる 鉄分含
3 10YR5/4 にぶい黄褐シルト やわらかい 下方に 10YR3/2 黒褐粘土ブロック少し含
4 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
5 10YR5/4 にぶい黄褐砂
6 4 層に似る 白ブロック多い



41-42
1 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂 上部に 10YR6/4 にぶい黄橙砂が堆積している 鉄分含 しまり有
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/2 灰白砂ブロック多く入る
3 10YR5/4 にぶい黄褐砂 炭少し混じる

37-38
1 10YR8/3 浅黄橙ブロック混入
2 10YR5/2 灰黄褐



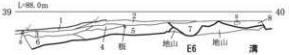
53-54
1 10YR5/4 にぶい黄褐(2.5Y4/2 暗灰黄) 上面には砂の層が入る 10YR7/4 にぶい黄橙砂粒入る
2 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR8/2 灰白シルトブロック混入
3 10YR6/4 にぶい黄橙砂 10YR7/4 にぶい黄橙岩ブロック混入
4 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 炭含

81-82
1 表土 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 10YR6/3 にぶい黄橙砂ブロックと炭混じる
2 10YR4/4 褐シルト 10YR7/4 にぶい黄橙岩ブロックとシルトブロック混入 根・炭少し混じる 埋め土
3 10YR6/6 明黄褐砂 鉄分含 地山単層層
4 10YR7/4 にぶい黄橙シルトブロック主体 10YR6/4 にぶい黄橙シルトと鉄分含 本来は地山と思われるが根の張った跡がありブロック状になったと思われる 地山

45-45'
19 表土 10YR4/2 灰黄褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック混入 木の根が多い
20 10YR4/4 褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック混入 木の根が多
21 地山 10YR7/4 にぶい黄橙 しまりにかける 木の根等で壊されたものと思われる
22 10YR7/4 にぶい黄橙シルト～砂 地山と思われる
23 22 層に 20 層が混じる

0 1:60 2m

第10図 95次断面図(3)

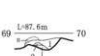


39-40

1 表土 砕石等が入る
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙シルトブロック混入
3 表土下 10YR4/3 にぶい黄褐シルト 10YR6/2 灰白の石粒と炭混入 砂含
4 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック 10YR5/4 にぶい黄褐シルト含 白い岩粒含
5 10YR6/3 にぶい黄橙シルト 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロックと 10YR4/4 褐シルトブロック混入 炭少し含
6 5 層よりも少ししまった印象 10YR5/6 黄褐シルト 10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック混入 炭少し含
7 10YR6/3 にぶい黄橙シルト 10YR8/2 灰白砂ブロック混入
8 10YR5/4 にぶい黄褐シルト サラサラしている
地山 上方は 10YR6/4 にぶい黄橙シルト 下方は 10YR8/3 浅黄橙シルト

23-24

1 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/4 にぶい黄橙シルトブロック混入 全体にしまり有

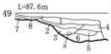


69-70

1 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 岩粒少し 砂含 10YR4/4 褐シルトブロック混入
2 地山 10YR5/3 ～ 5/4 にぶい黄褐シルト
3 10YR6/4 にぶい黄橙砂

65-66

1 10YR6/4 にぶい黄褐シルト
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト
3 10YR7/4 にぶい黄橙やや砂 固くしまりある
地山 10YR7/3 にぶい黄橙シルト



49-50

1 10YR8/3 浅黄橙固いシルトブロック 10YR5/4 にぶい黄褐シルト混入
2 10YR6/6 明黄褐砂 砂分含
3 10YR5/4 にぶい黄褐(～ 4/4 褐)シルト～砂 炭少し含 木の根入る
4 10YR5/6 黄褐シルト 粒状の岩砂含まれる
5 10YR5/4 にぶい黄褐(～ 5/6 黄褐)シルト～砂 10YR8/3 浅黄橙岩混入
6 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR6/4 にぶい黄橙砂と砕分少し含
7 地山 10YR6/4 にぶい黄橙 サラサラしている
8 2.5Y4/4 オリーブ褐シルト 上 10 cmは 10YR8/3 浅黄橙ブロック 1 層につながる

51-52

1 2.5Y4/3 オリーブ褐シルト 草根・砂入る
2 10YR4/6 褐シルト 白い岩粒混入する 2.5Y4/2 暗灰黄砂と木片入る

3 枕状 10YR5/4 にぶい黄褐シルト
4 10YR8/3 浅黄橙主体 10YR5/4 にぶい黄褐シルト含
5 10YR4/6 褐シルト やわらかい 10YR6/6 明黄褐粘土ブロックと 10YR8/3 浅黄橙砂ブロック混入 木片(根か)
6 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR8/3 浅黄橙混入
7 10YR7/3 にぶい黄橙岩 10YR5/3 にぶい黄褐砂含
8 10YR5/4 にぶい黄褐砂 砂分含
9 10YR6/4 にぶい黄橙砂 白い岩粒少し含
10 10YR5/3 にぶい黄褐白い岩 粒状に混入 サラサラしている
11 10YR5/4 にぶい黄褐(～ 4/4 褐)砂 白い岩粒含
12 10YR7/3 にぶい黄橙岩粒 10YR5/3 にぶい黄褐シルト混入
13 地山 白い岩メイン 10YR6/3 にぶい黄橙少し混じる

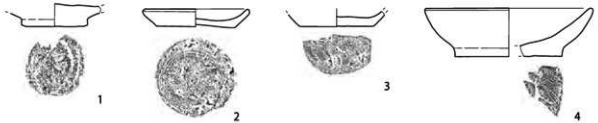
46-46'

1 2.5Y3/2 黒褐 10YR4/3 にぶい黄褐シルト混じる
2 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック混入
3 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂
4 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 10YR4/1 褐灰砂と 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック少し混入
5 10YR7/4 にぶい黄橙砂 岩粒混入 下方は粗くなっている
6 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR8/1 灰白岩粒混入 炭・粒少し含
7 10YR5/4 にぶい黄褐砂 しまりない 10YR8/2 灰白砂ブロック、炭少し含
8 10YR5/4 にぶい黄褐 しまりない
9 10YR5/3 にぶい黄褐と 10YR5/4 にぶい黄褐の砂層 10YR7/2 にぶい黄橙砂ブロック・粒分少し含
10 10YR5/4 にぶい黄褐シルト～砂 しまりない 木の根含
11 10YR5/3 にぶい黄褐砂 10YR8/3 浅黄橙岩ブロック多く混入する
12 10YR4/4 褐砂 サラサラしている
13 10YR4/4 褐 やわらかい 粒分・炭少し含
14 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR8/3 浅黄橙ブロック混入
14' 10YR5/3 にぶい黄褐 浅黄橙ブロック混入
15 10YR7/3 にぶい黄橙砂ブロック主体 10YR5/4 にぶい黄褐シルト含
16 地山 10YR4/6 褐 やや粘性有
17 10YR4/3 にぶい黄褐 やや粘性有 後世の掘り込みか
18 10YR4/4 褐 やや粘性有 10YR8/2 灰白岩ブロック混入
19 10YR5/4 にぶい黄褐砂

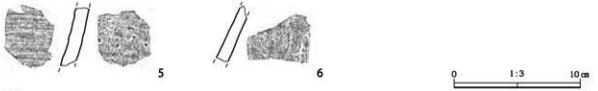
0 1:60 2m

第11図 95次断面図（4）

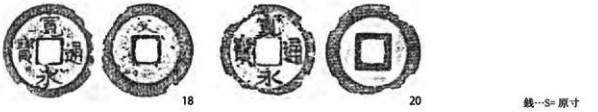
かわらけ



国産陶器



銭貨



銭…S=原寸

第12図　出土遺物

第1表　かわらけ観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm） 口径	底径	器高	残存率（%）	年代	備考	登録No.
1	12	5	93次調査区東側 落込み箇所	ロクロ小	-	5.2	[1.8]	40	12c	摩滅	8-3
2	12	5	93次調査区東側 旧大土	ロクロ小	8.4	6.3	1.2～1.6	90	12c		13
3	12	5	93次調査区東側 盛土下から旧表土	ロクロ小	-	5.8	-	30	12c		16
4	12	5	95次P5	ロクロ	12.3	8.5	3.8	20	12c		45

第2表　国産陶器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種面	器種	部位	年代	備考	登録No.
5	12	5	95次L3	瀬戸	皿	底部	12c	内面に墨と使用痕、底に転用か	34
6	12	5	95次E2	渥美	壺	肩部	12c	押印	39

第3表　須恵器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No.
7	-	5	95次中尊寺トレンチ西側 表土下	坏	口縁部	9・10c		31

第4表　近世近代国産陶磁器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
8	-	-	93次調査区東側 表土下位	陶器	鉢	胴部	19c～	在地産	6-2
9	-	-	93次調査区東側 表土下位	陶器	甕	胴部	近世か	肥前産か	6-8
10	-	-	93次調査区東側 表土～盛土	陶器	碗か	体部	近世か	小片、産地不明 青緑色の釉	10-1
11	-	5	95次A4地り方	陶器	擂鉢	口縁部	近世か	堺焼産か	20
12	-	5	95次L1東側	施釉	広東碗	口縁部	近世か	肥前産か	71
13	-	-	95次E2板敷床	磁器	碗か	体部	近世か	小片、染付 白濁釉	32
14	-	-	95次P5か	陶器	瓶	胴部	19c～	在地産	24
15	-	-	95次北東表土	陶器	甕か	体部か	近世か	産地不明 染付 青味がかった釉	13-1
16	-	5	95次中尊寺トレンチ西側 表土下	磁器	仏飯器	口縁部	近世か	肥前産か	30
17	-	-	95次99-3杭直東	陶器	瓶	胴部	19c～	在地産	12

第5表　銭貨観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	直径（cm）	重量（g）	備考	登録No.
18	12	5	95次中尊寺トレンチE2	寛永	2.3	2.4	寛永通宝（新寛永、寛文8(1668)年初鋳）背に「文」	39
19	-	5	95次P5 掘り方	銭貨	3.0	3.5	近世後期	49
20	12	5	95次D1	寛銭	2.5	2.2	寛永通宝（古寛永、寛永13(1636)年初鋳）	60

薬師堂と調査区（南東から）

表土除去状況（南東から）

調査区全景（南西から）

盛土整地堆積状況（北東から）

盛土整地堆積状況（南から）

写真図版1　93次調査

薬師堂礎石配置状況（北東から）

礎石除去後礎石掘方（南東から）

中央ベルト断面（南西から）

中央トレンチ（南から）

礎石掘方の状況（南西から）

溝断面（北東から）

南トレンチ南西壁断面（北東から）

南トレンチ（南から）

写真図版２　95次調査

調査区全景（北東から）

調査区西側（南西から）

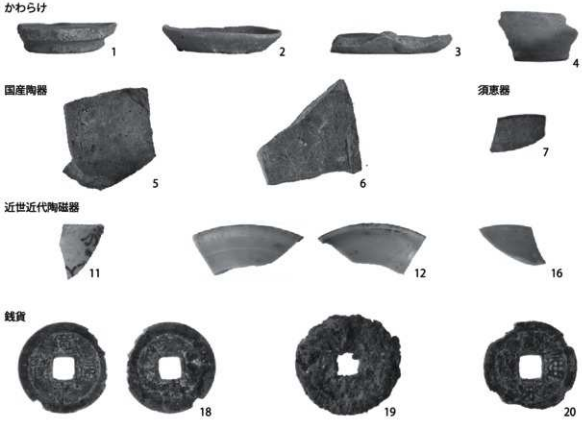
礎石５の状況（北東から）

礎石の配置状況（北東から）

薬師堂と93次検出礎石（西から）

写真図版３　礎石の状況

写真図版4　95次調査区全景（南東から）



写真図版5　出土遺物

中尊寺跡第96次発掘調査

1　調査要項

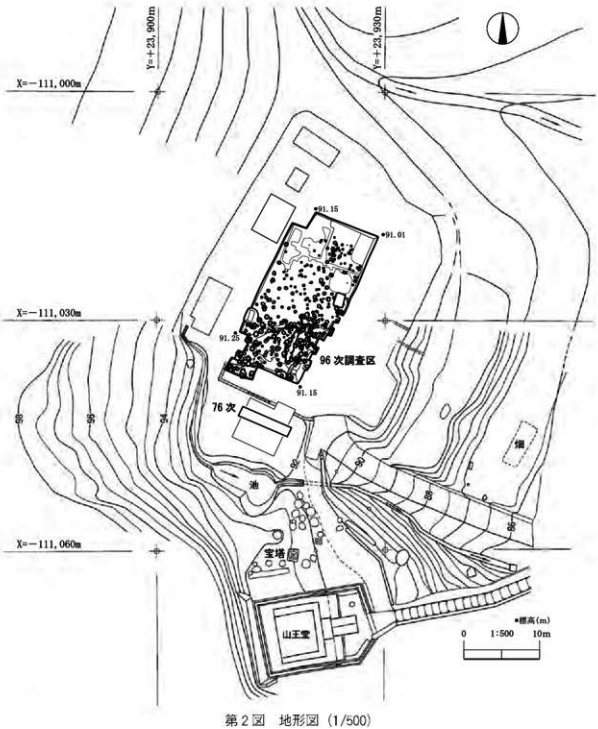
地　点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字衣関102番地
調査面積	240㎡
調査期間	令和２年５月25日～８月７日
原　因	常住院庫裡の建替（内容確認）
調査担当	菅原計二

2　位置と概要

本調査は天台宗東北大本山関山中尊寺の17支院の一つである常住院の庫裡新築予定地を対象として発掘調査を行ったものである。当地点は特別史跡中尊寺境内の本堂から南西約450ｍに位置し、標高約120ｍの関山丘陵東斜面の中腹に当たり、標高は約91ｍである。常住院は建武元年(1334)八月日の中尊寺文書中尊寺衆徒等中状案にその名が見られ、山王堂別當、常住院南谷坊とも呼ばれる。庫裡の南側には天明４年(1784)の棟札が残る山王堂（方３間、廻縁付）と平安時代の石造宝塔１基が現存する。現状の庫裡は現住職の佐々木長生氏によれば昭和28年(1953)に新築したもので、昭和61年(1986)には北側の増築を行ったという。この増築の事前調査で数回にわたる盛土整地とピットを確認したが年代は不明であった。平成20年(2008)には庫裡の南に離れを建てる際に76次調査を行い、年代不明の柱穴や12世紀のかわらけ、国産陶器、中国産白磁が少数出土した。庫裡建物は令和２年(2020)５月に解体され、この跡地を対象として96次調査を実施した。調査の結果、調査区北側で西側の丘陵斜面を切土した岩盤平坦面、中央から南側にかけては自然沢に堆積した黒色土や人為的な地業層を検出した。これらの基盤土を掘り込む形で掘立柱建物跡とみられる約440個の柱穴や溝跡、土坑を検出した。中央～南側では多数の柱穴が重複し、４棟の掘立柱建物跡を想定した。遺構からは12世紀や中世のかわらけ、国産陶器、中国産磁器、近世以降の陶磁器や銭貨等が出土した。重複する遺構と出土遺物の様相から、当地点で各時代にわたる生活空間が広がっていたと考えられる。

以下は調査経過である。５月25日から重機による表土掘削、27日資材搬入、28日テント設営と作業員による重機の残土処理とⅡ層の掘り・遺構検出、29日基準点移動、この後６月から７月にかけて

第１図　位置図（1/5,000）



第２図　地形図（1/500）

遺構精査と実測・写真記録等を実施した。７月27日中尊寺一山関係者を対象として現地公開を行い、30日調査区の全体写真撮影、この後に補足の実測と資材撤去・埋戻し等を行い、８月７日に現地での調査を終了した。

3　地形と土層（第２図・表１）

常住院跡の敷地は、北側から中央にかけては丘陵斜面を切り土した平坦面で、中央から南側にかけては沢地形に自然堆積した黒色土と整地を基盤として礎石や雛れの建物が築かれており、北と南は丘陵斜面を開削する自然沢に区切られる。東は丘陵斜面を切土した段々の畑や小道があり、町道戸河

内線を越えて桜川に至る。調査地点は西から東に下る関山丘陵を自然沢が開削した斜面地形に立地する。北は西側の丘陵地形を切土した平坦面、南は自然沢を被う黒色堆積土の低地、南東側には切土した地山ブロックを主体とする整地を被われた斜面地形である。遺構は車種を解体した際の掘乱を除去した面で検出した。北側と北東側は昭和61年増築時の掘乱や造成土（1層）、中央から北側にかけては岩盤を切土した上に平坦面、南から南東にかけては自然沢を被う黒色堆積土と切土整地の上に生活面が築いていた。南東側の1号溝の自然堆積土は深さ1.8mを測る。調査区南側と東側壁面で観察した土層は大きく5層（Ⅰ～Ⅴ）に分けられる。

表1　土層

層	内　容	色調・土質等
Ⅰ	表土・造成土	10YR4/2灰黄褐シルト～10YR4/3にぶい黄褐シルト　昭和改築時の造成土と車種解体時の攪乱等
Ⅱ	旧表土	10YR4/3にぶい黄褐シルト　西側では整地を被い南側では2号溝や地山直上を被う　昭和以前か
Ⅲ	整　地	2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック5～15cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト3～10cm大5～10%混 調査区南東で検出した　近世以降の切土整土か　黒色炭化物やかわらけ片を少量含む
Ⅳ	1号溝	10YR3/2黒褐～シルト～粘土　自然沢1号溝の堆積土　下位10YR2/1黒色シルト～粘土主体
Ⅴ	地　山	2.5Y7/3浅黄～2.5Y6/3にぶい黄シルト　北側は丘陵を切土した凝灰岩砂岩系の岩盤、中央は10～20cm大の自然礫が多く入る地層で柱穴が岩盤を穿つ　南側の1号溝堆積土の直下は10YR4/3にぶい黄褐シルト

当地点の地形と土層の特徴は、西側丘陵斜面の張り出しを切土した大掛かりな地業を行った平坦面と整地が認められる点である。中世以前の遺物が調査区中央から南側の遺構から多く出土するのに対し、中央から北側で検出した平坦面の柱穴からは近世以降の遺物の出土が目立つ。この理土は比較的しまりのない岩盤掘削土山来の地山ブロックが主体で、中世末～近世にかけて建物を構築するために必要な平坦地を確保するための地業と考えられる。整地（Ⅲ）はこの地業の派生土を用いた層位とみられるもので、中央東側から南東側にかけて検出した。整地を掘り込む複数の柱穴を検出したが、整地の上面は削平を受けており、土間などの生活面と捉えられるような硬化した床面は確認できなかった。

4　調査成果

遺　構：柱穴約440（掘立柱建物跡4棟・中世～近世）、土坑2、溝跡2（自然沢と近世溝）
遺　物：かわらけ（12世紀・中世）、中国産磁器（白磁・青磁・染付）、国産陶器（渥美・常滑・須恵器系）、柱根、銭貨4、石・石製品、雑物（近現代陶磁器・ガラス・ビニール等）

（1）遺構

柱穴並びに掘立柱建物跡（第3・7・10図・表3～表5）

柱穴は調査区全体から約440個を検出した。調査区北側では岩盤を掘り込む形で柱穴を検出し、調査区中央から南側では1号溝を被う自然堆積土や整地を掘り込み、複数が重複する形で検出した。柱穴の平面形は中央から南側では円形から楕円形が主体で、規模は直径20～50cmと様々である。調査区南壁で検出した柱穴52は直径1.5m、柱痕跡の直径が30cmと特殊な大形の遺構で、掘方から12世紀のロクロや手づくねかわらけが出土した。8個の柱穴（7・17・21・22・29・225・233・236）に柱根が残り、柱穴17の柱根は長さ10.5cm・幅20.3cmを測る。柱穴の埋土は地山掘削土由来のシルトと1号溝の自然堆積土由来の黒褐～黒色シルトの混土が主体である。12世紀の柱穴の展開は確認できないが掘方に地山ブロックの割合が多いもの、黒褐シルトと地山ブロック土の混土、黒褐シルト主体の柱穴など規模や埋土が類似するものを抽出した。この結果、近世もしくは近世以降とみられる掘立柱建物跡4棟を想定した（第10図）。調査区北側から中央にかけては岩盤を掘り込む形で円形や方形、長方形の掘方の柱穴を検出した。これらは比較的明土にしまりがなく、出土遺物から近世から近代以降の建

物跡と推定した。表3の柱穴一覧では埋土にA～G・Zの略記号を用いた。Aは黒褐シルト、Bは黒シルト、Cは黒色炭化物、Dはにぶい黄褐・暗褐・黄褐の近似色シルト、Eはにぶい黄橙と灰オリーブとにぶい黄シルト、Fは褐灰シルトもしくは近似色、Gは黄灰粘土、Zは地山ブロックの略で浅黄とにぶい黄シルトである。

1号建物跡　調査区南側で検出した。南北4間以上×東西2間の東西棟の建物跡で、柱間は南北2.10m等間、東西3.00m等間（西辺12・31・27・78・234、東辺109・111・150・169、北辺234・132・169）の規模である。柱穴27が28に切られ、2号建物跡より古い。柱穴109から金属玉(42)が出土した。埋土は黒褐シルトとオリーブ灰地山ブロックの混土で、遺物と重複関係から中世末～近世と推定した。

2号建物跡　調査区南側で検出した。南北5間以上×東西1間の東西棟の建物跡で、柱間は南北2.00m等間、東西5.50m（西辺435・34・28・76・233もしくは442・236もしくは239、東辺110・107・119もしくは120・402もしくは360・189）の規模である。柱穴28が27を切り1号建物跡より新しい。柱穴76から青磁(17)が出土した。埋土は沢跡山来の黒褐色土主体で、柱穴の様相と重複関係から近世と推定した。

3号建物跡　調査区南側で検出した。南北2間以上×東西1間の東西棟の建物跡で、柱間は南北2.00m等間、東西5.20m（西辺15・19・64、東辺53・108・123）の規模である。柱穴53が柱穴52を切る。埋土は沢跡山来の黒褐色土主体で、柱穴が出土した。柱穴の様相と重複関係から近世の建物跡と推定した。

4号建物跡　調査区北側で検出した。南北3間以上×東西1間の東西棟の建物跡で、柱間は南北2.50m等間、東西6.00m（西辺242・295・297・414、東辺190・277・293・413）の規模である。柱穴324は北側の張出しの可能性ありと想定した。埋土は掘方が岩盤を掘削した灰オリーブ地山ブロック、柱痕跡が黒褐色土主体の混土で、柱穴の様相から近世以降の建物跡と推定した。

土　坑　2基を検出した。

1号土坑　調査区中央東側で検出した長方形の土坑である。東西120cm×南北170cm、深さ約30cmで地山岩盤を掘り込み、床面と四方の側面に板張りを行う。側板の裏込め埋土は岩盤掘削土が主体で、近代陶器2片、埋戻し土から肥前産染付磁器1片が出土した。近代の庫裡に伴う貯蔵施設(ムロ)とみられる。

2号土坑　調査区南側で検出した直径約15cm、深さ約12cmの小穴で、2号溝に切られる。平面円形の浅いU字形の窪みで、底面に永楽通寶1点(40)を置き、この直上に中世のロクロかわらけの底部破片1点(6)を乗せて埋め戻していた。埋土は黒褐シルトで比較的しまりがあり、中世の埋納遺構と考えられる。

溝　跡　2条を検出した。1号溝は自然沢、2号溝は近世の溝跡である。

1号溝（沢跡）　調査区の南側で検出した溝跡で、西から丘陵斜面を開削して東に下る。埋土は黒褐～黒シルト主体の軟質な自然堆積土で、下位は水分が多く黒色味を増す。この埋土が当調査区の南側基盤層となっていて、黒色土の上面を多数の柱穴が掘り込む。埋土に拳大や人頭大の礫を含むが、1号溝からの出土遺物は無い。

2号溝　調査区南東側で南北方向に約5mを検出した溝跡で、2号土坑を切り、多数の柱穴と重複する。黒褐色シルトの埋土から天聖元寶1点が出土した。遺構の新旧関係と出土遺物から近世の溝跡と推定した。

（2）遺物（第12・13図・表6～9）

本調査区から、かわらけ(12世紀と中世)、国産陶器、中国産磁器、陶磁器(中世～近世)、近現代陶磁器、瓦質土器、銭貨、金属製品、石製品、土師器、雑物等が出土した。また8個の柱穴に柱根が残存していた。遺物の出土量は多くないが、柱穴などの遺構から12世紀、中世、近世、近代～現代まで各年代の遺物が出土した。この内から49点を抽出して図示し、中世以前の全てと近世以降の主要なものについて掲載した。

1～7はかわらけである。12世紀の手づくねとロクロがあり、内面をナデ調整したロクロかわらけは中世の所産とみられる。8～14は国産陶器である。常滑産3点と渥美産3点、エヒバチ長根窯とみられる須恵器系陶器1点がある。15～25は中国産磁器である。15は中世の龍泉窯青磁椀、16は白磁碗Ⅱ系、17・18は中世の青磁鎧、19は15世紀後半の白磁端反碗、20は12世紀の白磁皿Ⅲ系、21は同安窯青磁椀、22は白磁碗Ⅴ・皿類、23は龍泉窯青磁皿、24・25は16世紀の青花染付椀である。26～35は中世～近世陶磁器で26・27は瀬戸産天目系碗、28・29・34は肥前産染付磁器、30は瀬戸産陶器菊皿、31は唐津産小碗、32は産地不明の磁器碗、33は瀬戸産陶器皿、35は在地系擂鉢。36は瓦質土器、37～40は銭貨である。37は1円アルミ貨(柱穴312)、38は大聖元寶(2号溝)、39は至大通寶(柱穴13)、40は永楽通寶(2号土坑)、41～44は金属製連で41は小明鉄製品、42は金属玉。43は鉤状鉄製品、44は板状の銅製品、45は鉄滓である。46～48は石・石製品で46は不明石製品、47は小型の硯、48は砥石である。49は土師器細片である。

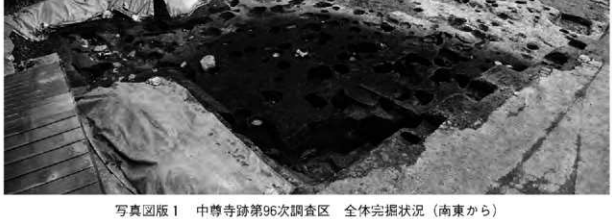
5　まとめ

本調査は中尊寺支院常住院の庫裡新築に伴う発掘調査である。調査の結果、12世紀と中世・近世・近代～昭和までの柱穴約440個を検出し、掘立柱建物跡4棟を想定した。調査区南側では埋没した自然沢である1号溝を基盤として多数の柱穴が掘り込み、中世の2号土坑や近世の2号溝を重複して検出した。当地の遺構は西側の丘陵斜面を開削する自然沢に挟まれた緩斜面に立地し、多数の柱穴の重複を確認した。出土遺物から12世紀段階から掘立柱建物を構築し、中世末から近世以降にかけては西側丘陵を切土造成した地業平坦面と緩斜面を合わせた空間に建物や付属施設を整えて生活を営んでいたものと考えられる。

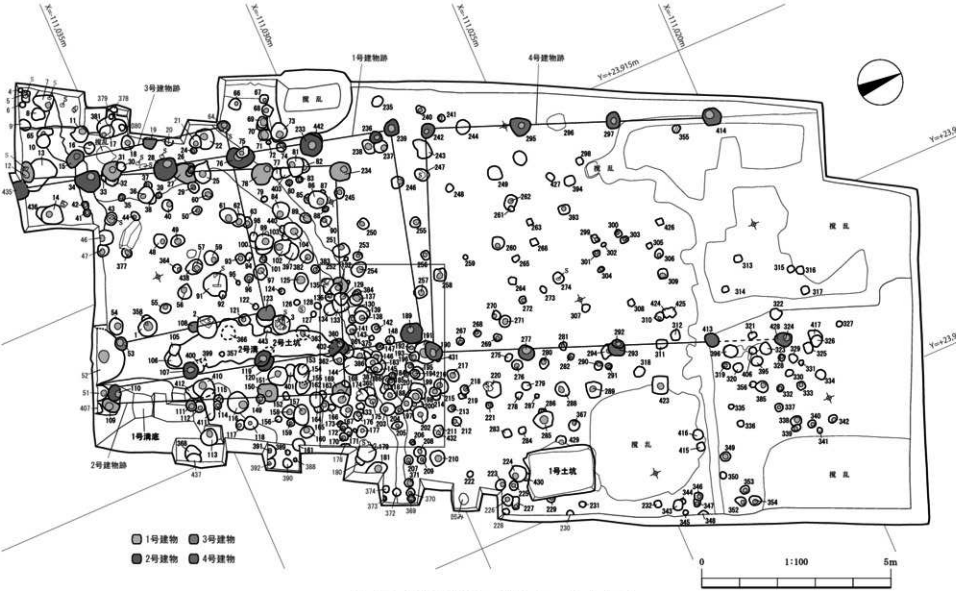
調査成果から推定される遺構の想定年代並びに様相は次のとおりである（表2）。

表2　年代毎の遺構と遺物一覧

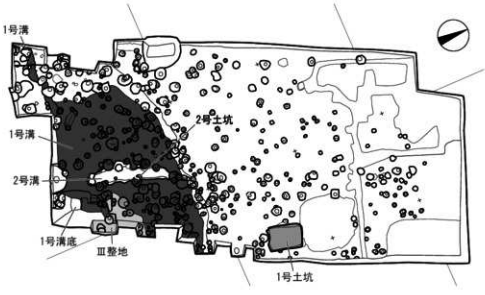
想定年代	主な遺構と遺物
12世紀	遺構：柱穴52(建物の最低不明)　遺物：かわらけ・国産陶器・中国産白磁・青磁
中世(13～16世紀)	遺構：柱穴(建物の最低不明)　2号土坑 遺物：中世かわらけ　中国産磁器（白磁・青磁・染付）　銭貨（永楽通寶）
中世末～近世	遺構：1号～3号掘立柱建物跡　整地（盛）　2号溝　遺物：中世末～近世陶磁器
近世以降～昭和	遺構：4号建物跡(近世以降～近代)　1号十坑　遺物：近世以降～近現代陶磁器　銭貨（1円アルミ貨） 昭和28年畔理場(昭和61年頃に北側増築)



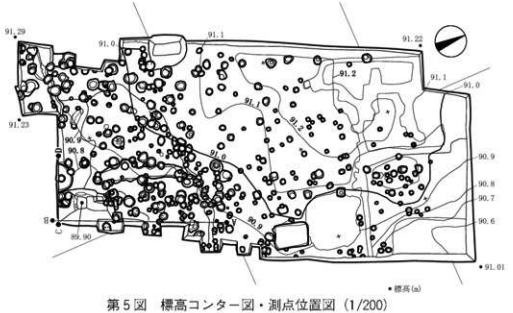
写真図版1　中尊寺跡第96次調査区　全体完掘状況（南東から）



第３図　掘立柱建物跡・遺構プラン図（1/100）



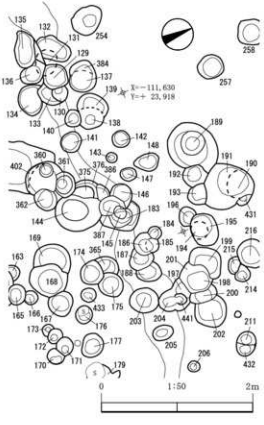
第4図　溝跡・土坑位置図（1/200）



第5図　標高コンター図・測点位置図（1/200）

第6図　遺物出土地点位置図（1/200）

第７図　遺構完掘名称図１（1/100）

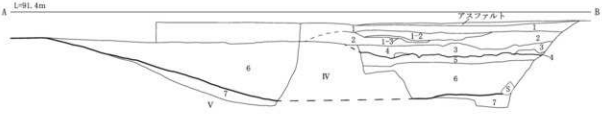


第８図　遺構完掘図２（1/50）

柱穴129柱痕跡　白磁碗19出土状況（南東から）

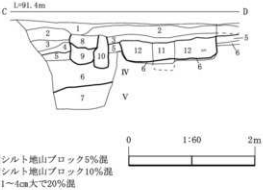
柱穴144との重複完掘（南東から）

写真図版２　多数の柱穴重複

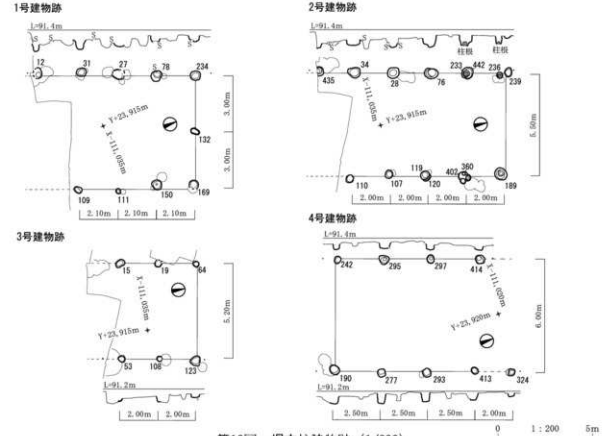


SP.1-2東壁・SP3-4南壁土層断面

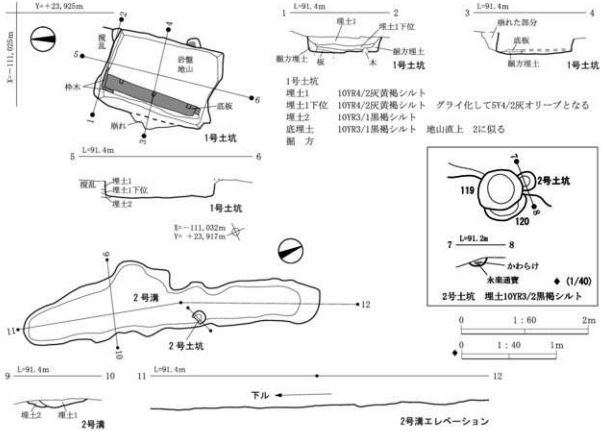
Ⅰ	1	客土	10YR4/3に赤い黄褐シルト＋円礫20%混　ビニールや雑物入る　掘乱土含む
	1-2	砕石	10Y5/1灰　砕石ラン
	1-3	客土	2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト
Ⅱ	2	旧表土	10YR3/2黒褐シルト
Ⅲ	3	整地	2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト～7.5YR5/6明褐地山ブロックシルト20%＋10YR3/2黒褐シルト30%混　人為的な切土盛土
	4	整地下位	10YR3/1黒褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト3～5cm大で10%混
Ⅳ	5	沢跡上位	10YR3/2黒褐シルト
	6	沢跡	10YR3/1黒褐シルト
Ⅴ	7	地山	7.5YR4/2灰褐～10YR4/3に赤い黄褐シルト
	8	柱穴407	埋土上位10YR3/1黒褐シルト主体＋1～2cm大の2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック5%混
	9	柱穴407	埋土下位10YR3/1黒褐シルト主体＋1～7cm大の2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック10%混
	10	柱穴51	掘方10YR3/1黒褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト1～4cm大で20%混
	11	柱穴52	柱痕跡10YR3/2黒褐シルト主体
	12	柱穴52	掘方10YR3/1黒褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト1cm大で20%混　掘方からかわらけ出土



第９図　断面図１（1/60）



第10図　掘立柱建物跡（1/200）



第11図　1号土坑・2号溝（1/60）・2号土坑（1/40）

表3　柱穴一覧（1）

柱穴No	柱穴深さ	底面標高	掘方	形	柱痕跡	形	掘方、もしくは埋土	柱痕跡	備考	新旧関係	建物跡	年代
1	21	90.56	52×50	円	22	円	B＋Z10%	B＋Z2%　粘性有り		1>358		
2	45	90.43	54×61	楕円	−	−	A＋E地ブ20%	−	掘方根固め石　角礫37cm大1と円礫2	108<2>2溝		
3	45	90.48	50×46	円	−	−	B	−	掘方礫多い			
4	12	91.07	15	円	−	−	B	−				
5	24	90.92	30×17	長方形	15×15	円	B主体＋D地ブ1cm大1%混	B	柱痕跡の上に礫1			
6	10	91.03	15×18	楕円	−	−	D	−				
7	25	90.89	42×56	不整	16	円	B	B＋D地ブ5%混	柱根　中国産青磁(13c)			中世以降
8	25	90.82	35	円	13×11	円	B＋D地ブ5%混	B				
9	20	90.92	29×22	楕円	−	−	B＋D3cm大20%混	−	北東側が深い			
10	56	90.33	(51×44)	楕円	−	−	B主体	B主体＋A10%混	2cm大の小礫少量混	10>65		近世
11	37	90.76	45×44	円	16×14	円	B	B　埋土やや粘性有り				
12	69	90.24	46×37	楕円	−	−	B＋地ブD3%混	A		12>13？435	1号建物	
13	32	90.55	85×86	円	−	−	B主体＋地ブD3%混	B	銭貨3孔大通寳			中世以降
14	38	90.45	51×76	楕円	16	円	B主体	B主体		14>436		
15	7	90.83	37×23	楕円	−	−	B＋砂質分少量混	B			3号建物	
16	17	90.88	30	円	11	円	B＋D地ブ～砂質分10%混	B				
17	41	90.72	34×40	楕円	17×18	円	B＋Z1～2cm大で20%混	B　上位　柱根有り	柱根	17>378～381		
18	10	90.92	38×33	楕円	14×13	円	B主体＋D地ブ1cm大で2%混	B＋D地ブ1cm大で5%混	5～13cm大の根石3個			
19	20	90.87	39	円	10	円	B主体	B主体			3号建物	
20	19	90.94	19	円	−	−	B主体	B主体				
21	60	90.49	34×28	楕円	13	円	B＋2.5Y5/3黄褐地ブ5%混	B主体　粘性有り	柱根　八角か	21>22		
22	36	90.75	54×44	楕円	20	円	B～A＋D地ブ1～2cm大5%混	B～A	柱根			
23	欠番											
24	11	90.86	16×17	円	8	円	B主体	B主体＋2cm大のD地ブ10%混		21？24		
25	30	90.65	50×41	楕円	20	円	1　B　2　B＋D10cm大で50%混　3　D地ブ主体＋B10%混 4　B＋D20%混　5　B＋D10%混		掘方に鉄岸			
26	18	90.71	17	円	8×9	円	B＋D2%混	B		25>26>27<28-29		
27	19	90.76	58	円	21	円	B主体	B主体			1号建物	
28	48	90.47	55×62	楕円	20×24	楕円	B主体　粘有り	B主体			2号建物	
29	44	90.51	29×26	楕円	15×14	円	B＋E地ブ1cm大で2%混	B　粘性有り	柱根			
30	19	90.75	24×23	円	−	−	B主体	−				
31	57	90.37	49	円	18×17	円	B主体＋D	B		30>31>32>33	1号建物	
32	14	90.79	33	円	13	円	B主体＋D10%混	B				
33	14	90.78	−	−	−	−	B＋D10%混		形状不明			
34	34	90.57	53×65	楕円	19×21	円	B＋Z1cm大で10%混	B　粘性強い			2号建物	
35	7	90.85	19×20	円	11×10	円	B	B				
36	31	90.61	42×43	円	13	円	B主体＋D地ブ10%混	A出土　柱根腐植土＋上位シルト	柱根か	37<36>38		
37	7	90.86	18	円	9	円	A＋B40%混	B				
38	9	90.83	26	円	−	−	B					
39	7	90.87	16×15	円	11	円	B　柱痕跡より明るい	B　茂跡埋土に似る				
40	7	90.89	31×32	円	17	円	B	A主体				
41	10	90.77	19×17	楕円	12×11	円	B	B		41>42		
42	9	90.78	20×16	楕円	9×10	円	A主体	A主体				
43	11	90.80	33×31	円	22	円	B主体	B主体	柱痕跡に23cm大の礫			
44	6	90.85	23×20	楕円	11	円	B主体	B主体				
45	欠番											
46	58	90.43	37	円	18	円	B＋E20%混1～2cm大の礫少量混	B主体		46>47		
47	40	90.51	33	円	18	円	B主体	B主体　下位E地ブ20%入る	底面18cm大の礫			
48	31	90.64	35×32	楕円	11×12	円	B＋D3cm大で1%混	B				
49	29	90.66	30×36	楕円	15×16	円	B＋D地ブ1%混	B				
50	10	90.85	21×20	円	11	円	B主体	B主体				
51	68	90.36	36×32	楕円	17×16	円	A	A主体		51>110		
52	42	90.34	135×−	円	31	円	A＋Z地ブ1cm大で20%混	A主体	掘方　かわらけ	52<53		12c以降
53	20	90.56	35×30	楕円	19	円	A主体	A～B粘土主体	掘方底　23cm大の礫　渥美(12c)		3号建物	12c以降
54	23	90.50	42×39	楕円	18×17	円	B～A	B～A	柱痕跡に19～12cm大の礫1			
55	14	90.71	23×28	楕円	13	円	A	B　やや黒褐味がある				
56	28	90.63	37	円	17×16	円	A＋Z地ブ粘土1%混　下位地ブ混	上位A砂質少量混　中～下位B				
57	16	90.79	33×45	楕円	確認		B主体＋E地ブ	B		57>438		
58	欠番											
59	31	90.64	38×37	円	15	円	B	B	瓦質土器			
60	18	90.78	27×25	円	17×13	楕円	B主体＋A10%	B主体　粘性有り	底面に根石17cm大①			
61	54	90.48	48×38	楕円	19×18	円	B＋Z10%混	B＋Z5%混	中国産白磁(11C後半～12C)			
62	7	90.95	31×33	円	16×15	円	B主体	B＋A＋Z地ブ3%混		61>62>63		
63	5	90.97	28×23	楕円	12	円	B主体	B主体	底面に35cm大の自然礫			中世以降
64	45	90.60	30×32	円	12	円	F主体	A			3号建物	
65	16	90.69	−×38	円	−	−	B主体	−		10>65		
66	37	90.74	30×33	楕円	11×10	円	A＋Z30%	A主体＋Z地ブ20%混				
67	34	90.79	23×21	円	10×13	楕円	Z＋A	A				
68	22	90.93	35×28	楕円	13×12	円	B＋Z20%	B＋Z地ブ10%				
69	9	91.05	28×27	円	17×16	円	B主体＋Z10%	B主体＋Z地ブ5%				
70	17	90.97	30	円	−	−	B主体＋Z20%			69>70？71<73		
71	60	90.51	27×29	円	18×17	円	上位　A主体＋地ブZ10%　下位Z主体＋A20%	A＋D～E20%混	肥前染付(18C)			
72	未掘		11	円	−	−	A＋Z10%		小穴			
73	65	90.48	45×43	円	21×20	円	A＋E地ブ	B　軟質シルト腐植土	柱根　肥前染付(18C)	69>70？71<73		
74	9	91.04	25	円	17×10	楕円	E＋F	F主体				
75	61	90.50	37×24	楕円	12×11	円	Z＋B30%＋黒褐シルト20%	B＋A30%＋Z地ブ10%		75>76		
76	62	90.49	70×54	楕円	25	円	B＋Z地ブ10%混	B＋Z地ブ5%混	中国産青磁(13C後半)		2号建物	
77	20	90.93	25×26	円	−	−	A＋E5%混	A主体	掘方10cm大の礫1　柱痕跡18cm大の礫1	403<77>78		
78	35	90.78	59×50	楕円	16	円	A＋Z地ブ20%	A＋Z地ブ10%	掘方底面23cm大の礫		1号建物	
79	7	90.96	19×13	楕円	10	円	A	B				
80	12	91.00	17×15	円	8×9	円	Z地ブ＋B黒40%混	B				
81	28	90.83	42×48	楕円	15×16	円	Z地ブ主体＋B40%	A主体＋Z地ブ5%		403<81>82		
82	25	90.88	35	円	12	円	A＋Z地ブ30%	A＋Z地ブ5%				
83	8	91.06	19	円	12	円	A＋10%	A＋Z地ブ5%				
84	19	90.95	43×45	円	15	円	A主体＋E地ブ5%	A主体＋E地ブ3%				
85	24	90.88	23	円	15	円	B＋Z地ブ30%	A＋Z地ブ3%				
86	31	90.81	47×47	円	18×18	円	地ブZ主体＋B30%	A主体		85<86>87		
87	9	91.09	19	円	−	−	A主体＋Z地ブ20%	−				
88	15	90.96	15×18	楕円	9	円	B主体	A主体＋Z地ブ10%				
89	16	90.93	29×36	楕円	20×16	楕円	A＋Z地ブ10%	A＋Z地ブ5%				
90	26	90.84	32×26	楕円	12	円	A＋Z20%	A＋Z地ブ3%				
91	17	90.75	58×61	円	−	−	B	B		91<92		
92	4	90.93	18×15	楕円	−	−	B～A＋地ブ2%	−				
93	14	90.81	27×25	円	15×13	楕円	B	B＋Z地ブ	底面に礫13cm大1			
94	12	90.83	18×20	円			B＋A＋Z地ブ1%	B＋Z地ブ2%				
95	6	91.01	11×10	円	−	−	A	−				
96	20	90.71	22×21	円	11×11	円	B	B				
97	38	90.57	41×35	楕円	16×17	円	B	B	古瀬戸天目(14C後)			
98	12	90.89	22	円	−	−	B	−		98<99>100		

表3　柱穴一覧（2）

柱穴No.	柱穴深さ	底面標高	掘方	形	柱痕跡	形	掘方、もしくは埋土	柱痕跡	備考	新旧関係	建物跡	年代
99	34	90.69	40×49	楕円	17×18	円	B主体	B主体		98<99>100		
100	30	90.71	49	円	－	－	B主体	－				
101	6	90.91	21×20	円	10	円	A主体	B～A主体				
102	18	90.85	38×45	楕円	19	円	1　B＋Z地ブ10%　2　B＋E地ブ30%＋Z地ブ20%　3　A			397<102>103<104>440		
103	23	90.84	17×20	楕円	不明		A＋Z地ブ30%	－				
104	27	90.8	42×49	楕円	15×16	円	B＋E30%混	A主体	掘方底面の礫21cm大1	103<104>440		
105	39	90.38	30	円	－	－	A	A粘土　柱根腐植土		105>106>2溝		
106	48	90.31	36×31	楕円	－	－	2　下位　A主体	1　上位　B＋E30%混				
107	55	90.21	35×34	方形	18×17	円	D＋A30%混	A＋D30%混		107>2溝>399・400	2号建物	
108	44	90.47	29	円	－	－	B主体	B主体		108<2>2溝	3号建物	
109	49	90.34	28×24	楕円	20	円	A主体＋E地ブ	A主体			1号建物	
110	32	90.35	38×42	楕円	18	円	E地ブ3～5cm大＋B20%	B		51>110	2号建物	
111	52	90.27	30×25	楕円	16	円	A＋B40%混	A粘土主体	整地との新旧不明	111>112？整地Ⅱ	1号建物	
112	29	90.50	28	円	12	円	A主体＋Z10%混	A主体	整地との新旧不明			
113	38	90.39	41	円	12	円	A＋Z地ブ10%混	A主体	掘方に礫2　中国産染付(16C)			
114	49	90.29	21×18	楕円	11	円	A＋E地ブ20%混	A		411？114>115		
115	53	90.25	25	円	10	円	A＋E地ブ10%混	A				
116	63	90.18	59	円	21	円	B主体＋A5%＋地ブ1%	A		116>整地Ⅱ		
117	15	90.64	27×23	楕円	10	円	Z主体＋A10%混	Z主体＋A細かい地ブ20%		117>整地Ⅱ		
118	29	90.50	34×35	円	10×11	円	A主体＋B10%混	A主体		118>整地Ⅱ		
119	59	90.28	34×48	楕円	19×22	楕円	A主体＋B10%混	F主体＋Z5%混	中国産青磁(12C)	119>120>2溝>2土	2号建物	
120	43	90.44	34	円	不明	－	A主体＋B5%地ブ微量混	－			2号建物	
121	29	90.66	33×32	円	13×14	円	B主体＋A20%	10YR3/2A＋B20%　C1%混	柱痕跡に小礫混			
122	10	90.85	17	円	－	－	A10YR3/2＋10YR3/1A10%混	A10YR3/2＋10YR3/1A20%混				
123	32	90.63	42×45	円	－	－	A＋Z地ブ3%混　礫1	－	土師器(9～10C)		3号建物	
124	8	90.87	16×14	円	8×10	円	A主体＋Z地ブ5%	A＋Z地ブ5mm大で2%混				
125	16	90.81	48×36	楕円	20×20	円	B主体	B主体				
126	12	90.81	16×13	楕円	－	－	A＋E地ブ30%	－				
127	10	90.81	15×13	楕円	－	－	A主体	－				
128	12	90.81	17×14	楕円	－	－	A主体＋Z地ブ1%混	A主体				
129	55	90.42	34×38	楕円	16×14	楕円	A＋E10%	A主体	中国産白磁(15C後)	※1		15c後以降
130	41	90.56	22	円	－	－	A＋E地ブ40%	－				
131	7	90.94	26×31	楕円	15	円	A主体	A主体				
132	8	90.96	43	円	10	円	A主体	A主体			1号建物	
133	22	90.71	40	円	－	－	A主体	－				
134	6	90.86	43×30	楕円	－	－	A主体	－				
135	24	90.79	28×39	楕円	－	－	D＋A30%混	－	中国産白磁(12C) 礫1			12c以降
136	17	90.74	20×25	楕円	10	円	A主体	A主体				
137	10	90.86	31×37	円	19×20	円	A主体＋E地ブ5%	A主体		137>384		
138	12	90.81	32	円	13×14	円	A主体＋E地ブ20%	A主体＋E地ブ5%		139<138>140		
139	10	90.83	38	円	不明		A主体＋E地ブ10%	A主体＋E地ブ3%				
140	19	90.75	19	円	11	円	A＋E地ブ20%	A主体＋Z5%				
141	9	90.80	30×26	楕円	11	円	A＋E地ブ5%	A主体＋E地ブ3%				
142	6	90.87	21×20	円	11×12	円	Z主体＋A30%	D＋A10%				
143	6	90.87	12×14	楕円	－	－	A主体	－				
144	54	90.38	51×71	楕円	26×27	円	A主体＋E地ブ20%混	A主体	柱痕跡に礫15cm大1	※2		
145	－	未計測	28	円	11×10	円	A主体＋E地ブ20%	A＋E地ブ10%				
146	21	90.71	28	円	13	円	A＋D地ブ20%混	A主体＋D地ブ10%混				
147	6	90.87	20	円	9	円	A＋E地ブ20%混	A＋E地ブ10%混				
148	5	90.89	20×21	円	9	円	Z主体＋A10%混	A主体＋Z20%混				
149	37	90.50	23×25	楕円	13	円	A　柱痕跡より明るい	A主体		149>150		
150	28	90.59	48×51	楕円	17	円	B主体	A主体			1号建物	
151	55	90.32	53×48	楕円	18×17	円	A10YR3/2＋10YR3/1A20%混	A主体　下位E地ブ30%混	中国産青磁(12C後)	151>401<154<153		12c以降
152	12	90.72	22×15	楕円	－	－	A	－	小穴			
153	80	90.07	27	円	11	円	A＋E地ブ20%混	A主体＋Z3%混	柱痕跡に礫	151>401<154<153 153>154>401		
154	54	90.33	24×33	楕円	－	－	A主体＋B20%混	－				
155	49	90.38	35×44	楕円	20	円	A主体	A主体		153>154>155		
156	11	90.68	14×15	円	－	－	A主体	－				
157	56	90.28	53×40	楕円	16	円	A＋B10%混	A主体	常滑(12C)	157>158		12c以降
158	24	90.60	38	円	15×16	円	A主体＋B10%混	A主体				
159	14	90.68	16×17	円	8×9	円	A主体	A				
160	54	90.29	30×36	楕円	15	円	A主体＋B5%混＋C1cm大で1%混	A主体				
161	30	90.49	23×24	円	8×9	円	A10YR3/1＋10YR3/2A10%混	A主体　やや明るい				
162	20	90.61	30×26	楕円	14×13	円	A主体＋10YR6/6明黄褐地ブ10%＋B5%混　かわらけ片入る	A主体		163<162>164<165<166		
163	17	90.64	21	円	10×－	円	A＋E地ブ30%	A＋E地ブ20%				
164	16	90.65	26	円	10×－	円	A＋E地ブ20%	A＋B30%				
165	9	90.72	30×40	楕円	12	円	A＋E地ブ20%	A＋A40%				
166	7	90.74	18×20	円	10	円	A主体＋E地ブ5%	A＋E地ブ20%				
167	13	90.52	32×33	円	12	円	A＋E地ブ3%	A主体		167>168>169		
168	65	90.00	38×49	楕円	20×21	円	A＋E地ブ20%＋3～10mm大のC2%混	A＋B20%				
169	20	90.45	46	方形	－	－	A＋E地ブ20%混	A＋E地ブ5%混	柱穴169の北西に円形プラン		1号建物	
170	14	90.65	19×20	円	－	－	A＋E地ブ3%混	－		170>171>172>173		
171	5	90.74	22×21	円	－	－	A＋E地ブ3%混	－				
172	4	90.75	18×20	円	－	－	A＋E地ブ3%混	－				
173	3	90.76	16×15	円	－	－	A＋E地ブ3%混	－				
174	15	90.67	30×34	楕円	－	－	A主体	A主体＋Z地ブ2%	中国産白磁(12C)	175>174>365		12c以降
175	24	90.58	30×32	円	－	－	A＋Z地ブ5%混	A主体				
176	9	90.73	24×21	楕円	－	－	B　礫周囲の埋土A	－	被熱礫1			
177	11	90.71	10	円	－	－	A主体	－				
178		未計測	23	円	－	－	A＋D30%＋E1%混	－				
179	石	90.78	56×48	楕円	－	－	A主体＋層調B	－	24～27cm大の礫3	179>180		
180	－	未計測	32	円	－	－	A主体　柱穴179と埋土似る	－				
181	40	90.47	44×－	楕円	20	円	A主体＋Z1cm大で2%混　かわらけ片	A主体＋Z3%混＋C1%				
182	欠番											
183	43	90.49	42	円	17	円	A＋E地ブ50%混	D＋E地ブ20%混		※3		
184	11	90.78	18×16	楕円	10	円	A	A		184・185>186>187<188		
185	9	90.82	19×18	円	10	円	A主体	A＋Z3～5mm大で5%混				
186	34	90.53	24	円	12	円	E地ブ＋A20%混	A主体＋Z3%混				
187	23	90.64	31	円	12	円	A主体	－				
188	16	90.71	28×30	円	12	円	A主体	A主体				
189	31	90.63	57×56	円	18×16	楕円	F＋E地ブ	F		431<190>191<193 191>192<189 192<191<193	2号建物	
190	38	90.55	45×54	楕円	20×19	円	F	F			4号建物	
191	39	90.56	57	円	25	円	F	F				
192	17	90.75	32	円	11×10	円	A主体＋E地ブ10%	A主体				
193	9	90.84	26	円	15×16	円	A主体＋E地ブ10%	A主体				
194	51	90.42	25×23	楕円	13	円	A主体＋E地ブ5%	A主体		194>195>196		
195	54	90.39	34	円	17	円	A主体＋E地ブ10%	A主体				
196	12	90.81	24×21	楕円	11×10	円	A主体＋E地ブ5%	A主体				

中尊寺跡96

表3　柱穴一覧（3）

柱穴No.	柱穴深さ	底面標高	掘方	形	柱痕跡	形	掘方、もしくは埋土	柱痕跡	備考	新旧関係	建物跡	年代
197	21	90.64	38×25	楕円	12	円	A主体＋E地ブ10%	A主体＋E地ブ3%		※3		
198	49	90.38	35×28	楕円	16×14	円	A主体＋E地ブ30%	A主体	柱痕跡礫1　柱抜き取りか			
199	31	90.56	50×30	楕円	30	円	A主体＋E地ブ20%＋B5%	A主体	常滑(12c)			12c
200	31	90.54	32	円	14	円	A主体	A主体				
201	－	未計測	－	－	－	－	A主体	－	柱穴200の掘方埋土か			
202	23	90.62	42×43	円	14	円	A主体	A主体				
203	42	90.43	31×38	楕円	15	円	A主体＋D地ブ10%＋B2%	A主体＋5mm大のC微量混				
204	23	90.62	28	円	12	円	A主体＋D地ブ10%	A主体＋E地ブ1%		※3		
205	－	未計測	19×30	楕円	9	円	A主体	A主体				
206	6	90.79	15	円	10	円	A＋E地ブ30%	A主体＋E地ブ20%				
207	16	90.65	24×23	円	13×11	楕円	A主体＋E地ブ5～10mm大で10%混	A主体＋E地ブ2%混				
208	5	90.76	25×28	楕円	13×12	円	A＋E地ブ30%	A＋E地ブ20%		208<209		
209	6	90.75	22×20	円	10×9	円	A＋E地ブ40%	A＋E地ブ20%				
210	35	90.51	37×33	楕円	17	円	A＋E地ブ30%	A				
211	9	90.78	30×25	楕円	10×9	円	F＋E地ブ30%	F＋E地ブ10%				
212	3	90.84	25	円	12	円	F＋E地ブ50%	F＋E地ブ10%				
213	7	90.80	18×12	楕円	10	円	F＋E地ブ50%	F＋E地ブ20%				
214	10	90.77	22	円	－	－	F＋E地ブ40%混	－		214<215>216		
215	14	90.77	30×27	楕円	12×13	円	F＋E地ブ40%混	F＋E地ブ10%混				
216	24	90.67	38	円	17×17	円	F＋E地ブ30%＋礫少量混	F主体＋E地ブ5%				
217	35	90.62	33×31	楕円	16×15	円	A主体＋E地ブ10%	A主体＋E地ブ5%	近世陶器　瀬戸菊皿			近世以降
218	20	90.69	22×18	方形	12×11	円	F主体＋E地ブ20%	F主体	埋土グライ化	218>219		
219	12	90.77	20×18	方形	7	円	F主体＋E地ブ20%	F主体	埋土グライ化			
220	37	90.77	40×41	方形	17	円	A＋G地ブ40%	A主体＋E地ブ5%	礫26×24cm大　厚さ9cm板石・礎石か			
221	29	90.64	22×20	方形	10	円	F主体＋E地ブ20%	F主体	柱穴286に似る			
222	3	90.84	14	円	－	－	A主体	－				
223	31	90.57	30×25	楕円	11	円	A主体＋E地ブ20%	A主体				
224	34	90.57	46×42	楕円	17×16	円	A主体＋E地ブ30%	A主体		224>430<1土		
225	40	90.48	24×21	楕円	13×12	円	A主体＋E地ブ20%混	A主体				
226	15	90.74	24×29	楕円	11×9	円	F主体	F主体	銭	226>227		
227	11	90.78	33×22	方形	10×9	円	F主体	F主体				
228	19	90.70	不明	円か	10×9	円	F＋Z20%	F主体	近世以降磁器			近世以降
229	9	90.82	20	円	10	円	A＋Z20%＋2～5mm大のC2%	A＋C1%		229<1土		
230	5	90.82	25	円	－	－	D主体	－				
231	21	90.66	17×16	方形	11	円	A＋Z20%混	A＋3mm大のC1%混				昭和か
232	5	90.79	21×17	楕円	－	－	A主体	－				
233	62	90.51	60	円	20	円	A＋Z10%混	A主体	柱根	233>442	2号建物	
234	35	90.78	52×44	楕円	16×17	円	E地ブ＋A30%混	A＋E地ブ40%混　7mm大のC1%混			1号建物	
235	20	90.89	28×30	楕円	10	円	F＋E地ブ30%	F主体				
236	45	90.64	29×32	楕円	14×16	楕円	A＋Z礫20%混	A＋地ブ礫10%混	柱根	236>237>238	2号建物	
237	36	90.73	36	円	15×16	円	A＋Z礫30%混　10mm大のC3%混	A主体				
238	15	90.94	38	楕円	16	円	A＋Z30%混	A主体				
239	18	90.95	37×38	楕円	21	円	Z＋Z砂礫－細砂と礫多く混	D主体			2号建物	
240	10	91.05	22×23	楕円	11×12	円	A主体	A主体				
241	5	91.10	20	円	11×8	楕円	A主体	A主体				
242	35	90.80	35×38	楕円	12×14	楕円	A＋円礫2～15cm大多く混	A主体　柱腐植土			4号建物	
243	48	90.69	55×36	楕円	－	－	F＋E地ブ30%	－				
244	18	90.98	30×33	楕円	－	－	F＋E地ブ礫30%	－				
245	14	90.99	28	円	13	円	A主体＋E地ブ10%混	A主体				
246	12	91.03	32×35	楕円	14×15	円	D＋Z30%混	A主体				
247	7	91.11	35×36	楕円	－	－	D主体＋Z10%	－	27cm大の礫1			
248	13	91.00	20×19	円	－	－	埋土：D＋E礫3%混	－				
249	24	90.89	42×40	楕円	－	－	埋土：A主体＋E礫10%混	－				
250	11	90.97	26	円	11	円	A主体＋Z10%混	A主体　10mm大のC少量入る				
251	22	90.85	33×42	楕円	12×14	円	A＋E地ブ40%	A主体＋E地ブ5mm大で5%				
252	7	90.99	10×9	円	－	－	A主体＋E地ブ5%混	－				
253	11	90.96	22×24	楕円	11×10	円	A主体	A主体				
254	14	90.89	36×43	楕円	17×18	円	A＋E地ブ30%	A主体				
255	18	90.91	27×29	円	15×14	円	D＋E地ブ礫20%混＋Z地ブ10%	D主体				
256	11	90.86	21×24	方形	11×12	円	柱穴255と似る	D主体	柱穴255と似る			
257	29	90.68	30×32	円	14×16	円	E礫主体＋A40%混	A主体				
258	12	90.84	31×30	方形	13×16	楕円	E礫主体＋F30%混	F主体				
259	5	90.92	12	円	－	－	E地ブ＋A	－				
260	14	90.90	32×35	円	13	円	F主体＋E地ブ礫10%混＋A2%混	F主体				
261	8	90.99	15×17	楕円	－	－	埋土　A主体＋2～7mm大のC3%混	－		261>262		
262	19	90.88	34×34	方形	10	円	E地ブ＋礫主体＋F30%混	F主体＋E礫10%混				
263	7	91.10	15×14	方形	－	－	F主体＋A2%混	－				
264	15	90.95	20×20	方形	－	－	F主体＋E地ブ礫少量混	－				
265	11	91.00	14×21	方形	－	－	F主体＋E＋礫30%混	－	瀬戸陶器皿			中世以降
266	13	91.03	21×19	方形	－	－	F主体＋E地ブ礫20%混	－				
267	4	90.91	23×22	円	12×11	円	F主体＋E地ブ10%	F主体				
268	13	90.81	18×16	円	8×7	円	F主体＋E地ブ10%	F主体				
269	6	90.82	20	円	12×10	円	F主体＋E地ブ	F主体				
270	22	90.81	24×23	円	14×12	円	F主体	F主体				
271	22	90.83	33×30	円	14×15	円	F＋E地ブ礫20%混	F主体				
272	9	91.02	16×15	方形	－	－	F主体	－				
273	12	91.02	20×15	楕円	－	－	F主体＋E地ブ10%混	－				
274	32	90.83	30×25	楕円	－	－	F＋E地ブ30%混　しまりあまりない	－	柱穴266に似る			
275	16	90.92	20×23	楕円	－	－	F主体＋E地ブ5%混	－	掘方　金属製品1　柱痕跡　石1			
276	17	90.90	30×28	円	14×13	円	F＋E地ブ3%混	F主体＋E地ブ3%混				
277	53	90.55	45×38	楕円	22×17	楕円	A＋E地ブ20%混	A主体＋A3%混			4号建物	
278	24	90.81	21×17	楕円	－	－	A主体＋5mm大のE5%混	－	底に10cm大の礫1			
279	12	90.93	25×21	楕円	－	－	A主体＋E5～10mm大で20%	－				
280	15	90.95	28×25	方形	14×11	楕円	A主体＋E地ブ30%混	A主体				
281	27	90.80	21×20	円	11×10	円	F＋E地ブ20%	F＋E地ブ3%				
282	9	91.00	15×17	楕円	10	円	F＋E地ブ20%	F＋E地ブ5%				
283	欠番											
284	15	90.88	19×16	方形	10	円	A主体＋E地ブ10%混	A主体				
285	10	90.95	57×42	楕円	19×17	円	F＋G地ブ30%	F＋G地ブ10%		285>286		
286	25	90.84	18×18	方形	10	円	F＋E地ブ30%混	F＋E地ブ	柱穴221に似る			
287	8	91.04	14×11	楕円	－	－	埋土　F主体	－				
288	67	90.42	48×42	方形	17	円	F＋E地ブ＋礫30%混	F主体＋E地ブ5%　上位 [illegible]	古瀬戸天目茶碗			中世以降
289	31	90.76	46×37	楕円	16	円	F＋G地ブ＋礫30%	F＋G地ブ5%				
290	19	90.92	24×22	円	12	円	F＋E地ブ20%	F＋E地ブ3%				
291	14	90.96	16×17	方形	10	円	Z地ブ主体＋F1%混	F主体＋E10%混				
292	32	90.82	24×26	楕円	13	円	A＋E地ブ10%	A＋E地ブ3%		292>293>294		
293	51	90.65	27×27	円	－	－	A＋E地ブ10%	－			4号建物	
294	29	90.85	30	円	14	円	A＋E地ブ10%	A＋E地ブ3%				
295	34	90.85	48×48	楕円	18×17	円	F＋E地ブ30%	F＋E地ブ10%			4号建物	

表3　柱穴一覧（4）

柱穴No.	柱穴深さ	底面標高	掘方	形	柱痕跡	形	掘方,もしくは埋土	柱痕跡	備考	新旧関係	建物跡	年代
296	12	91.15	42	円	−	−	2.5Y4/1黄灰粘土主体	−	攪乱状			昭和以降
297	31	90.80	43×37	楕円	17×15	楕円	F主体	F主体			4号建物	
298	9	91.18	20×18	方形	10	円	F主体	F主体				
299	20	90.97	20×17	方形	10	円	F主体	F主体				
300	9	91.00	18×17	方形	9	円	F＋E地ブ30%混	F＋E地ブ5%混				
301	8	91.09	16×17	楕円	9	円	F主体＋E地ブ30%混	F主体				
302	6	91.13	10×13	楕円	−	−	F＋E地ブ30%混	A				
303	13	91.10	20×16	楕円	9	円	F＋E地ブ	A				
304	5	91.19	13×17	楕円	−	−	埋土　A＋E地ブ30%	−				
305	15	91.10	14×15	方形	−	−	A＋地ブ10%混(E)	−				
306	19	91.04	21×24	楕円	10	円	F＋E地ブ30%混	F＋E地ブ20%混				
307	15	91.02	21	円	10	円	F＋E地ブ30%混＋1cm大のC3%混	A＋C少量混				
308	23	91.02	17×16	方形	10	円	F＋E地ブ10%混	F主体				
309	15	91.08	25×25	方形	14×16	楕円	A主体＋E地ブ10%混	A主体＋E地ブ1%混				
310	22	90.95	21×24	楕円	−	−	A＋E地ブ10%混	−				
311	32	90.85	26×30	楕円	−	−	E主体　しまりない	−	新しい埋土か			昭和か
312	19	90.96	28×22	楕円	−	−	F＋E50%混　しまりない	−	昭和32年　1円アルミ貨			昭和以降
313	13	91.08	21×18	方形	10	円	A主体＋E地ブ20%混	A主体				昭和か
314	4	91.13	15×17	方形	−	−	A主体＋E地ブ5%混	−				昭和か
315	18	90.97	18×17	方形	−	−	A主体＋E地ブ3%混	−	柱穴316と埋土似る			昭和か
316	15	90.92	20×19	方形	−	−	A主体＋E地ブ3%混	−	柱穴315と埋土似る			昭和か
317	12	91.04	19×20	方形	−	−	A＋Z細砂～シルト3%混	−				昭和か
318	35	90.75	24×31	楕円	14	円	A主体＋E地ブ20%混	A主体＋E地ブ3%混				昭和か
319	6	91.01	23×18	方形	−	−	A主体＋E地ブ5%混	−				昭和か
320	7	91.03	23×25	円	−	−	A主体＋E地ブ10%混	−				昭和か
321	5	91.12	17×21	方形	−	−	A主体＋E地ブ3%混	−				昭和か
322	22	90.95	29×30	円	10	円	A主体＋E地ブ10%混	A主体＋E地ブ3%混				
323	26	91.00	36×32	楕円	−	−	F＋E地ブ20%混	−				
324	22	90.92	46×38	楕円	17×18	円	E地ブ＋10YR3/2A30%＋10YR3/1A3%混	A主体		324？428	4号建物	
325	23	90.86	28×22	方形	10	円	A＋E地ブ20%混	A主体＋E地ブ3%				
326	7	90.97	46×32	楕円	12	円	F＋E地ブ20%混	F主体		326>417		
327	12	90.88	16×14	楕円	−	−	F主体＋E地ブ20%混	F主体＋E地ブ3%混				
328	4	91.08	16×17	円	10×11	円	F＋E地ブ10%混	F＋E地ブ5%混				
329	12	90.97	23×23	円	−	−	F＋E地ブ10%混	−				
330	14	90.95	17×20	楕円	−	−	F主体＋E地ブ10%	−				
331	6	90.99	13×14	楕円	−	−	F	−				
332	17	90.92	17	円	10	円	F＋E地ブ30%	F＋E地ブ10%				
333	8	90.97	20	方形	11	円	F＋E地ブ20%	F＋E地ブ3%				
334	5	90.99	25	円	−	−	F＋E地ブ10%	−				
335	欠番											
336	10	90.87	17×18	円	−	−	F＋E地ブ3%	−				
337	4	90.98	21×20	方形	11×10	円	F＋E地ブ40%混	A				
338	17	90.80	25×31	楕円	14	円	A＋Z10%	F主体＋A10%		338<339		
339	12	90.73	20×24	楕円	10	円	A＋E地ブ30%	A＋E地ブ10%				
340	5	90.86	22×20	楕円	12	円	A＋E地ブ20%	A				
341	5	90.80	15×12	楕円	−	−	A　しまりあまりない	−				
342	16	90.82	21×23	楕円	12	円	A＋E地ブ2%混	A				
343	7	90.80	27×26	円	−	−	A＋E地ブ20%	−		343>344		
344	8	90.79	13	円	−	−	A＋E地ブ20%	−				
345		未計測	13×15	円	−	−	A＋E地ブ40%	−				
346	7	90.75	23×20	楕円	11	円	F＋地ブ20%	A		346>347		
347	9	90.74	18	円	9×10	円	A	A				
348	41	90.42	(23)	円	−	−	A＋E地ブ20%＋C2%混	A＋3～5mm大のC2%混				
349	45	90.37	23×26	楕円	15	円	A＋E地ブ30%　下位グライ化	A＋E地ブ10%　下位グライ化	油臭い　新しい攪乱			昭和以降
350	16	90.63	17	円	−	−	F＋E地ブ30%	F＋E地ブ10%				
351	8	90.80	30×24	楕円	−	−	Z＋A少量混	Z＋A少量混				不明
352	20	90.47	28×21	楕円	10	円	A＋E地ブ30%混	A＋E地ブ10%混				
353	32	90.35	21×23	楕円	11	円	F主体＋E地ブ30%	F主体＋E地ブ10%				
354	14	90.51	25×26	楕円	13	円	A＋E地ブ30%	A主体				
355	10	90.99	20×24	方形	−	−	F＋E地ブ40%	−				昭和以降
356	7	91.02	17×18	円	−	−	F＋E地ブ20%	E地ブ＋F10%	柱抜き取り後の埋土か	356<385		
357	12	90.68	13	円	−	−	B主体	−		357>2溝		
358	22	90.55	24×−	円	−	−	A	−		1>358		
359	欠番											
360	46	90.44	50×−	円	15	円	A＋D10%混	A＋Z5mm大で3%混		2溝>360>361>362>402 ※2	2号建物	
361	29	90.61	32×−	円	13×−	円	F＋Z20%混	A＋Z3mm大で3%混			2号建物	
362	26	90.61	34×28	楕円	12	円	A＋Z3%	A			2号建物	
363	34	90.59	40×−	円	−	−	A＋E地ブ20%	−		363<2溝		
364	14	90.79	23	円	−	−	A主体	−				
365	16	90.66	21×17	楕円	10	円	A主体＋D地ブ10%	A主体＋E地ブ1%		175>174>365		
366	36	90.49	35×39	楕円	−	−	A主体＋B10%	A10YR1.7/1＋10YR3/2A地ブ10%	常滑(12c)	366<2溝		12c以降
367	45	90.45	32×26	楕円	12×10	楕円	A＋E10%混	A主体＋E地ブ5%				
368	27	90.48	40×−	円	−	−	A＋2.5Y7/6明黄褐シルト10%混	A＋Z3～5mm大で5%混		368<437		
369	11	90.66	14×14	方形	9	円	A主体＋E5mm大10%	A主体		369<370		
370	18	90.67	19×22	円	10	円	A主体＋E地ブ5mm大で20%	A主体＋E地ブ3%				
371	10	90.68	18	円	9	円	A主体＋E地ブ10%	A主体＋E地ブ3%＋2mm大のC1%				
372	13	90.65	18	円	9	円	A主体＋E地ブ5%	A主体＋E地ブ3%				
373	36	90.53	13	円	−	−	A主体	−				
374	25	90.57	21	円	11	円	A10YR3/2＋10YR3/1A30%	A主体＋E地ブ10%				
375	26	90.61	40×−	楕円	25×28	楕円	A＋E10%混	A主体＋E地ブ10%		※2		
376	欠番											
377	19	90.68	26×27	円	17×14	楕円	B主体	B主体	青磁皿(12c後)			
378	37	90.76	17×20	楕円	10	円	B＋A20%＋D少量混	B主体　粘性有り		378～381<17		
379	39	90.74	33×28	楕円	10	円	B主体＋D20%混	B主体＋D5%混				
380	45	90.68	38×−	円	16	円	B＋D1cm大で1%混	B				
381	39	90.72	58×60	円	−	−	A＋B20%＋D10%	−				
382	21	90.84	34×36	円	14×15	円	A10YR3/1＋10YR3/2A30%混	A＋10YR3/2A20%混				
383	6	90.95	21×22	円	11	円	B＋A20%＋D地ブ	A10YR3/1＋10YR3/2A20%				
384	8	90.88	20	楕円	10	円	A＋D地ブ30%	A主体		137>348		
385	9	90.99	32×34	楕円	10	円	F＋E地ブ20%	F＋E地ブ10%混		356<385		
386	12	90.75	50×41	−	−	−	A＋B20%＋D10%	−		※2		
387	不明	不明	不明	不明	不明	円	A＋2～5mm大のC2%混	A主体＋E地ブ20%混	新旧関係で最も古い　埋土しまりあり			12c以降
388	18	90.61	10×8	円	−	−	A主体＋E地ブ1%混	−				
389	21	90.58	12	円	−	−	A主体	−	小穴			
390	22	90.57	23×22	円	11	円	A＋E3%混	A10YR3/2＋10YR3/1A20%混				
391	29	90.51	31	円	14	円	A＋E地ブ5%1～2cm大混	A主体　10cm大の礫1		391>392		
392	25	90.55	29	円	11	円	A＋E地ブ5%混	A主体				
393	20	91.01	24×28	方形	−	−	E地ブ＋F30%混	−				
394	12	91.09	24×26	方形	−	−	E地ブ＋F30%混	−				

中尊寺跡
96

中尊寺跡96

表3　柱穴一覧（5）

柱穴No.	柱穴深さ	底面標高	掘方	形	柱痕跡	形	掘方、もしくは埋土	柱痕跡	備考	新旧関係	建物跡	年代
395	25	90.88	25×30	楕円	－	－	E地ブ＋F30%混	－				
396	7	91.02	34×38	楕円	－	－	F＋Z地ブ10%混	－				
397	27	90.76	50×41	－	－	－	A主体	－		102>397		
398	欠番											
399	19	90.29	18×14	楕円	－	－	A主体	－	洲浜(12C)	107>2溝>399・400		12c以降
400	28	90.47	24×15	楕円	－	－	A主体	－				
401	27	90.60	25×－	楕円	13	円	A主体	A主体		151>401<154<153		
402	38	90.52	53×－	円	－	－	A主体＋E地ブ20%	－		※2	2号建物	
403	16	90.93	30×30	方形	－	－	A主体	－		403<77>78		
404	欠番											
405	欠番											
406	16	90.96	18×19	円	－	－	A＋Z地ブ10%混	－				
407	42	90.41	27×－	円	－	－	B主体＋Z3%混	－				
408	欠番											
409	欠番											
410	30	90.43	48×43	楕円	20	円	A10YR3/1＋10YR3/2A30%混	A主体＋砂質5%		412<410<411<整地		
411	28	90.45	80×30	溝状	－	－	A主体＋Z20%混	－	中国産染付			
412		未計測	35	楕円	－	－	A主体＋Z10%混	－	礫1			
413	33	90.74	40×6	楕円	－	－	E主体＋F10%混	－			4号建物	
414	50	90.77	48×6	六角	23	円	E主体＋F10%混	F＋E30混			4号建物	
415	32	90.57	22×19	角？	－	－	A10YR3/2＋10YR3/1A30%混	－	染付磁器			不明
416	20	90.70	23×25	円	－	－	A＋Z20%混	－				
417	11	90.99	－×33	円	－	－	A＋Z10%	－		326>417		
418～422欠番												
423	50	90.52	45×43	角	16	円	G地ブ＋A20%	A＋Z10%混				
424	15	91.02	26	角	－	－	G地ブ＋A20%	－		424？425		
425	16	91.01	26	角	－	－	G地ブ＋A20%	－				
426	17	91.04	18×20	角	－	－	A主体＋E地ブ50%	－				
427	7	91.17	25×20	楕円	－	－	F＋E地ブ30%	－				
428	24	90.92	35×－	－	－	－	E地ブ＋B10%混	－		428？324		
429	不明	不明	27	角	12	円	G地ブ＋A20%混	A＋Z10%混				
430	26	90.65	32×－	－	－	－	E地ブ＋A20%混	－		224>430<1土		
431	15	90.78	－×25	－	－	－	E地ブ＋A30%混	－		190<431		
432	18	90.69	－×26	－	－	－	E地ブ＋A30%混	－		211？432		
433	18	90.64	19×20	－	11	円	A＋E地ブ10%混	A主体				
434	欠番											
435	43	90.42	49×－	－	23×－	－	B主体＋Z2%混	B主体		12>13？435	2号建物	
436	30	90.53	45×－	－	－	－	B主体	－		14>436		
437	30	90.45	－×35	－	－	－	F＋2.5Y7/6明黄褐シルト10%混	A＋2.5Y7/6明黄褐シルト5%混		368<437		
438	13	90.82	40×46	－	－	－	B主体	－		57>438		
439	欠番								柱穴130に名称変更			
440	7	90.95	19	円	－	－	A主体	－		397<102>103<104>440		
441	26	90.59	14	円	－	－	A主体	－		※3		
442	39	90.74	58×60	円	－	－	F＋Z地ブシルト30%混	－	掘方埋土のみ残存	233>442	2号建物	
443	17	90.76	18×18	円	10	円	A＋B20%＋Z2%混	A主体		443<2溝		

柱穴	略号	土色・土質
	A	10YR2/2黒褐シルト　10YR3/1黒褐シルト　10YR3/2黒褐シルト　7.5YR3/1黒褐シルト　2.5Y3/1～2.5Y3/2黒褐シルト
	B	10YR2/1黒シルト　7.5YR2/1黒シルト
	C	10YR2/1黒色炭化物
	D	10YR3/3暗褐シルト　10YR4/3にぶい黄褐シルト　10YR5/3にぶい黄褐シルト　10YR5/4にぶい黄褐シルト　10YR5/6黄褐シルト　2.5Y5/3黄褐シルト
	E	10YR6/3にぶい黄橙シルト　10YR6/4にぶい黄橙シルト　7.5Y6/2灰オリーブ　5Y5/2灰オリーブシルト　5Y5/3灰オリーブシルト　5Y6/2灰オリーブシルト
	F	10YR4/1褐灰シルト　10YR4/2灰黄褐シルト　2.5Y4/2暗灰黄シルト
	G	[illegible]
	Z	2.5Y7/3～2.5Y7/4浅黄シルト質地山ブロック　5Y6/3オリーブ黄シルト質地山ブロック　5Y6/4オリーブ黄シルト質地山ブロック　2.5Y6/3～2.5Y6/4にぶい黄シルト質地山ブロック
	地ブ	地山ブロック
新旧関係（新>旧）（旧<新）	※1	134<135<129>131>132　130<133<129
	※2	402<302<301<300<144<375>144>386>387<185<145・146
	※3	441>204>197>198>199>200>201　200<202

表4　遺構　掘立柱建物跡

遺構	規模		柱穴と柱間寸法	方位	新旧関係（新>旧）	埋土・主な遺物	推定年代
1号建物	南北4間以上8.40m	東西2間3.00m	柱穴12・31・37・78・234（西辺2.20m等間） 柱穴100・111・150・169（東辺2.20m等間） 柱穴234と169の中間に132（北辺3.00m等間）	N23°E	2号建物>1号建物	埋土：黒褐シルトとオリーブ地山ブロックの混土 遺物：[illegible]（柱穴100）	近世
2号建物	南北5間以上10.00m	東西1間5.50m	柱穴435・34・35・76・233もしくは442・236もしくは239（西辺2.00m等間） 柱穴110・107・119もしくは120・402もしくは300・199（東辺2.00m等間） 西辺と東辺の距離5.50m	N17°E	柱穴28>柱穴25	埋土：黒褐シルト主体 遺物：中世陶器（柱穴76） 鉄製品（柱穴233・236）	近世
3号建物	南北2間以上4.00m	東西1間5.20m	柱穴15・19・61（西辺2.00m等間） 柱穴53・108・123（東辺2.00m等間） 柱穴64と123の距離（北辺5.20m）	N11°E	3号建物 柱穴53>柱穴52	埋土：1号溝埋土由来の黒褐色土が主体 遺物：土師器（柱穴123）	近世
4号建物	南北3間以上7.50m	東西1間6.00m	柱穴242・295・297・414（西辺2.50m等間） 柱穴190・277・293・413（東辺2.50m等間） 柱穴414と柱穴413の距離（北辺6.00m） 柱穴413の北側2.00mに柱穴324　北側の張り出しか	N20°E	4号建物 柱穴190>191	埋土：灰オリーブ地山ブロック混黒褐シルト主体 [illegible] 遺物：なし	近世以降

表5　遺構　土坑・溝跡

遺構	規模 長軸m	幅 m	深さ cm	底面標高 m	形状	軸方位	新旧（新>旧）	備考	推定年代
1号土坑	1.70	1.22	30	90.61	平面長方形 断面U字形	N15°E	1号土坑>430<224	埋土1　10YR4/2灰黄褐シルト 下部グライ化　埋土2　10YR3/1黒褐シルト 縁辺に[illegible]ブロック混入 壁面[illegible]に板を含み、底面に板4枚を敷く	近代以降
2号土坑	0.15	0.14	12	90.30	平面円形 断面U字形	—	2号溝>2号土坑	埋土　10YR3/2黒褐シルト　底面直上に炭化物[illegible]	中世
1号溝	10.00以上	8.00以上	84	西端91.12 東端89.90	[illegible]	N80°E	全ての遺構よりも古い遺構	埋土　10YR3/2黒褐～10YR2/1黒シルト　自然堆積土 下部は炭化物多く混じる　遺物なし	12世紀以前に埋没
2号溝	4.10以上	1.20	10	北端90.80 南端90.74	断面U字形	N10～37°E	2号溝>2号土坑	埋土1　10YR3/2黒褐シルトとにぶい黄褐シルト20%混 埋土2　10YR3/1黒褐シルトと黒褐シルト10%混	近世

表6　遺物集計表

遺構	層位	かわらけ 点数	手	ロ	不明	重量(g)	その他(備考)	遺構の推定年代
柱穴								
1	掘方	1		1		3		
2	掘方	5	2		3	7	モモ核1　木片5	不明
2	柱痕跡	2			2	2		
3	掘方	2	1		1	3		
5	掘方	1	1			7		
7	掘方						中国産青磁1（13c）	中世以降
7	柱痕跡						柱根1	
13	埋土	1	1			4	木6	
13	掘方						銭貨（寛永通寳）1	中世以降
14	掘方	1			1	1		
15	埋土	1	1			3		12cか
17	柱痕跡						柱根1	近世
19	掘方	2			2	5	焼土1	不明
20	柱痕跡						木2	
21	柱痕跡						柱根1	近世
22	柱痕跡	4			4	4	柱根1	
25	埋土						鉄滓2	不明
25	柱痕跡	1			1	2		
27	掘方	2			2	3		
28	埋土	2	1		1	3	焼土2	
29	柱痕跡	1			1	1	柱根1	
31	埋土						木1	
31	掘方	2	1		1	4	炭1　木1	
36	柱痕跡	2			2	4	焼土1	
36	柱根						木7	
40	掘方	2		1	1	9		
47	掘方	1			1	1		
48	掘方	2	1		1	8		
49	掘方	6	3		3	16		12cか
49	柱痕跡	1			1	4		
50	掘方	1	1			3		
51	埋土	1	1			6	モモ核1	
52	掘方	63	15	4	44	279	鉄滓1　焼土1　炭1	12cか
52	柱痕跡	1			1	2		
53	掘方	2	2			4		
53	柱痕跡						渥美1（12c）	12c以降
54	掘方						焼土1	
56	柱痕跡	1			1	3		
56	掘方	2	1		1	5		
57	掘方	2			2	2		
59	柱痕跡						在地土器1	不明
61	掘方						中国産白磁1（11後～12c）	12c以降
62	埋土	2			2	1		
63	掘方	3			3	4	12cか中世か不明	12c以降
63	柱痕跡	2			2	11	12cか中世か不明	12c以降
64	掘方	2			2	2		
64	柱痕跡						木3	
68	埋土	1			1	1		
71	掘方						肥前染付1（18c）	近世以降
73	掘方						肥前染付1（18c）　石製品1	近世以降
73	柱痕跡						柱根1	
75	掘方	1			1	1		
76	掘方	5	2		3	12	中国産青磁1（13c後）　木1	中世以降
78	掘方	2			2	4		
82	掘方	1			1	1		
85	柱痕跡	2			2	3		
91	掘方	6	2	1	3	12		
91	柱痕跡	1			1	4		
94	柱痕跡	1			1	1		
95	掘方	2			2	3	焼土2	不明
95	柱痕跡	9	1		8	7	焼土1	不明
96	埋土	12			12	5		
96	掘方	4			4	8		
96	柱痕跡	2	1		1	8		中世以降
97	掘方	10	1		9	14	古瀬戸天目1（14c後）	中世以降
99	掘方	5		1	4	25	鉄製品1　焼土1	中世以降
102	埋土	2	2			10		
103	埋土						鉄滓1	不明
104	掘方	2		2		6	鉄滓1	不明
106	埋土	3	1		2	4		
106	掘方	2			2	2		
106	柱痕跡	1			1	1		
107	掘方	2			2	8		
107	柱痕跡	1	1			21		12cか
108	埋土	1			1	1		
108	掘方	2			2	1		
108	柱痕跡	1	1			4		12cか
109	埋土	9	8		1	29		12cか
109	掘方	5		2	3	9		
109	柱痕跡						金属片1	近世以降
113	埋土	1			1	2		
113	掘方	8	4		4	3	中国産染付1（16c）	中世以降
115	掘方						鉄滓1	不明
115	柱痕跡	1	1			3		12cか
115	柱根						木1	
119	埋土						中国産青磁1（13c後）	中世以降
119	掘方	2			2	4		
119	柱痕跡	3			3	4	木1	
121	掘方						焼土2	
122	埋土	1			1	1		
123	掘方	4			[illegible]	3	土師器1（9～10c）	不明
123	柱痕跡	1			1	1		
125	掘方	1			1	1	鉄滓1	不明
125	柱痕跡	5			5	2		
126	柱痕跡	2			2	2	鉄滓10	不明
127	埋土	1			1	1		
128	柱痕跡						焼土1	
129	掘方	1			1	2		
129	柱痕跡						中国産白磁1（13c後）	中世以降
135	埋土						中国産白磁1（12c）	12c以降
145	掘方	2			2	3	鉄滓1　焼土1	不明
145	柱痕跡						鉄滓3	不明
150	柱痕跡	1			[illegible]	8		
151	掘方	1			1	1	砥石1	不明
151	柱痕跡	1			1	3	中国産青磁1（12c後）	12c以降
153	掘方						鉄滓鉄製品1　木1	不明
153	埋土	2			2	2		
153	柱痕跡	2			2	4		
156	埋土						焼土1	
157	掘方	4			4	9	常滑1（12c）	12c以降
160	掘方	2			2	2		
162	掘方	4	2		2	7		
163	埋土	2			2	2		
166	掘方	1			1	4		
167	柱痕跡	1			1	3		
174	埋土	1			1	4	中国産白磁1（12c）	12c以降
176	掘方	1	1			3		
179	埋土	4	3		1	20	焼土2	
181	掘方	4			4	7		
186	掘方						焼土5	
187	柱痕跡						焼土1	
188	掘方	1		1		3		
191	掘方	2			2	3		
197	柱痕跡	3			3	2		
198	埋土	1	1			4		
198	掘方	1			1	1		
199	掘方	5	1		4	14	常滑1（12c）	12c
200	掘方						焼土3	不明
200	柱痕跡	3			3	1	焼土1	不明
202	掘方	4			[illegible]	3		
202	柱痕跡	1			1	1	焼土1	不明
217	埋土	2			2	1	近世陶器1	近世以降
217	柱痕跡						近世磁器1	近世以降
223	柱痕跡						木製品1	
228	柱痕跡						近世以降陶器1	近世以降
230	埋土	2			2	1		
233	掘方	1			1	1		
233	柱痕跡						柱根1	近世以降
236	柱痕跡						柱根1	近世以降
238	柱痕跡	1			1	4		
265	埋土						近世陶器1	近世以降
275	掘方						銅製品1	不明
288	埋土						古瀬戸天目1（14c後）	中世以降
291	掘方	1		1		4		
299	掘方	1	1			5		12c以降
312	埋土						銭貨（1円アルミ貨昭和32年）1	昭和
313	掘方	1			1	1		
339	掘方	1			1	2		
363	埋土	1			1	1		
363	柱痕跡	1	1			2		
365	埋土	1		1		6		
366	掘方	1			1	1		
366	柱痕跡	1			1	1	常滑1（12c）	12c以降
369	掘方	1			1	5		
374	埋土						礫1	不明
377	柱痕跡						中国産青磁1（12c後）	12c以降
380	埋土						木1	不明
397	埋土	3			3	4		
399	埋土						渥美1（12c）	12c以降
401	掘方	2			2	2		
407	埋土	4		1	3	20		
410	掘方	6	1		5	2		
411	埋土						中国産染付1	16c以降
413	埋土						須恵系土器1	不明
440	埋土						焼土5	
土壙								
1号土壙	掘方埋込め						近代陶器2	近代以降
1号土壙	埋土						肥前産磁器1（18c）　銅製品1	
2号土壙	埋土	1		1		30	銭貨（永楽通宝）1　中世ロクロかわらけ	13c以降
溝跡								
2号溝	埋土	18	1		17	21	銭貨（天聖元寶）1	中世以降
遺構外撹乱等一括		63	13	5	45	167	渥美1（12c）　須恵器系1（12c）　瓦質土器1　国産近世陶器4　近現代陶磁器33　不明土製品2　砥石1　鉄滓少量	
合計		720	82	22	316	1,063		

中尊寺跡 96

表7　遺物観察表

No	図版	写図	遺構　層位	器形等	法量(推定)cm 口径	底径	器高	残存(%)	年代	備考	登録No
1	12	7	柱穴52　掘方	ロクロ・小	7.8	5.0	1.9	80	12c	全体風化	253-1
2	12	7	柱穴52　掘方	手づくね・大	(14.0)		(2.5)	20	12c	やや風化	92
3	12	7	柱穴96　柱痕跡	手づくね・大	—	—	—	破片	13~14c	体部小片　厚手	10
4	12	7	柱穴99　掘方	ロクロ・大	—	—	—	破片	13~14c	底部小片　6に似る	96
5	12	7	柱穴107　埋土	ロクロ・小	(10.4)	(7.8)	1.8	20	12c	底部破片	258
6	12	7	2号土坑	ロクロ・大	—	6.5	(1.8)	40	13~14c	内面見込みナデ　細い回転糸切り痕	208
7	12	7	遺構外	ロクロ・鉢	—	—	—	破片	12c	ロクロ大型　鉢の底部か	16

表8　遺物観察表　国産陶器　中国産磁器　中世～近世以降陶磁器

No	図版	写図	遺構　層位	種類		器形	部位	年代	備考	登録No
8	12	7	柱穴157　掘方	国産陶器	常滑	甕	胴	12c		88-2
9	12	7	柱穴199　掘方	国産陶器	常滑	甕	胴	12c後		226
10	12	7	柱穴366　柱痕跡	国産陶器	常滑	甕	胴	12c	小片	195-2
11	12	7	柱穴53　柱痕跡	国産陶器	渥美	壺	胴	12c	外面縦格子押印	178
12	12	7	柱穴399　埋土中	国産陶器	渥美	甕	胴	12c	外面押印　内面黒色付着物有り	248
13	12	7	遺構外	国産陶器	渥美	壺	肩	12c		200-1
14	12	7	遺構外	国産陶器	須恵器系	甕	胴	12c後	エビバチ窯か　外面タタキ　内面当具痕　内面摩滅使用痕	200-2
15	12	7	柱穴7　掘方	中国産磁器	青磁	碗	口縁～体	13c後	龍泉窯蓮弁文碗	26
16	12	7	柱穴61　掘方	中国産磁器	白磁	碗	体	11c後～12c	Ⅱ類	47
17	12	7	柱穴76　掘方	中国産磁器	青磁	盤	体	13c後	17・18同一個体　内面薄黒く変色	94
18	12	7	柱穴119　埋土中	中国産磁器	青磁	盤	体	13c後	17・18同一個体　内面薄黒く変色	238
19	12	7	柱穴129　柱痕跡	中国産磁器	白磁	碗	口縁～体	15c後	中世　口縁端反り碗	224
20	12	7	柱穴135　埋土中	中国産磁器	白磁	壺	口縁～頸	12c	四耳　口径(11.3cm)	189
21	12	7	柱穴151　柱痕跡	中国産磁器	青磁	碗	口縁	12c後	同安窯	87
22	12	7	柱穴174　埋土中	中国産磁器	白磁	碗	体	12c	Ⅴ・Ⅷ類　細片	144
23	12	7	柱穴377　柱痕跡	中国産磁器	青磁	皿	体	12c後	龍泉窯　内面クシ目	112
24	12	7	柱穴113　掘方	中国産磁器	染付	碗	体・高台	16c	内外染付　外面文字文	82
25	12	7	柱穴411　埋土中	中国産磁器	染付	皿	体	16c	内外染付	260
26	12	7	柱穴97　掘方	中世～近世以降陶磁器	古瀬戸天目(陶器)	碗	体	14c後	細片　内外黒色釉	11
27	12	7	柱穴288　埋土中	中世～近世以降陶磁器	古瀬戸天目(陶器)	碗	体	14c後	内外黒色釉	249
28	12	7	柱穴71　掘方	中世～近世以降陶磁器	肥前染付(磁器)	碗	体	18c	内外染付	70
29	12	7	柱穴73　掘方	中世～近世以降陶磁器	肥前染付(磁器)	碗	体	18c	外面染付	71
30	12	7	柱穴217　柱痕跡	中世～近世以降陶磁器	瀬戸(陶器)	菊皿	口縁～体	16c	口縁折縁　口径(10.3cm)	147
31	12	7	柱穴217　埋土中	中世～近世以降陶磁器	唐津(陶器)	小碗	口縁	18c	胎土褐色	234
32	12	7	柱穴228　柱痕跡	中世～近世以降陶磁器	産地不明(磁器)	碗	体	不明	内外無文　近世以降	218
33	12	7	柱穴263　埋土中	中世～近世以降陶磁器	瀬戸(陶器)	皿	底～高台	16c	瀬戸美濃大窯	203
34	12	7	柱穴415　埋土中	中世～近世以降陶磁器	染付(磁器)	碗	口縁～体	16cか	内外染付文　中国産の可能性あり	268
35	13	7	遺構外	中世～近世以降陶磁器	在地	鉢	体	19c以降	内面卸目あり　近世末～明治	200

表9　遺物観察表　その他

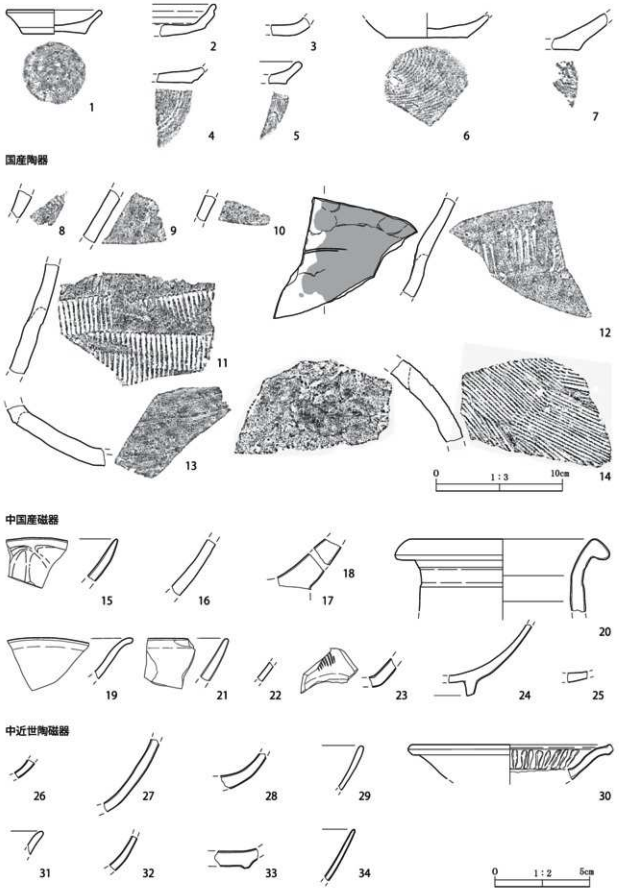
No	図版	写図	出土地点　層位	種類		法量cm 長さ	幅	厚さ	残存(%)	年代	備考	登録No
36	13	7	柱穴59　柱痕跡		瓦質土器	—	—	—	破片	不明	鉢の体か　断面にスリ面	68
37		7	柱穴312　埋土中	銭貨	1円アルミ貨				100	1957	昭和32年	8
38	13	7	2号溝　検出面	銭貨	天聖元宝	—	—	—	100	1023	北宋　天聖元宝　篆字体	7
39	13	7	柱穴13　掘方	銭貨	至大通宝				100	1310	元　至大3年	23
40	13	7	2号土坑　埋土中	銭貨	永楽通宝	—	—	—	100	1408	明　永楽6年　坑底面から出土　中世かわらけが伴う	207
41	13	7	柱穴99　掘方	金属関連	不明鉄製品	9.0	1.2	0.5	—	不明	全体サビ	95
42	13	7	柱穴109　柱痕跡	金属関連	球状	1.5	1.4	0.9	—	不明	白色扁平で円形　外面に緑青か　比重軽い	133
43	13	7	柱穴153　掘方	金属関連	釘状鉄製品	6.3	0.5	0.5	—	不明	先端J字形	104
44	13	7	柱穴275　掘方	金属関連	板状銅製品	6.5	2.2	0.1	—	不明	短冊状の薄い板　用途不明	173
45	—	7	柱穴25埋土上位	金属関連	鉄滓	—	—	—	—	不明	磁着有り　221g	160
46	13	7	柱穴73　掘方	石製品	不明	14.0	5.7	2.8	破片	不明	凝灰岩質　石臼もしくは石造物の破片か	72
47	13	7	柱穴374　埋土	石製品	硯	8.0	6.2	1.5	100	不明	陸部両側縁　破片接合	142－191
48	13	7	柱穴151　掘方	石製品	砥石	3.8	4.2	2.1	破片	不明	スリ面あり	239
49	13	7	柱穴123　掘方	土師器	不明	—	—	—	破片	9～10c	体部小片	99-2

かわらけ

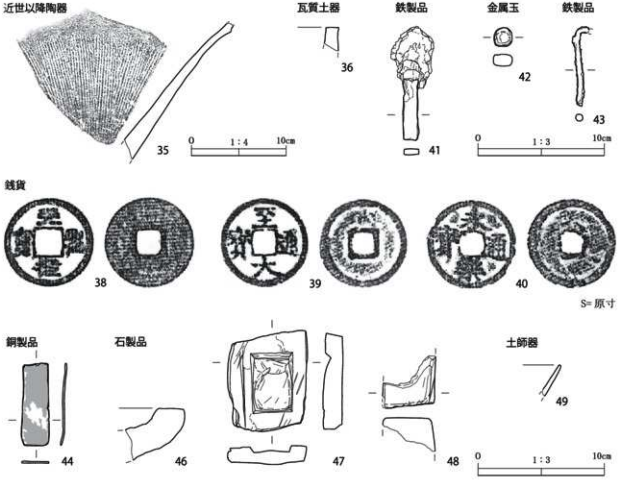
国産陶器

中国産磁器

中近世陶磁器



第12図　出土遺物（1/3・1/2）



第13図　出土遺物（1/3・1/4）

表10　出土した柱根

遺　構	現存法量(cm)			推定樹齢(年)	樹　芽	樹　種	整理番号
	高さ	幅	厚さ				
柱穴7	14.5	11.0	12.0	90.02	下端面内転に加工	未同定	271
柱穴17	40.5	19.5	20.3	90.72	平面八角形に面取りか下端面内転に加工	未同定	272
柱穴21	38.0	21.0	19.2	90.49	下辺面に斜入痕跡あり	未同定	273
柱穴22	17.5	17.0	14.5	90.75	上辺垂直して二角状	未同定	274
柱穴29	12.5	8.0	3.0	90.51	皮種著しい　小片	未同定	275
柱穴73	25.0	20.5	19.0	90.48	下端面内転に加工	未同定	276
柱穴233	30.5	23.0	19.0	90.59	中央部屈して樹頭二つに割れ	未同定	277
柱穴263	13.0	16.0	10.0	90.64	下端平らに加工	未同定	278

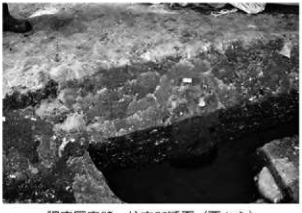
写真図版3　柱穴21・22の柱根（東から）

写真図版4　柱根

調査区南側の１号溝と土層断面（北から）

切土された西側の丘陵（東から）

南東隅の整地と１号溝深掘り断面（北西から）



調査区南壁　柱穴52断面（西から）

中尊寺跡第96次調査区全体　遺構検出状況（北から）

写真図版５

調査区南西側の柱穴完掘状況（南から）

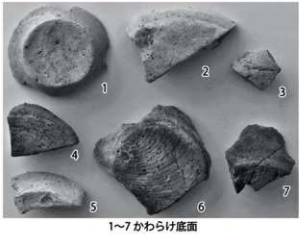
調査区北側の柱穴と撹乱（東から）

1号土坑完掘状況（南から）

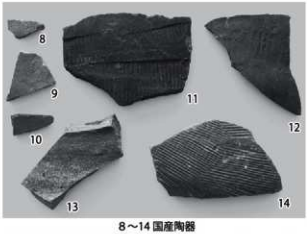
2号土坑から永楽通寶出土状況（南東から）

調査区南側の柱穴完掘状況（北東から）

写真図版6

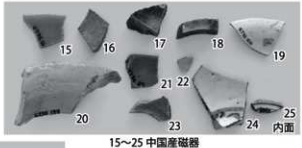


1～7 かわらけ底面

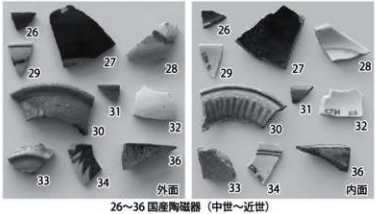


8～14 国産陶器

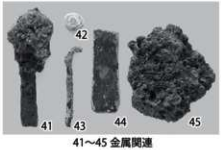
国産陶器



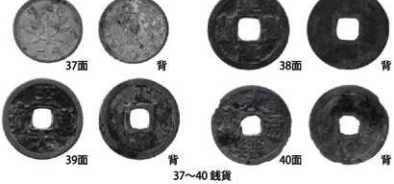
15～25 中国産磁器



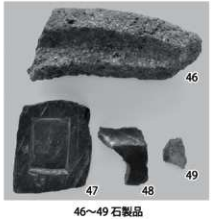
26～36 国産陶磁器（中世～近世）



41～45 金属関連



37～40 銭貨



46～49 石製品

写真図版 7　出土遺物

花立Ⅱ遺跡第27次発掘調査

1　調査要項

調査地点　岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立
調査面積　約740㎡　対象面積　799.65㎡
調査期間　令和２年６月４日～８月18日
調査原因　造成及び貸家建設
位 置 図　花立Ⅱ29次調査位置図（104ページ）参照
調査担当　鈴木江利子

2　調査の経緯

水田を造成・区画し、貸家４棟を建築するにあたり事前に発掘調査を実施した。造成は、表土（旧水田層深さ30cm）を全面除去し、砕石で埋める。

発掘調査では申請建物毎に調査区を区切り、北西区（申請建物１）、南西区（申請建物２）、南東区（申請建物３）、北東区（申請建物４）、とした。東側の道路から進入する中央の取り付け道路部分は、中央の西区と東区とした。

また、敷地南面から東側にかけて擁壁を設置するため調査対象としていたが、斜面部であり安全のため、工事の際に調査を合わせている。擁壁基礎に係るのは南辺の西寄りの部分で、他は区画整理の埋め土中で基礎が収まる見込みであったので随時立会で対応した。

3　調査概要

調査地を含む鈴沢地区全体は、昭和50年代に区画整理された水田が広がり、切土・盛土が行われているため遺構の残存状況は、場所により異なる。今回の調査箇所はおおむね盛土された一枚の水田であったことから、遺構はほぼ良好な状態で残っている。元々の地形は西から東に向かって低く、東側では南に下がっている。南東側が一番低く、地山の標高は31.2mである。調査前の水田面の高さ32.86～32.87mで、厚さ1.6～1.7mの造成盛土や自然堆積があった事になる。逆に地形で高い西側では、地山や遺構検出面は32.5～32.6mで、この差は30～40cmで、水田層がほとんどである。区画整理前には地形に合わせた北東から南西方向になだらかに伸びる数段の水田が区画されていた様子である。

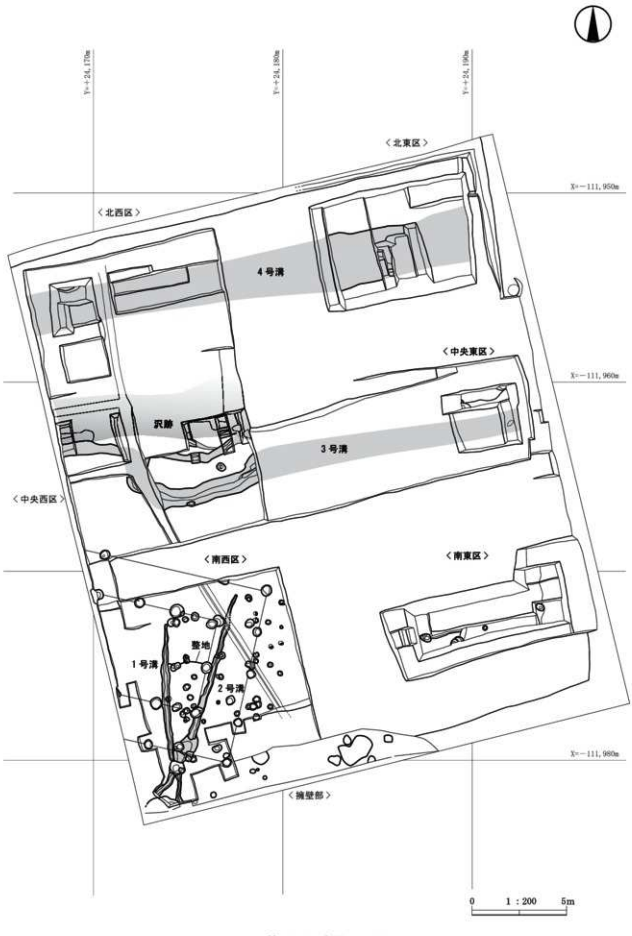
区画整理で用いた土砂は、現地で掘削されている場合も多く、盛土中にもかわらけや陶器等が混入していた。そのほとんどは12世紀のものであるが、一部は15世紀の陶器も含まれている。この事は、周辺の遺構年代を考える上で参考となる。

以下に遺構について報告するが、先に調査区ごとの特徴に触れる。

北西区・北東区：調査区北側を西から東に流れる沢跡が広がっていて、沢跡を切って4号溝も東西に延び、調査区外に続いている。沢跡の南岸は中央西区で検出しており、北岸については北西区・北東区のトレンチ内では検出していない。

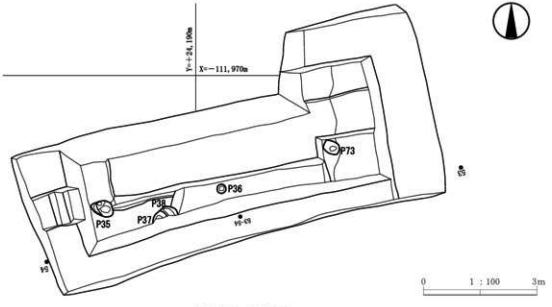
中央西区：沢跡の南岸や３号溝、他２条の溝跡、柱穴を検出している。沢跡は、南岸から緩い傾斜を示して北側に下がっている。沢跡より南側は地山を検出し、地山面は東に向かい下がっている。この面で溝跡等を検出した。現代の水田に伴う暗渠が北西―南東に設置されて、西側の調査区ではここを帯状に残して調査をしている。

中央東区：中央西区から続いていると思われる３号溝を検出している。３号溝と、３号溝に含まれないトレンチの下層から、かわらけや陶器などの遺物を出土している。

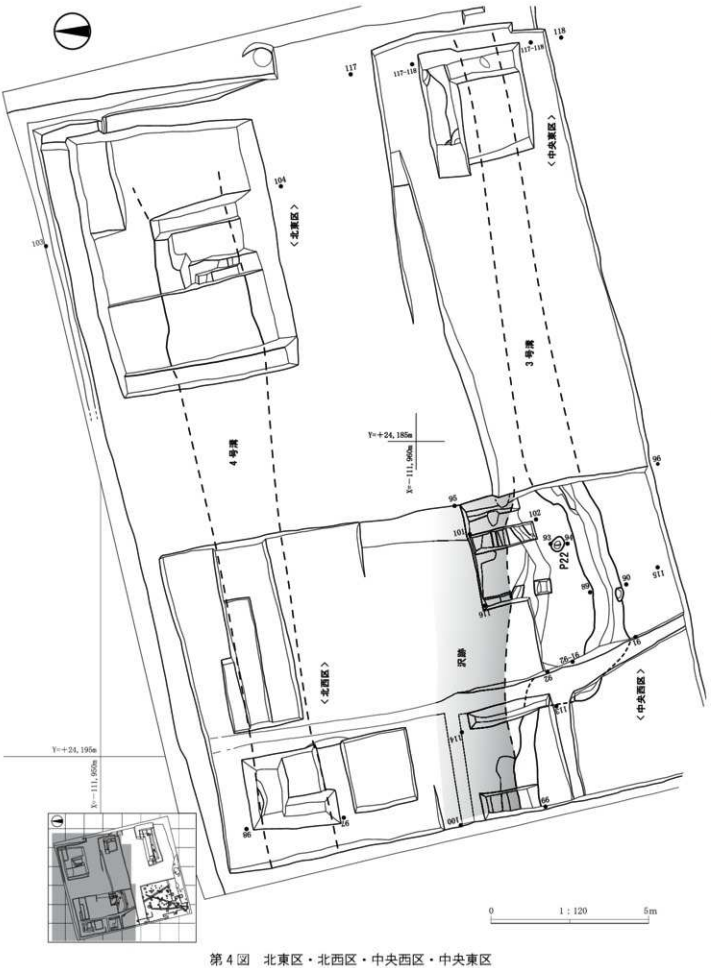

Y=+24,170m
Y=+24,180m
Y=+24,190m
〈北東区〉
X=−111,950m
〈北西区〉
4号溝
〈中央東区〉
X=−111,960m
沢跡
3号溝
〈中央西区〉
〈南西区〉
〈南東区〉
整地
1号溝
2号溝
X=−111,980m
〈擁壁部〉
0
1：200
5m

第1図　全体平面図

第2図　南西区



第3図　南東区



第4図　北東区・北西区・中央西区・中央東区

南西区：地山上の水田下層や遺物包含層には、かわらけや陶器などが多く含まれていた。ただ西端は地山が削平された状態であり、区画の東寄りに水田の暗渠が北西から南東方向に向かって掘設されている。柱穴や土坑、溝跡、整地層を検出している。柱穴が多く4棟の建物跡を構成している。

南東区：区画整理の盛土直下には昭和の水田層がそのまま埋められており、東側に下がる地形も示されている。12世紀と思われる柱穴を地山面で5個確認した。南壁際に検出したP37・38の土部は痩んだ様子であり、別の遺構（15層）が絡んでいる可能性がある。地山を覆う層から、かわらけや陶器が出土している。

南擁壁部：南擁壁部西側の調査で、遺物を含む土坑を2か所、柱穴9個などの検出があり、遺構名は101番からとしている。

全体での検出遺構は、柱穴83個、掘立柱建物跡4棟、土坑3基、沢跡1条、溝跡6条、整地などである。

（1）柱穴・建物跡

柱穴は主に南側から検出し、南西区では4棟の掘立柱建物跡を構成している。

1号建物：西側は調査区外にあるが、身舎が東西3間（6.6m）、南北2間（4.95m）で、4面に庇を巡らした建物と考えている。柱間隔は南北が2.5m、東西は2.0～2.3mである。庇は身舎から2.2m程度離れている。身舎の柱穴は径が60～70cm、深さは50cm以上である。4面の柱穴はこれよりやや小さくなっている。南東の柱穴から西に2番目（P75と76の間）の位置には対応する柱穴が検出していない。年代は溝や他の柱穴に切られているため、周辺では一番古い遺構である。柱穴からは、工具で削った様な木片を多く出土している。

2号建物：南北方向に長い3間（西辺の北から2.25、2.15、2.1m）×2間（北辺の東から2.0、1.95m）で、東に1間分の庇が付く。庇の身舎からの距離は1.0m程度である。1号建物と軸線が異なり、柱穴の切り合いでは1号建物より新しく4号建物より古い。柱穴の検出状況は2個がだるま状に重なっており、修理や同箇所での再建築などが考えられる。

3号建物：南北3間（西辺の北から2.0、3.0、3.0m）、東西2間（北辺西から2.0、1.8m）の建物である。北辺の中央はP39の東に接してあるが、溝渠と重複し保かな検出であった。南辺の中央は調査箇所から外しているため、確認できなかった。4号建物の柱穴に切られている。南東の柱穴は擁壁工事の調査で確認している。

4号建物：南北3間（西辺の北から2.5、2.65、2.5m）×東西2間（P56、P12、P46の間は2.0mずつである）の構成である。北辺の中央には柱穴を検出していないが、暗渠に切られていたのかはっきりしない。また、北側の柱穴は小規模であり、建物として構成してよいか確証がもてない。

遺構名	軸方向	構　成	備考	構成柱穴
1号建物	N 13° E	南北2間×東西3間	4面庇	14,31,40,25,16,27,39,70,71,2,24,43,21,72,76,75
2号建物	N　1° W	3間×　2間	東に庇	28,30,42,50,68,69,38,48,5,33,18,77,59
3号建物	N　1° E	3間×　1間		29,39東,51,56,47,66,71,17,105
4号建物	N　2° E	3間×　2間		27東,13,8,20,12,78,52,46,6

（2）土坑

調査区南側に1基、南擁壁工事の調査で2基検出している。先に102号土坑としていた箇所は、遺物が表面からの出土で浅く、遺物包含層の広がりであった。出土遺物などから全て12世紀の遺構と考えられる。

1号土坑：調査区南に検出した断面U字状の土坑である。3号建物跡の柱穴に切られている。かわらけや木片を出土している。木片の出土状況が1号建物の柱穴と似ている。

第1表　柱穴観察表

No	掘り方 (cm)	柱痕跡 (cm)	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物他
1	40 × 43	-	32.26	13	かわらけ 土壁
2	60 × 63	-	31.96	58	かわらけ 木片多 土壁 種
3	28 × 26	-	32.14	11	
4	37 × 31	18 × 14	31.96	44	木片少
5	39 × 36	-	31.70	45	
6	32 × 33	-	32.01	14	かわらけ 木片少 種子
7	40 × 36	-	31.89	24	かわらけ 鉄滓
8	30 × 33	10 × 10	32.05	34	かわらけ 炭
9	20 × 22	8 × 9	32.19	17	
10	50 × 43	-	32.18	11	かわらけ 石1~13cm140個
12	36 × 36	18 ×[10]	31.94	34	かわらけ 木片 焼土 炭
13	28 × 28	-	32.10	30	かわらけ 炭 石
14	50 × 46	30 ×[16]	32.20	22	石
16	50 × 51	24 × 22	31.92	52	木片小片
17	34 × 30	11 × [8]	31.91	39	かわらけ 陶器
18	59 × 47	-	31.84	64	かわらけ
19	32 × 30	-	32.18	21	かわらけ 土壁 炭 石
20	31 × 30	10 × 10	31.98	42	かわらけ 石
21	41 × 43	19 × 16	31.83	38	かわらけ 土壁 木片多 炭 鉄滓 石
22	48 × 36	13 × 14	31.85	14	かわらけ 炭 小石数点
23	30 × 25	-	31.73	46	木片少
24	71 × 47	-	31.95	42	かわらけ 木片 鉄滓
25	37 × 35	[14]× 36	32.09	46	
26	31 × 21	17 × 14	32.03	35	石
27	73 × 65	30 × 21	31.86	56	加工木 木片多 炭 石
28	37 × 45	14 × 17	31.91	50	かわらけ 木片少 柱根 鉄滓
29	31 × 30	11 × 12	32.06	33	かわらけ 炭 粘板岩 石
30	60 × 50	15 × 16	31.89	43	かわらけ 土壁 木片少
31	55 ×[20]	20 ×[15]	31.78	52	
33	29 × 26	-	31.73	35	土壁 種子
34	32 × 28	10 × [5]	32.06	34	
35	35 × 22	17 × [7]	31.21	32	かわらけ 木片少 炭 石
36	22 × 23	10 × 10	31.19	9	
37	30 ×[30]	-	31.22	14	かわらけ
38	48 ×[26]	-	31.21	26	炭
39	59 × 48	[7]× 15	31.79	52	かわらけ 板状木片 木片少
40	53 × 59	20 × 18	31.74	37	木片少
41	[27]× 37	13 × 12	31.77	31	かわらけ 鉄滓
42	44 × 47	23 × 23	31.85	30	
43	44 × 48	21 × 21	31.68	45	かわらけ 木片少
44	16 × 17	14 × 15	31.92	14	
45	20 × [8]	11 × 10	31.95	12	かわらけ
46	28 × 27	13 × 12	31.66	50	かわらけ 木片少 炭
47	24 × 26	13 × 10	31.96	19	
48	27 × 26	10 × 12	31.63	46	かわらけ
49	24 × 28	-	31.93	15	
50	27 × 26	-	31.90	19	かわらけ
51	[15]× 27	10 × 10	31.96	15	
52	[10]× 18	14 × 14	31.90	23	
53	33 × 39	17 × 15	31.88	29	かわらけ 炭
54	17 × 19	-	32.14	16	
55	21 × 29	18 × 20	32.05	22	かわらけ
56	29 ×[23]	13 × 12	32.06	36	かわらけ 土壁 炭
57	29 × 24	12 × 13	32.11	24	
58	[30]× 58	12 × 14	31.70	48	かわらけ 木片少 炭
59	55 × 37	16 ×[12]	31.96	43	かわらけ 木片少 柱根 石器剥片
60	21 ×[17]	13 ×[12]	-	-	
61	18 ×[12]	9 × 10	31.97	13	
62	24 × 23	13 × 12	32.11	23	かわらけ
63	40 ×[27]	[23]×[17]	32.07	23	鉄滓
64	[20]× 42	[11]× [7]	31.71	44	かわらけ 木片少
65	24 × 25	11 × 9	-	-	
66	29 × 41	14 × 12	31.99	34	種子 鉄滓
67	[16]× 29	9 × 10	32.30	18	
68	36 × 30	15 × [6]	31.92	52	炭
69	[20]× 33	-	31.96	50	炭
70	54 × 62	-	31.74	50	加工木 木片少 炭
71	28 ×[13]	-	31.91	28	
72	45 × 39	20 × 20	31.80	44	鉄滓 木片
73	23 × 16	-	31.13	9	
74	[22]× 46	[23]× 38	32.36	24	
75	42 × 49	-	32.02	55	かわらけ 鉄滓 石
76	57 × 43	-	31.83	46	かわらけ 木片少
77	49 × 33	-	31.98	30	種
78	32 × 28	-	-	-	
101	51 × 38	-	-	46	かわらけ 陶器 土壁 炭
102	41 × 54	-	-	57	土壁 炭 石
103西	31 × 31	12 × [5]	-	34	かわらけ 土壁 鉄滓
103東	[32]× 52	13 ×[11]	-	33	
104	50 ×[48]	[9]× 19	-	54	かわらけ 木片
105	28 ×[23]	13 × [6]	-	-	
106	25 × 26	-	-	11	

101号土坑：南擁壁部で検出した。かわらけや陶器、石などを多く出土している。

103号土坑：南擁壁部の範囲で南半分を検出した。検出時に柱穴に切られている痕跡を確認したが明確でない、柱穴とすれば4号建物に伴う柱穴の可能性がある。

遺構名	検出規模（m）	平面形	深さ（m）	検出標高（m）	底面標高（m）	検出位置	出土遺物
1号土坑	0.60 × 0.80	円形	0.59	32.50	31.91	南西区	かわらけ 陶器 土錘 炭
101号土坑	1.43 × 1.17	不整形	0.13	-	-	南擁壁	かわらけ 陶器 鉄滓 石 土塁
103号土坑	0.83 ×[0.62]	円形	0.27～0.35	-	-	南擁壁	かわらけ 陶器 炭 石

（3）溝跡

1号溝・2号溝：浅く小規模な溝であるが、両側は表土から検出面までが浅いため、削平されている可能性がある。銭を挟いた様な位置関係の2条は、南側の1号土坑で交差し、南に向かう様子を示す。しかし南側で方向が少しずれており、交差点での遺構もはっきりしない状態である。南端では地形に合わせているのか底は下がっている。両溝の底の傾斜は曖昧で、僅かに凹凸するが流れの方向ははっきりしない。1号溝は3・4号建物に沿う様にあり、関係する可能性がある。

3号溝：中央西では水田層直下から検出し、東に延びた箇所で暗渠と重なり蛇行している。暗渠に重なる箇所は明瞭ではないが、南北方向（N31°W）に屈曲し、再び東西方向に向いている。溝は数回掘り直された痕跡がある。東に13m離れた中央東区ではこの続きと思われる溝が検出している。西から東にかけてはN78°Eの方向である。砂を多く含む層を掘り込んでおり、やはり掘り直しの痕跡がある。当溝からはかわらけや陶器、桃類の種などを出土している。12世紀の遺構と考えられる。

4号溝：北西区が上流側、北東区が下流側で、底は東が23cm低くなっている。北西区ではV字形の断面形をやや保っているが、下流側の北東区では開いた形である。また、北東区断面103-104では掘り直しの痕跡も認められる。上層の堆積状態では自然堆積を呈し、最後には粘土ブロックで埋め立てられた状態である。直線的に進んでいることから、区画を意図した溝と考えられる。遺物は12世紀のかわらけや中国産の磁器が出土している。

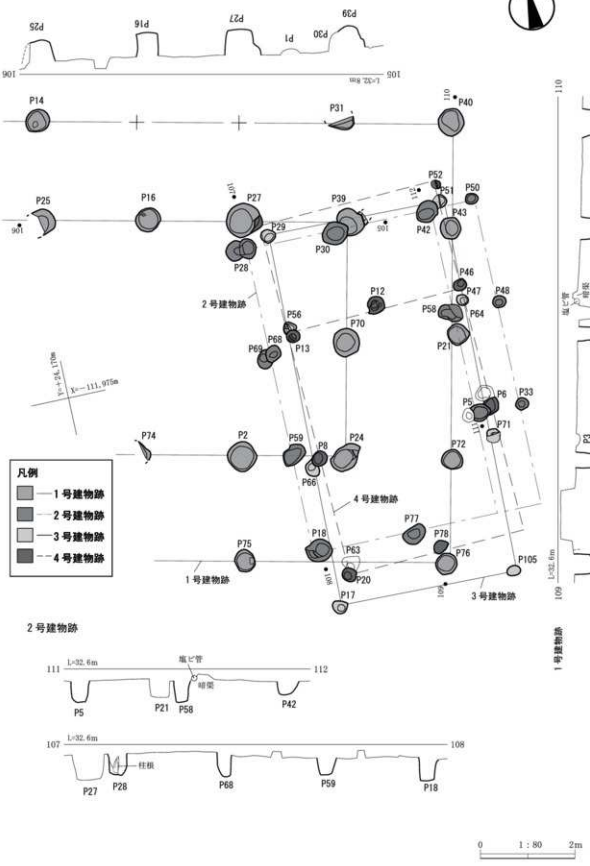
その他の溝：中央西区では3号溝以外の2条の溝が検出しているが部分であり全組は不明である。沢への排水用かと考えられるが、東ベルト断面では輪郭を確認できなかったため、侵食されていると思われる。

遺構名	検出長（m）	幅（m）	深さ（m）	方向	検出標高（m）	底面標高（m）	検出位置	出土遺物
1号溝	9.5	0.16～0.42	0.05～0.13	N 4°W	32.46～32.54	32.38～32.44	南西区	かわらけ 陶器 瓦 鉄滓
2号溝	11.5	0.18～0.40	0.06～0.20	N17°E	32.28～32.44	32.22～32.29	南西区	かわらけ 陶器 種子
3号溝	25.4	0.95～1.20	0.26～0.30	(N31°W～) N78°E	31.40(東)～32.52(西)	31.10(東)～32.32(西)	中央西区・東区	かわらけ 陶器 刻印 瓦 木製品 種子
4号溝	21.0	2.40～2.47	0.58～0.88	N72°E	32.10(東)～32.60(西)	31.52(東)～31.72(西)	北西区～北東区	かわらけ 磁器 木製品 種子 鉄滓

（4）沢跡

中央西区では沢跡の南岸部分を検出している。南岸を確認できるのは範囲の東壁までで、中央東区では沢跡の肩の部分は検出していない。北岸は、数地北の高い水田の傾斜地あたりが想定でき、沢幅は10m以上と考えられる。深さは、検出面から1m程掘削しているが、底面には達していない。検出標高は、中央西区で31.9m～32.6mで東に向かい低くなっている。北東区北側で底からの立ち上がりと考えられる硬い層が検出している。標高は31.67mから34.4mを測る。

〈南西区建物跡〉



第 5 図　南西区建物跡

19-20
1 10YR5/1 褐灰粘土 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック混入 鉄分含 炭少し含
2 2.5Y5/1 黄灰砂 鉄分含 2.5Y7/3 浅黄小粘土ブロック混入
3 2.5Y5/1 黄灰砂 2.5Y7/2 灰黄粘土ブロック混入
4 5Y6/1 灰粘土 同色砂混入
地山 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロックと砂

21-22
1 10YR5/2 灰黄褐粘土 鉄分多く含 石の下粘性強い
2 10YR5/6 黄褐粘土～砂のブロック 10YR5/2 灰黄褐シルト
3 10YR5/2 灰黄褐粘土 砂含
4 10YR6/2 灰黄褐粘土 レンズ状に堆積している 2.5YR4/6 褐粘土～砂混入する
5 2.5Y6/1 黄灰粘土 水分含
6 2.5Y6/6 明黄褐砂 2.5Y6/1 黄灰粘土～砂混入
7 5GY6/1 オリーブ灰砂 2.5Y4/1 黄灰粘土ブロック混入

45-46
1 5Y7/2 灰白粘土ブロックと砂 2.5Y5/1 黄灰粘土～シルト混じる
2 2.5Y6/2 灰黄粘土
3 5Y7/2 灰白粘土 2.5Y7/3 浅黄砂含 2.5Y5/1 黄灰粘土混入

49-50
1 10YR5/6 黄褐と 10YR6/1 褐灰粘土ブロック主体 2.5Y6/6 明黄褐ブロック混入 -30 からは 5GY5/1 オリーブ灰粘土 10YR3/2 黒褐粘土 木片混入
2 掘方同で 10YR5/4 にぶい黄褐の粘土と砂混入する

55-56
1 2.5Y5/1 黄灰粘土 鉄分含 10YR4/1 褐灰粘土 マンガン含
2 2.5Y4/1 黄灰 10YR4/1 褐灰粘土混入

83-84
1 10YR6/6 明黄褐粘土 5Y6/1 灰粘土と砂混入 下位に木片と 2.5Y4/1 黄灰粘土ブロック含
2 10YR6/6 明黄褐粘土 柱痕跡より混じりが少ない

41-42
1 10YR5/6 黄褐粘土 2.5Y7/2 灰黄粘土 10YR5/1 褐灰粘土と砂混入
2 2.5Y6/1 黄灰粘土 7.5Y6/1 灰砂層 位状に混入

87-88
1 土力は 10YR5/8 黄褐粘土ブロック主体 10YR6/3 にぶい黄橙シルト～砂混じる 中位は 10YR4/4 褐灰粘土 下位は 5GY6/1 オリーブ灰の砂ブロック混入する
2 10YR5/8 黄褐粘土ブロック 10YR7/1 灰白砂混入
3 10YR4/1 褐灰粘土と 2.5Y6/4 にぶい黄粘土ブロック混じる

57-58
1 2.5Y5/6 黄褐粘土ブロック 上位に鉄分含 2.5Y5/1 黄灰粘土含
2 5G6/1 緑灰粘土と 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック混入 5Y5/1 灰粘土～砂も少し混入する
3 2.5Y5/6 黄褐粘土ブロック主体と 2.5Y6/1 黄灰砂(粘土)混入
4 2.5Y5/6 黄褐粘土ブロック主体と 2.5Y6/1 黄灰砂(粘土)3 層よりも多く混入

47-48
1 10YR4/6 褐 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入
2 10YR5/2 灰黄褐砂 粘土混じる
3 10YR5/6 黄褐粘土 下位に 10YR5/2 灰黄褐粘土～砂堆積する
4 10YR6/8 明黄褐粘土 10YR5/2 灰黄褐粘土～砂混入 2.5Y5/1 黄灰粘土混じる
5 2.5Y4/1 黄灰 5Y7/1 灰白粘土ブロック混入
6 10YR5/2 灰黄褐シルト～粘土 10YR5/6 黄褐粘土と砂混入
7 10YR5/6 黄褐粘土と砂 10YR5/2 灰黄褐粘土混入
8 2.5Y4/1 黄灰粘土 5Y7/2 灰白粘土ブロック混入
9 10YR4/6 褐粘土ブロック 2.5Y6/2 灰黄粘土と 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック混じる 炭含
10 5GY7/1 明オリーブ灰砂

1-2
1 5Y4/1 灰粘土 砂含 2.5Y7/6 明黄褐と 10YR4/4 褐の粘土ブロック混入する区画整備堆
2 10YR4/4 褐粘土 鉄分集積層(水田)
3 2.5Y4/1 黄灰粘土 鉄分・カーボン含 砂含
3* 2.5Y4/1 黄灰粘土 3 層より粘性有り砂少ない
3* 2.5Y4/1 黄灰 3'よりも混じり少なく粘性有
4 2.5Y4/1 黄灰粘土 カーボン含 2.5Y7/2 灰黄 10YR4/4 褐粘土ブロック混入
5 5Y5/1 灰粘土 10YR5/6 黄褐粘土少し混じる 鉄分・炭含
6 5Y6/1 灰粘土 10YR5/6 黄褐粘土混入 鉄分・炭含
7 5Y6/1 灰粘土 鉄分含 砂少し含 炭少し含
8 5Y5/1 灰粘土 砂含 炭含
9 5Y5/1 灰粘土 鉄分含 5Y4/1 灰粘土混入
地山 10YR7/2 にぶい黄橙粘土～ 10YR4/4 褐砂

0 1:60 2m

第6図 柱穴（1）・調査区北壁

43-44
1 2.5Y6/1 黄灰粘土 2.5Y7/3 浅黄粘土少し混入
2 2.5Y7/3 浅黄粘土 2.5Y6/1 黄灰粘土混入
3 2.5Y6/1 黄灰粘土 2.5Y7/3 浅黄粘土 炭分・炭含
4 2.5Y6/1 黄灰粘土 2.5Y7/3 浅黄粘土混入 鉄分含
5 10YR5/6 黄褐砂 2.5Y6/1 黄灰と 2.5Y7/3 浅黄粘土混入 鉄分含
6 10YR5/6 黄褐砂 2.5Y6/1 黄灰と 2.5Y7/3 浅黄粘土混入 鉄分含

51-52
1 2.5Y7/2 灰黄と 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック
2 2.5Y6/1 黄灰粘土と砂混入

59-60
1 10YR5/2 灰黄褐シルト～粘土 砂混じる 10YR6/6 明黄褐粘土混入 下位はブロック大きい 炭含
2 10YR5/2 灰黄褐粘土～砂 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック混入

81-82
1 5Y6/1 灰 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック・砂など混じる
2 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック 10YR5/6 黄褐砂と 5Y7/2 灰白粘土ブロック混入
3 掘りすぎ 5GY6/1 オリーブ灰粘土

73-74
1 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック 2.5Y6/1 黄灰粘土ブロック混入 炭少し混じる
2 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック 2.5Y6/1 黄灰粘土ブロック混入 炭少し混じる
3 2.5Y5/1 黄灰粘土 10GY7/1 明緑灰砂混入
4 1・2 と同 黄灰多い様

75-76
1 10YR6/2 灰黄褐 下位は 5G6/1 緑灰砂・粘土混じる
2 10YR5/1 褐灰粘土 砂混入 10YR6/2 灰黄褐粘土ブロック混じる

85-86
1 柱痕跡 10YR5/2 灰黄褐シルト 2.5Y8/3 淡黄混入 下位は 2.5GY7/1 明オリーブ灰粘土ブロック
2 10YR5/2 灰黄褐シルト 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック
3 10YR5/2 灰黄褐シルトブロック混入

33-34
1 10Y4/1 灰粘土 5Y7/2 灰白粘土ブロック少し混じる 炭少し含
2 2.5Y5/1 黄灰粘土 5Y7/2 灰白粘土ブロックと 10YR4/4 褐シルトと粘土ブロック混じる 鉄分含
3 10YR4/6 褐シルト 2.5Y6/1 黄灰砂混じる 炭含 P19 上
4 2.5Y5/2 暗灰黄砂 同粘土混じる 10YR4/6 褐砂混入 炭含
5 5Y6/1 灰粘土

61-62
1 5GY6/1 オリーブ灰粘土 かわらけから下には 5Y5/1 灰粘土ブロックが多くなっている
2 5GY6/1 オリーブ灰粘土 5Y5/1 灰粘土ブロック混入

17-18
1 10YR4/6 褐シルトと 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック 2.5Y8/1 黄灰シルト～砂など混じる 層
2 2.5Y5/1 黄灰粘土 砂含 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック少し混じる 炭含

9-10
1 7.5YR4/6 褐粘土 10YR5/3 にぶい黄褐シルト混入
2 10YR5/2 灰黄褐粘土 炭上方に多く混入
3 炭層 10YR2/1 黒粘土 下位に 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロックと粘土塊含

15-16
1 10YR4/6 褐粘土 同砂混じる 10YR5/1 褐灰粘土混入 下 7cm程は 5GY6/1 オリーブ灰 水分 炭含
2 10YR6/6 明黄褐粘土 2.5Y6/6 明黄褐粘土 2.5Y5/1 黄灰粘土～シルト混じる 炭少し含
3 10YR4/4 褐 鉄分含 2.5Y6/2 灰黄粘土混じる
4 10YR7/8 黄橙粘土 炭含 2.5Y7/1 灰白粘土混入

27-28
1 2.5Y5/1 黄灰粘土 砂含 下位は青味がかる
2 7.5YR6/8 橙粘土と 10YR5/2 灰黄褐粘土のブロック混入 鉄分含
3 10Y5/1 灰粘土 砂含 2.5Y4/1 黄灰粘土混入
4 10YR6/2 灰黄褐粘土 10YR5/6 黄褐粘土ブロック混入 鉄分含 下位は砂

13-14
1 10YR6/6 明黄褐粘土 2.5Y5/2 暗灰黄混じる
2 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 10YR5/6 黄褐粘土ブロック混入
3 10YR6/2 灰黄褐粘土 10YR5/6 黄褐粘土と砂ブロック少し混入
4 10YR5/2 灰黄褐粘土 10YR5/6 黄褐粘土と砂ブロック混入
5 10YR5/6 黄褐粘土 10YR5/1 褐灰粘土少し混じる 崩壊層
6 2.5Y5/1 黄灰粘土 5GY6/1 オリーブ灰粘土と砂混入
P17
1 柱痕跡 2.5Y5/2 暗灰黄砂 鉄分含
2 掘方 10YR5/6 黄褐～5Y7/2 灰白粘土ブロック

11-12
1 2.5Y5/1 黄灰粘土 砂含 石多く含

63-64
1 10Y5/1 灰粘土 炭・砂少し含
2 10YR5/8 黄褐粘土 5GY6/1 オリーブ灰粘土混入 上面に鉄分含

93-94
1 5Y5/1 灰粘土 2.5Y2/1 黒筋状に入る
2 7.5Y6/2 灰オリーブ砂 同粘土混じる

79-80
1 下位に 10YR3/1 黒褐粘土ブロック入る 10YR6/2 灰黄褐砂 鉄分含
2 10YR5/8 黄褐粘土ブロック 10YR6/3 にぶい黄橙粘土ブロック混入
3 地山 2.5Y6/4 にぶい黄と 2.5Y7/2 灰黄粘土ブロック

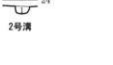
0 1：60 2m

第7図　柱穴（2）・土坑

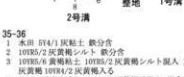
南西区 1・2号溝

31-32
1 10YR5/2 灰黄褐粘土 鉄分含 木田層
2 2.5Y5/3 黄褐粘土 鉄分・砂含 木田層
3 10YR5/2 灰黄褐シルト 鉄分集積する
4 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 粗い砂混じる 鉄分含 2.5Y8/3 淡黄粘土ブロック混入
5 2.5Y4/1 黄灰粘土 粗い砂混じる 2.5Y8/3 淡黄粘土ブロック混入
6 10YR7/8 黄橙～5/6 粘土ブロック主体 10YR4/2 灰黄褐砂混じる
7 10YR6/2 灰黄褐粘土 同砂と 10YR5/8 黄褐粘土ブロック混入

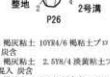
25-26
1 10YR5/1 褐灰シルト(砂) 10YR5/6 黄褐粘土ブロック混入 鉄分含 炭少し含



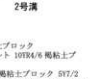
23-24
1 10YR5/2 灰黄褐シルト 砂含 10YR3/4 暗褐シルト 炭混じる 鉄分多く含



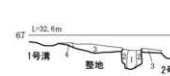
35-36
1 水田 5Y4/1 灰粘土 鉄分含
2 10YR5/2 灰黄褐シルト 鉄分含
3 10YR5/6 黄褐粘土 10YR5/2 灰黄褐シルト混入 10YR6/2 灰黄褐 10YR4/2 灰黄褐入る
4 5Y4/1 灰砂～粘土 10YR4/2 灰黄褐砂混入 炭含
5 10YR5/6 黄褐粘土 10YR5/2 灰黄褐砂と粘土混じる
6 10YR5/2 灰黄褐砂 10YR5/6 黄褐粘土ブロック少し混じる
7 2.5Y7/3 浅黄粘土
8 ブロック層 対側と同



71-72
1 10YR5/1 褐灰粘土 10YR4/6 褐粘土ブロック混入 炭含
2 10YR5/1 褐灰粘土 2.5Y8/4 淡黄粘土ブロック混入 炭含
3 10YR4/6 褐粘土と 2.5Y8/2 灰白と 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック混入 鉄分・炭含
4 10YR5/1 褐灰粘土 2.5Y8/2 灰白粘土と 10YR5/2 灰黄褐砂混入



69-70
1 10YR6/8 明黄褐粘土ブロック
2 2.5Y5/2 暗灰黄シルト 10YR4/6 褐粘土ブロック混入
3 柱痕跡 10YR5/8 黄褐粘土ブロック 5Y7/2 灰白粘土ブロック混入 10YR6/2 灰黄褐粘土ブロック混入
4 掘り方 10YR5/8 黄褐粘土ブロック 5Y7/2 灰白粘土ブロック混入 10YR6/2 灰黄褐粘土ブロック3層より少ない
5 10YR3/2 黒褐粘土ブロック

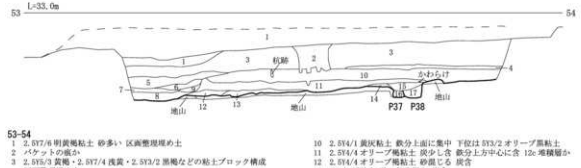


67-68
1 10YR4/6 褐と 2.5Y6/6 明黄褐・10YR5/2 灰黄褐粘土ブロック混じる 下位に 10YR4/6 褐砂多く含 炭少し含
2 2.5Y6/6 明黄褐・10YR5/2 灰黄褐粘土ブロック混じる
3 3 号壁 10YR5/6 黄褐～4/6 褐砂～粘土ブロック 10YR6/2 灰黄褐粘土・砂混入 しまり有
4 10YR5/8 黄褐粘土ブロック 2.5Y6/1 黄灰シルト混入 炭含

39-40
1 10YR5/6 黄褐粘土 2.5Y5/2 暗灰黄粘土と砂混入
2 5Y7/2 灰白粘土と 10YR5/6 黄褐粘土ブロックに 10YR5/2 灰黄褐砂混入
3 10YR4/6 褐粘土 5Y6/1 灰と 2.5Y5/1 黄灰粘土と砂混入 若干下位に粗い砂堆積
4 2.5Y4/1 黄灰粘土 上位鉄分多くしまり有 下位青味がかり砂・炭含 5Y7/2 灰白粘土と 10YR5/6 黄褐粘土ブロックに 10YR5/2 灰黄褐砂混入

0 1:60 2m

南東区

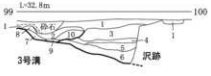


53-54
1 5YT/6 明黄褐粘土 砂多い 区画整理埋め土
2 バケットの底か
3 2.5Y5/3 黄褐・2.5Y7/4 浅黄・2.5Y3/2 黒褐などの粘土ブロック構成 区画整理埋め土
4 2.5Y3/2 黒褐粘土 鉄分含 木田か旧表土
5 旧表土か 5Y4/1 灰粘土 草混じる
6 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土
7 旧表土 草根多い 5Y4/1 灰粘土 砂・草・炭部状に堆積
8 5Y4/1 灰粘土 砂・草混入 下は地山混じる
9 2.5Y4/1 黄灰粘土
10 2.5Y4/1 黄灰粘土 鉄分上面に集中 下位は 5Y3/2 オリーブ黒粘土
11 2.5Y4/4 オリーブ褐粘土 炭少し含 鉄分上方中心に含 12c 堆積層か
12 2.5Y4/4 オリーブ褐粘土 砂混じる 炭含
13 5Y4/1 灰粘土 砂・鉄分混入 炭含
14 10YR6/8 明黄褐 地山か
15 10YR5/6 黄褐粘土 5Y6/3 オリーブ黄粘土 砂混入 炭含
16 10YR5/6 黄褐粘土 5Y6/3 オリーブ黄粘土 砂混入 炭含
17 7.5YT/1 灰白 10YR5/6 黄褐粘土ブロック混入 10YR4/1 褐灰砂も混入する
地山 10YT/2 灰白～5YT/4 浅黄粘土 砂含

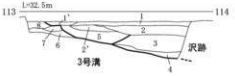
0 1:80 2m

第8図 断面図(南西区1・2号溝、南東区)

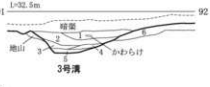
中央西区



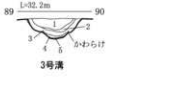
99-100
1 10YR4/4 褐 表土 7.5YR5/8 明褐 鉄分多い
2 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 攪乱の影響有
3 2.5Y6/6 明黄褐(10G5/1 緑灰)粘土ブロック 砂混入
4 7.5Y4/1 灰 粗性強い 10YR6/1 灰砂が筋状にある
5 5Y4/1 灰粘土 2.5Y6/4 にぶい黄粘土ブロック 炭混入
6 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 2.5Y6/4 にぶい黄粘土ブロック 炭混入
7 2.5Y5/2 暗灰黄砂 7.5Y5/2 灰オリーブ粘土ブロック含
8 10YR5/3 にぶい黄褐粘土 鉄分含
9 5Y4/1 灰粘土 5GY5/1 オリーブ灰粘土ブロック混入 炭分か不明
10 2.5Y6/6 明黄褐 5GY7/1 明オリーブ灰混入 鉄分混入



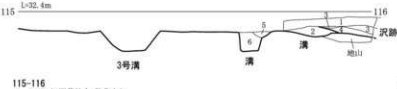
113-114
1 10Y4/1 灰シルト 5GY6/1 オリーブ灰粘土ブロック混入
1' 同上 鉄分含
2 10Y5/1 灰粘土 炭・砂含 10Y6/1 灰粘土ブロック混入
2' 5GY6/1 オリーブ灰粘土 2 層の砂と粘土が混じる
3 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 炭・木片含 10Y5/1 灰粘土ブロック少し混じる
4 10YR5/2 灰黄褐砂 2.5Y4/2 暗灰黄粘土混じる 木片含
5 10Y4/1 灰粘土 10GY5/1 緑灰砂ブロック混入 かわらけ入る 砂含
6 地山 5Y7/2 灰白粘土
7 地山 5Y7/2 灰白 砂多い
8 2.5Y5/2 暗灰黄砂 鉄分含



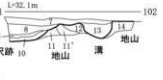
91-92
1 2.5Y5/1 黄灰 5Y7/2 灰白粘土ブロック混入
2 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 下位に炭含 2.5Y7/2 灰黄粘土ブロック混入
3 5Y5/1 灰 5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入
4 5Y6/2 灰オリーブ砂
5 5Y4/1 灰粘土 炭含
6 地山 5Y7/3 浅黄粘土 10YR5/8 黄褐粘土・砂含



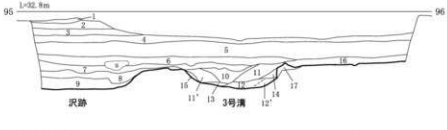
89-90
1 2.5Y5/1 黄灰粘土～シルト 5Y7/3 浅黄粘土と砂ブロック混入 鉄分含
2 2.5Y4/1 黄灰粘土 炭含
3 5Y6/2 灰オリーブ砂
4 5Y4/1 灰粘土 炭含
5 5Y5/2 灰オリーブ砂



115-116
1 2.5Y6/2 灰黄粘土 鉄分少し
2 2.5Y6/2 灰黄砂 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック混入
3 2.5Y5/2 暗灰黄砂 鉄分含 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック少し混じる
4 10YR5/6 黄褐粘土 2.5Y4/2 暗灰黄粘土と砂混じる
5 5Y5/1 灰粘土 同砂含 5Y7/3 浅黄粘土小ブロック混入
6 2.5Y6/6 明黄褐粘土 5Y6/1 灰砂混入 鉄分含



101-102
7 95-96 対応
8 95-96 対応
9 2.5Y5/3 黄褐粘土 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入
10 10Y6/1 灰粘土 粗い砂が混じる 部分的に 5Y4/1 灰砂が入る
11 地山と思われる 5GY6/1 オリーブ灰粘土
11' 地山 12 とりかさなった石混じる
12 地山 2.5Y6/6 明黄褐粘土 2.5Y6/2 灰黄シルト混じる
13 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 同砂混じる 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック混じる
14 地山 2.5Y8/6 黄シルト 鉄分含

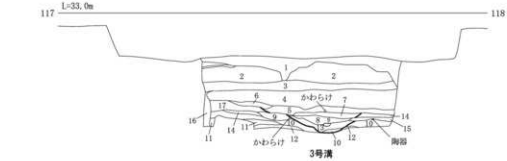


95-96
1 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 鉄分含 木口層
2 10YR4/4 褐粘土
3 5Y4/1 灰粘土 鉄分多く含 炭少し混じる
4 5Y4/1 灰粘土 鉄分含
5 2.5Y5/1 黄灰粘土 鉄分多く含 炭含
6 2.5Y5/3 黄褐粘土 炭・鉄分
7 2.5Y5/4 黄褐砂 5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入 鉄分含
8 2.5Y5/3 黄褐砂 2.5Y4/2 暗灰黄粘土筋状に入る 炭含 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック少し混入
9 2.5Y6/4 にぶい黄～2.5Y5/4 黄褐の粘土と砂混じる
10 10YR5/2 灰黄褐粘土 2.5Y6/2 灰黄粘土ブロック混入 炭含 鉄分少し含
11 2.5Y5/1 黄灰粘土 2.5Y8/3 浅黄粘土ブロック 鉄分など混入
11' 11 層より混じりかなくる 2.5Y5/1 黄灰粘土主体
12 10YR4/2 灰黄褐砂 鉄分・炭含
12' 10YR5/3 にぶい黄褐砂
13 10YR6/2 灰黄褐粘土 同色砂混じる
14 2.5Y6/2 灰黄粘土 鉄錆層か
15 5Y7/2 灰白粘土 砂含 鉄錆層か
16 2.5Y5/1 黄灰粘土 同砂混入 崩作層か 地山粘土ブロック混じる
17 地山 10YR5/8 黄褐粘土 2.5Y6/6 明黄褐砂も混じる

0 1：60 2m

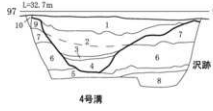
第９図　断面図（中央西区）

中央東区



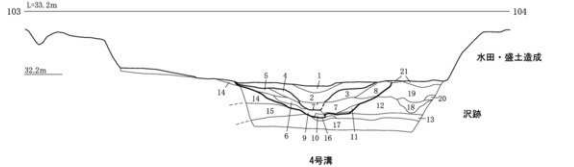
117-118
1 区画整理埋め土 10YR4/2 灰黄褐と 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック・砂など が混入する 鉄分含
2 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 砂含 2.5Y4/4 オリーブ褐粘土ブロックなど混入
3 水田層 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 砂を多く含 炭少し含 水田層
4 水田層 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土 上位に鉄分を多く含 砂と炭少し混入 している
5 2.5Y5/4 黄褐粘土 同色砂を含 2.5Y5/6 黄褐砂と炭も混入する
6 2.5Y4/4 オリーブ褐粘土 鉄分多く含 砂含
7 2.5Y4/3 オリーブ褐砂 同粘土混入 炭多く含
8 2.5Y5/3 黄褐砂 小石と砂鉄含
9 2.5Y4/4 オリーブ褐粘土と砂混入する 炭含
10 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土 10YR3/2 黒褐シルト～砂混じる 炭含 14 層の下と溝側で分かれると思うが詳細不明瞭
11 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロックと砂が混入する 2.5Y3/2 黒褐粘土少し混じる
12 2.5Y5/3 黄褐粘土 粘性強い 2.5Y7/6 明黄褐と 2.5Y4/4 黄灰粘土が少し混じる
13 2.5Y6/3 にぶい黄粘土 10YR4/2 灰黄褐粘土混入
14 2.5Y5/3 黄褐砂 同色粘土ブロック混入
15 2.5Y4/2 暗灰黄砂 8 層よりやかなり細かい砂
16 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 2.5Y7/6 明黄褐と 10YR2/3 黒褐粘土ブロックなどが混じる
17 2.5Y7/4 浅黄粘土 炭少し含

北西区



97-98
1 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック 10YR3/1 黒褐 2.5Y6/4 にぶい黄砂混入
2 2.5Y3/2 黒褐粘土 2.5Y4/4 オリーブ褐砂 炭などが筋状に堆積 下位は 2.5Y5/4 黄褐や 2.5Y5/6 黄褐の粗い砂堆積
3 5Y3/2 オリーブ黒砂～粘土
4 2.5Y5/4 黄褐と 2.5Y5/6 黄褐砂 小石混入 鉄分含
5 7.5Y4/1 灰粘土 10G5/1 緑灰粘土ブロック 砂混入 炭含
6 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 炭(植物)混入
7 2.5Y5/4 黄褐と 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土～砂筋状に堆積 炭含
8 5GA/1 緑灰砂 木片等入る
9 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入
10 暗限掘り込み 10YR4/4 褐粘土

北東区



103-104
1 10YR5/6 黄褐砂 2.5Y7/4 浅黄砂 砂・鉄分
2 5Y5/2 灰オリーブや 2.5Y4/1 灰の粘土や砂がレンズ状に堆積
3 2.5Y4/1 黄灰粘土と 2.5Y4/2 暗灰黄砂が交互に重なり合う 炭・木片含
4 2.5Y4/1 黄灰粘土と 2.5Y4/2 暗灰黄砂が交互に重なり合う 木片等含まない
5 2.5Y4/1 黄灰粘土と 2.5Y4/2 暗灰黄砂が交互に重なり合う 粘土多い
6 2.5Y3/1 黒褐砂 5Y5/2 灰オリーブ粘土ブロックかし混じる
7 5Y5/2 灰オリーブ砂 2.5Y4/2 暗灰黄粘土も少し混じる 粗い砂・小石も混じる 鉄分・砂敷含
77 7 層と同 鉄分を多く含
8 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 3 層にも似るが筋状に重ならない 鉄分含
9 5Y5/2 灰オリーブ粘土～砂 5Y7/4 浅黄粘土ブロック混入
10 9 層の内、2.5Y2/1 黒(木片) 炭集中
11 7 層の内、砂敷集中
12 5Y4/2 灰オリーブ砂層 粘土～粗い砂が層位状に堆積
13 2.5Y5/4 黄褐と 2.5Y4/2 暗灰黄粘土層位状に堆積 炭も筋状
14 2.5Y7/4 浅黄ブロック 2.5Y5/2 暗灰黄粘土混入 鉄分含
15 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 炭(植物)混入
16 2.5Y5/3 黄褐粘土 2.5Y6/4 にぶい黄粘土ブロック 炭少し含
17 7.5Y4/1 灰粘土 10G5/1 緑灰粘土ブロック 砂混入 炭含
18 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 砂混入
19 2.5Y5/2 暗灰黄砂 5Y6/4 オリーブ黄粘土ブロック混入 鉄分含
20 5Y4/2 灰オリーブ砂
21 2.5Y4/1 黄灰粘土 鉄分・小石含 水田か

0 1：60 2m

第10図 断面図（中央東区、北西区、北東区壁）

遺構との切り合いでは、中央西区で、南岸が3号溝に切られていて、4号溝は沢の堆積土を掘り込んで造られている。沢跡がいつからの物かは不明であるが、出土しているのは自然の枝など木片が多い。中央西区の西のトレンチでは岸に近い箇所から、かわらけの小片が出土しているため、12世紀には開口していたと思われる。しかし後から造られた3号溝や4号溝も12世紀の遺構と考えられることで、沢とは共存はしないもののあまり時間を置かずに造られたと思われる。

中央東区で3号溝が切る砂の層が沢跡であれば、沢跡は南側に広がり幅も拡張されている。調査区外東側は低い地形であることから沢は広がりつつ流れていたと思われる。中央東区の砂の堆積層からはかわらけや陶器が出土している。

（5）整地

南西区の1号溝と2号溝の間にあり、南側は1号土坑付近で浅くなり消えている。北側はP56やP70周辺まで広がり、1号溝や2号溝の外側にも少しはみ出すような様相を呈するが明瞭ではない。検出標高は32.4～32.52mで、底は32.22～32.34m、深さは14～22cmを測る。1・2号溝や重なる柱穴よりも古いが、1号建物を構成するP24より新しい。1号土坑の1層はこの整地の可能性があるがこれより南には続いていない。

4　出土遺物

かわらけがコンテナ6箱、陶磁器がコンテナ3箱、木製品・種等がコンテナ3箱、他に瓦や鉄滓、石製品等が出土した。遺構の他、水田層や造成土、遺物包含層からの出土がある。

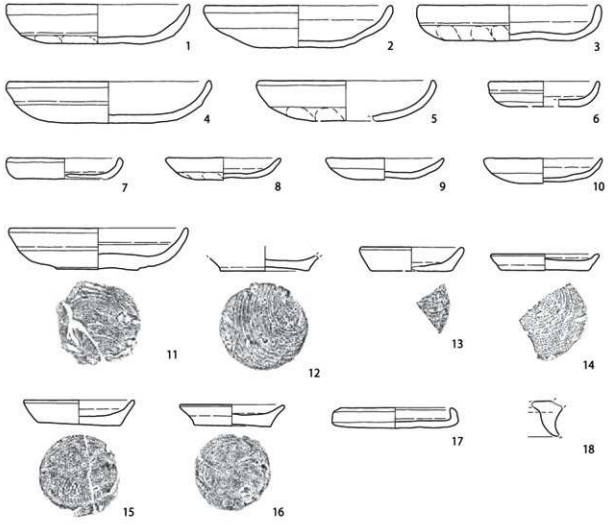
かわらけや陶器は南西側の表土や埋め土から圧倒的に多く出土している。そのせいか、かわらけは出土量に対し完形品が少ない。陶器は常滑産が多い傾向である。木製品や種は3号溝や4号溝からの出土が多い。柱穴からは製品ではなく破材が多く出土している。土壁は、南西区、中央東区、南縁肇部で出土し、P101とP102からは多く出土している。鉄滓も、南西側から多く、水田層や埋め土からの出土も目立つ。しかし、4号溝からも少量であるが出土しており、周辺に鍛冶工房などの施設が広がっていたことを窺わせる。

12世紀の遺物が多い中、中世陶器なども出土し、周辺遺構の年代に幅を持たせている。

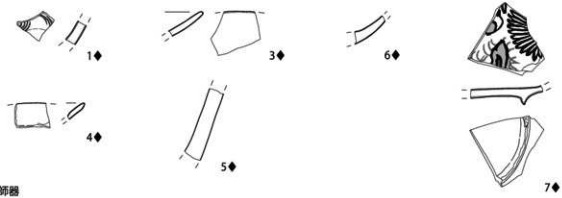
5　まとめ

調査範囲が比較的広い範囲だったことで、周辺の遺構の広がりを推定する手掛かりとなった。北側に沢が東流し、さらに区画溝（4号溝）を造っていることは地形を生かしつつ新たに地区形成を計画したと考えられる。調査区東側は沢や溝の下流にあたり、これまでの調査で整地や沢跡の検出があり、その影響からか遺構分布は希薄であった。調査区周辺は沢や溝により北と南に分かれていた事が窺えるが、北側は調査区外で、調査区より高い台地状である。今回の調査区南側は、沢や溝から離れている事もあり、建物も建てられている。緩く東に低くなる地形であるが、ある程度の広さが確保できている。4棟が重なった位置にあるが、1号建物は切り合いからも一番古い12世紀の遺構と考えられる。4面に庇を持つ格式ある建物である。他の柱穴は柱痕跡が明瞭な場合が多いが掘方に埋めた土の状態は、1号建物と大差ない印象があった。年代を示す遺物はないが、P28とP59からは柱根も検出していることもあり、12世紀より新しい柱穴が含まれている印象を持つ。周辺からの出土遺物から15世紀頃も可能性に加えたい。

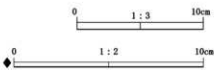
かわらけ



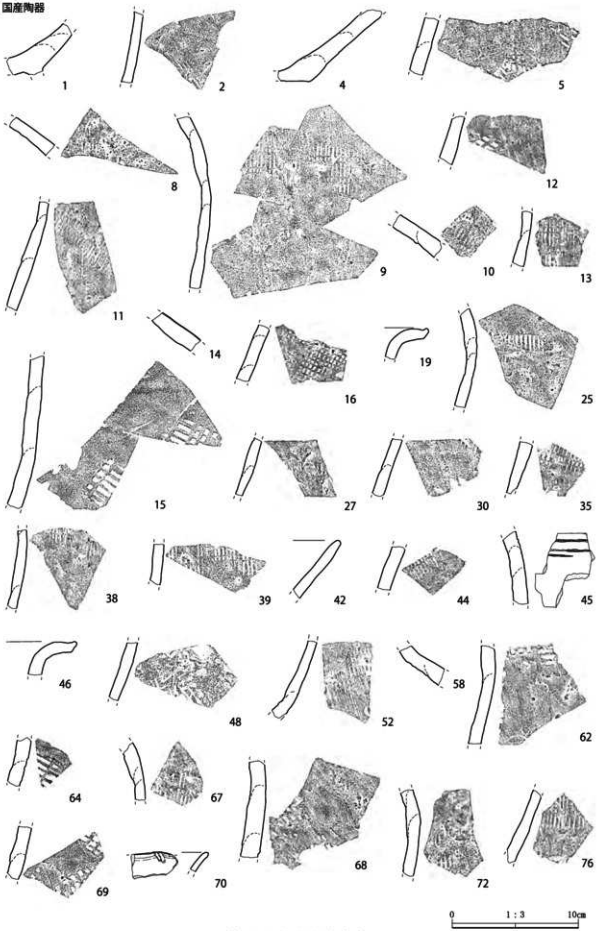
中国産陶磁器



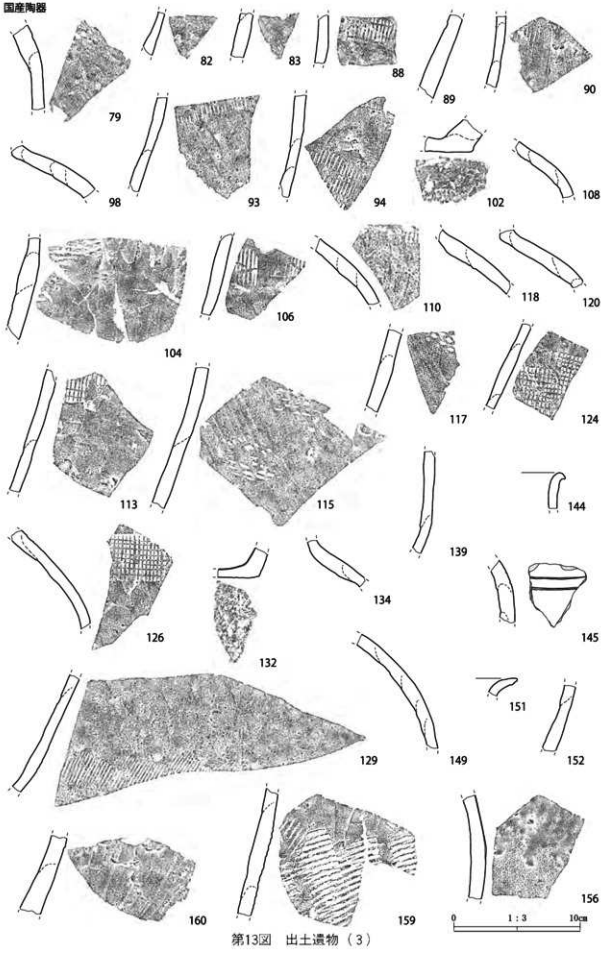
土師器



第11図　出土遺物（1）

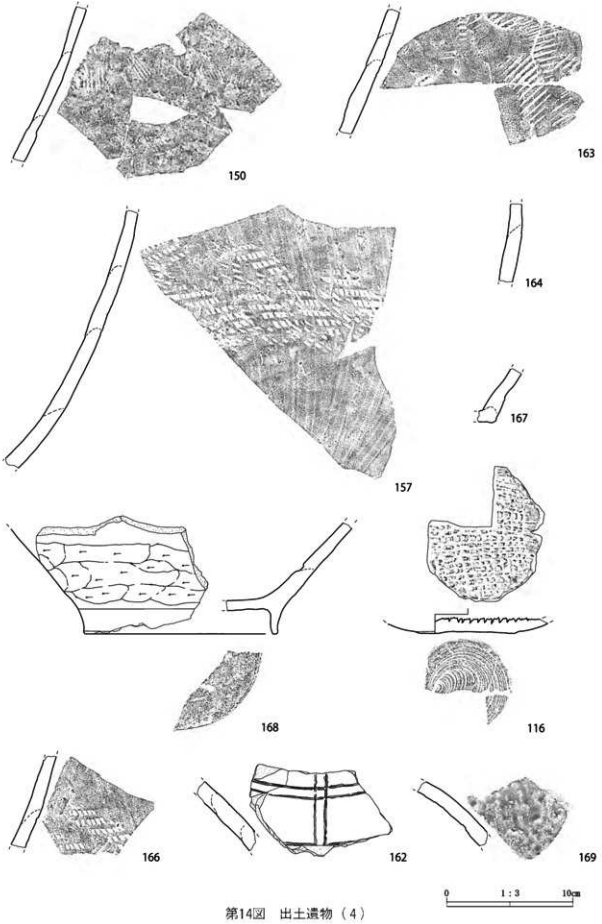

国産陶器
1
2
4
5
8
9
10
11
12
13
14
16
19
25
15
27
30
35
38
39
42
44
45
46
48
52
58
62
64
67
68
69
70
72
76
0
1：3
10cm

第12図　出土遺物（2）


国産陶器
79
82
83
88
89
90
98
93
94
102
108
104
106
110
118
120
113
115
117
124
139
144
126
132
134
145
129
149
151
152
160
159
156
0
1：3
10cm

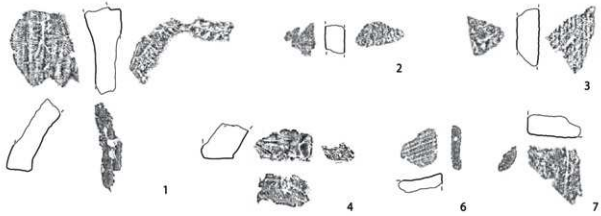
第13図　出土遺物（3）

国産陶器

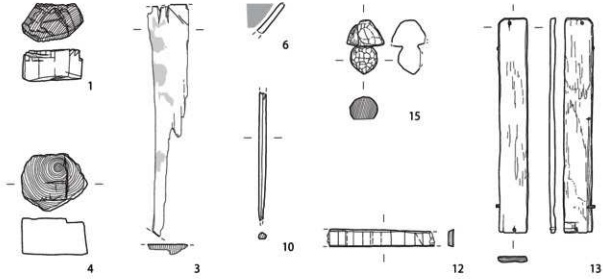


第14図　出土遺物（4）

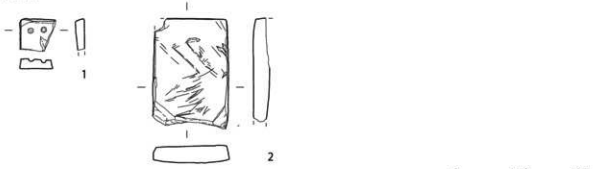
瓦



木製品



石製品



第15図　出土遺物（5）

第2表　かわらけ観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量(cm) 口径	底径	器高	残存率(%)	年代	備考	登録No
1	11	5	中央西区3号溝	手づくね大	14.6	-	3.1	40	12c	内面に焦げ 油染	179
2	11	5	中央西区3号溝 上面	手づくね大	15.0	-	3.3	50	12c	摩滅	125
3	11	5	中央東区 下層遺構群	手づくね大	14.6	-	2.8	60	12c	内面に若干焦げ	420
4	11	5	101号土坑（南側壁）	手づくね大	19.4	-	3.3	50	12c	外底にスノコ痕 摩滅	475
5	11	5	101号土坑（南側壁）	手づくね大	14.2	-	3.2	50	12c	摩滅	476-1
6	11	5	南西区2号土坑	手づくね小	8.8	-	2.0	50	12c	全面に焦げ	226・227
7	11	5	中央西区 遺構検出面	手づくね小	9.2	-	1.7	80	12c	摩滅	365
8	11	5	北東区4号溝	手づくね小	9.2	-	1.7	完形	12c	摩滅	396
9	11	5	P104（南側壁）	手づくね小	9.4	-	1.7	60	12c	外底にスノコ痕 摩滅	488
10	11	5	北壁（南側壁）	手づくね小	9.4	-	2.0	ほぼ完形	12c		486
11	11	5	中央東区3号溝 下層	ロクロ大	14.2	5.4	3.3	90	12c		421・430-1
12	11	5	中央東区3号溝 黒色土層	ロクロ大	8.6	7.0	1.1	50	12c	縁打ち欠きか	422
13	11	5	中央西区 堆積層	ロクロ小	8.2	3.4	1.9	25	12c	摩滅	203
14	11	5	北東区 下面	ロクロ小	-	-	[1.0]	40	12c		383-5
15	11	5	101号土坑（南側壁）	ロクロ小	8.8	5.4	2.0	90	12c	摩滅	477
16	11	5	P104 遺構中位（南側壁）	ロクロ小	8.2	6.2	1.7	70	12c	内外面に若干焦げ	483
17	11	5	101号土坑（南側壁）	内折れ	10.0	-	1.6	ほぼ完形	12c	摩滅	473
18	11	5	北東区 水田層他清掃	高台か	-	-	[2.8]	10	12cか		393-3

第3表　中国産陶磁器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	11	5	北西区4号溝 4層	白磁	碗	体部	12c	V-4類 内面に櫛目文	395
2	-	-	南西区 最下層	白磁	壺	胴部	12c	Ⅲ系 断面に漆	96
3	11	5	南東区	白磁	皿	口縁部	12c	Ⅵ類	9-2
4	11	5	重機対応	白磁	皿	口縁部	12c	Ⅲ類 体部屈曲	171-2
5	11	5	北側 表土採取	緑釉陶器	壺	胴部	12c		16-2
6	11	-	南西区西側拡張	白磁	皿	体部	15c前		153
7	11	5	南西区北側東西トレンチ 水田層	染付	皿	底部	16c	明代	20

第4表　国産陶器観察表（1）

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	12	5	南西区1号溝 上面	渥美	鉢	底～体部	12c	外底に高台痕	88
2	12	5	南西区1号溝東 地山直上	常滑	甕	胴部	12c	押印 2型式か	104
3	-	5	南西区1号溝東 地山直上	常滑	甕	胴部	14c	6・7型式か	105
4	12	5	南西区1号溝西 地山直上	常滑	甕	底部	12c	2と同一個体か	89
5	12	5	南西区1号溝西 地山直上	渥美	甕	胴部	12c	押印	90・398-3
6	-	5	南西区1号溝	常滑	甕	肩部	12c	3型式か	79
7	-	5	南西区2号溝 上面	常滑	甕	頸部	12c	押印 6と同一個体か	59
8	12	5	南西区2号溝 上面	常滑	甕	肩部	12c	押印 6と同一個体か	60・87
9	12	5	南西区2号溝 上面	常滑	甕	肩部	12c	押印 2と同一個体か	61・55・102・109-2
10	12	5	南西区2号溝 上面	常滑	甕	肩部	12c	押印 6と同一個体か	82
11	12	5	南西区2号溝 上面	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	86
12	12	5	南西区2号溝 上面	渥美	甕	胴部	12c	押印 5と同一個体か	78
13	12	5	南西区南拡張1号土坑 上面	常滑	甕	胴部	12c	押印 2型式	119
14	12	5	南西区P5・6・7周辺 下層	東北産か	甕	肩部	12c		62-2
15	12	5	南西区P17	渥美	甕	胴部	12c	押印	83・185
16	12	5	南西区水田暗渠東側	常滑	甕	胴部	12c	押印 124と同一個体か	253-2
17	-	5	南西区水田暗渠東側	渥美	甕	胴部	12c		255-1
18	-	5	南西区水田暗渠 埋土	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	14-2・35-10
19	12	5	南西区東側 重機対応	常滑	甕	口縁部	12c	6と同一個体か	7-2
20	-	-	南西区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	6-3
21	-	5	南西区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	6-4
22	-	5	南西区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	6-5
23	-	5	南西区 重機対応	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	6-6
24	-	-	南西区 重機対応	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	6-7
25	12	5	南西区南側拡張 表土、水田層	常滑	甕	肩部	12c	押印 2・3型式	447-2
26	-	6	南西区南側拡張 表土、水田層	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か 小片	447-4
27	12	6	南西区南側拡張 表土、水田層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	447-3
28	-	6	南西区南側拡張 表土、水田層	常滑	甕	胴部	12c	25と同一個体か	447-5
29	-	6	南西区南側拡張 表土、水田層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	447-6
30	12	6	南西区南側拡張 表土、水田層	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	447-8
31	-	6	南西区南側拡張 表土、水田層	渥美	甕	肩部	12c		447-7
32	-	-	南西区南拡張 表土～上の水田層	常滑	甕	胴部	12c	小片	113-2
33	-	-	南西区南拡張 下層～下の水田層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	110-2

第4表　国産陶器観察表（2）

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　考	登録No.
34	-	6	南西区南拡張 下層～下の水田層	常滑	山茶碗	体部	12c		110-3
35	12	6	南西区拡張 水田～下層	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か 小片	67-2
36	-	-	南西区拡張 水田～下層	常滑	甕	胴部	12c	108と同一個体か 小片	67-3
37	-	-	南西区拡張 水田～下層	常滑	甕	胴部	12c	52と同一個体か 小片	67-4
38	12	6	南西区南拡張 下層	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	100
39	12	6	南西区南拡張 下層	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	101
40	-	-	南西区南拡張 下層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	108-2
41	-	-	南西区南拡張 下層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	108-6
42	12	6	南西区南拡張 下層	常滑	鉢	口縁部	12c		99
43	-	-	南西区西側 下層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	109-3
44	12	6	南西区西側 下層	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か 小片	109-4
45	12	6	南西区東側 下層	渥美	壺	肩部	12c前	袈裟襷文	68-2
46	12	6	南西区南北トレンチ 水田層	常滑	甕	口～頸部	12c	6と同一個体か	19・197-2
47	-	6	南西区南北トレンチ 水田層	常滑	甕	肩部	12c		17
48	12	6	南西区南北トレンチ 水田層	常滑	甕	胴部	12c	複合押印か 6と同一個体か	18
49	-	6	南西区 水田層他トレンチ	常滑	甕	胴部	12c	2型式	13-2
50	-	-	南西区 水田層他トレンチ	渥美	甕	肩部	12c	31と同一個体か 小片	13-9
51	-	6	南西区 水田層他トレンチ	渥美	壺	肩部	12c	小片	13-3
52	12	6	南西区 水田層	常滑	甕	胴部	12c	押印	34-2
53	-	6	南西区 水田層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	34-10
54	-	6	南西区 旧水田層	常滑	甕	口縁部	12c	6と同一個体か 小片	35-8
55	-	6	南西区 旧水田層	常滑	甕	肩部	12c	押印 6と同一個体か 小片	30-4
56	-	6	南西区 旧水田層	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か 小片	30-11
57	-	-	南西区 旧水田層	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か 小片	35-7
58	12	6	南西区 旧水田層	常滑	甕	胴部	12c	押印 小片	35-3
59	-	6	南西区 旧水田層	常滑	甕	胴部	12c	小片	35-6
60	-	-	南西区 旧水田層	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	35-9
61	-	6	南西区 旧水田層	渥美	甕	肩部	12c	押印か	30-3
62	12	6	南西区 旧水田層	渥美	甕	胴部	12c	押印	30-2
63	-	6	南西区 旧水田層	渥美	甕	胴部	12c	小片	35-2
64	12	6	南西区 旧水田層	渥美	甕	胴部	12c	押印 15と同一個体か	35-5
65	-	-	南西区 旧水田層	渥美	甕	胴部	12c	押印 15と同一個体か 細片	35-11
66	-	-	南西区 遺物包含層	常滑	甕	頸部	12c	6と同一個体か 小片	219-2
67	12	6	南西区 遺物包含層	常滑	甕	肩部	12c	押印 6と同一個体か	72
68	12	6	南西区 遺物包含層	渥美	甕	肩部	12c	押印	71
69	12	6	南西区 遺物包含層	渥美	甕	胴部	12c	押印 15と同一個体か	73
70	12	6	南西区東側 最下層	渥美	山茶碗	口縁部	12c	輪花	111-2
71	-	6	南西区 整地層	常滑	甕	胴部	12c	25と同一個体か	35-4・295
72	12	6	南西区 地山上の層	常滑	甕	肩部	12c	押印 6と同一個体か	56
73	-	-	南西区南拡張 壁清掃地山直上	常滑	甕	胴部	12c		212
74	-	6	南西区南拡張 地山直上	常滑	甕	胴部	12c	押印	117・53
75	-	6	南西区南西 地山直上	常滑	甕	肩部	12c	32と同一個体か 小片	155
76	12	6	南西区南西 地山直上	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	154
77	-	6	南西区 地山直上	常滑	甕	胴部	12c	小片	92
78	-	6	南西区 地山直上	常滑	甕	胴部	12c	49と同一個体か 小片	93
79	13	6	南西区 地山直上	渥美	甕	肩部	12c	押印 68と同一個体か	95
80	-	6	南西区東側南北トレンチ 底	常滑	甕	肩部	12c	3型式	25
81	-	-	南西区南北トレンチ 底	常滑	甕	肩部	12c	小片	27
82	13	6	南西区西側拡張	常滑	甕	胴部	12c	押印 25と同一個体か 小片	150
83	13	6	南西区南側拡張	渥美	甕	胴部	12c	押印 小片	118
84	-	6	南西区	常滑	甕	肩部	12c	47と同一個体か	4-3・50
85	-	6	南西区	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	47-1
86	-	7	南西区	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	52・143
87	-	7	南西区	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	55-3
88	13	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	押印 77と同一個体か	37
89	13	7	南西区	常滑	甕	胴部	14c	3と同一個体か	39
90	13	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	40
91	-	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	49と同一個体か	42
92	-	-	南西区	常滑	甕	胴部	12c	小片	44
93	13	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	押印 2と同一個体か	45
94	13	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	押印 13と同一個体か	49
95	-	7	南西区	常滑	甕	肩～胴部	12c	3型式	55-2
96	-	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	小片	55-4
97	-	7	南西区	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	186
98	13	7	南西区	渥美	甕	肩部	12c	31と同一個体か	41
99	-	7	南西区	渥美	甕	胴部	12c	押印 68と同一個体か	46
100	-	-	南西区	渥美	壺	胴部	12c	小片	47-3
101	-	-	南西区	渥美	壺か	胴部	12c	小片	47-2

第4表　国産陶器観察表(3)

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
102	13	7	南西区	須恵器系	甕	底部	12c		43
103	-	7	中央西区3号溝	常滑	甕	胴部	12c	49と同一個体か	398-2・8-4
104	13	7	中央西区3号溝	渥美	甕	胴部	12c	押印	200・215・364
105	-	7	中央西区畝跡上面	常滑	甕	胴部	12c		458
106	13	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	胴部	12c	押印 外面に降灰 77と同一個体か	2-4
107	-	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	頸部	12c		10-5
108	13	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c		8-2
109	-	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c		8-3
110	13	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c	押印 6と同一個体か	10-3
111	-	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	4-4
112	-	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	4-5
113	13	7	中央西区 重機対応	常滑	甕	胴部	12c	押印 77と同一個体か	10-2
114	-	7	中央西区 重機対応	渥美	甕	肩部	12c	31と同一個体か	4-2
115	13	7	中央西区 重機対応	渥美	甕	胴部	12c	押印 5と同一個体か	2-3
116	14	7	中央西区 重機対応	古瀬戸	おろし皿	底部	15c頃	8次調査出土と接合	2-1
117	13	7	中央西区東側トレンチ	渥美	甕	胴部	12c	押印	267-2
118	13	7	中央西区 堆積下層	常滑	甕	肩部	12c	80と同一個体か	201
119	-	7	中央西区 堆積下層	渥美	甕	肩部	12c	117と同一個体か	202
120	13	7	中央西区 プラン確認面	渥美	甕	肩部	12c	31と同一個体か	214
121	-	7	中央西区 地山直上	常滑	甕	肩部	12c		180
122	-	-	中央西区 東壁切り	常滑	甕	胴部	12c	小片	182-2
123	-	7	中央西区 壁他	常滑	甕	胴部	12c	13と同一個体か	112-2
124	13	7	中央西区 壁他	常滑	甕	胴部	12c	押印	135-2
125	-	7	中央西区と南西区間のベルト 地山面上	渥美	甕	胴部	12c		128
126	13	7	中央東区南北トレンチ 下層(水田より下)	常滑	甕	肩部	12c	押印 109と同一個体か	400-2
127	-	7	中央東区南北トレンチ 下層(水田より下)	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	400-3
128	-	7	中央東区トレンチ 下層	常滑	甕	肩部	12c	80と同一個体か	406
129	13	7	中央東区 下層堆積層	常滑	甕	胴部	12c	押印	419・438
130	-	8	中央東区 上面清掃	渥美	甕	胴部	12c	押印	399-2
131	-	8	南東区 重機対応	常滑	甕	肩部	12c	95と同一個体か	9-3
132	13	8	南東区 重機対応	常滑	甕	底部	12c	6と同一個体か	9-5
133	-	-	南東区 重機対応	渥美	壺か	肩部	12c		9-4
134	13	8	南東区 水田層	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	384-1
135	-	8	南東区 水田層	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	381-2
136	-	8	南東区 水田層	常滑	甕	肩部	12c	小片	385
137	-	8	南東区 水田層	渥美	山茶碗	体部	12c		281-2
138	-	8	南東区 下位水田層	常滑	甕	肩部	12c	95と同一個体か	264-3
139	13	8	南東区 下位水田層	常滑	甕	胴部	12c	95と同一個体か	264-2・260-8
140	-	8	南東区 地山直上	常滑	甕	肩部	12c	2次被熱か	260-6・262
141	-	8	南東区 地山直上	渥美	甕	肩部	12c	小片	265-2
142	-	8	南東区南壁	常滑	甕	肩部	12c	外面・断面に漆付着 6と同一個体か 小片	260-2
143	-	8	南東区南壁	常滑	甕	肩部	12c	小片	260-7
144	13	8	南東区	渥美	壺	口縁部	12c	51と同一個体か	266-2
145	13	8	南東区 北壁	渥美	壺	肩部	12c前	袈裟襷文 45と同一個体か	287
146	-	-	北東区 重機対応	須恵器系	甕	胴部	12c	小片	11-2
147	-	8	北東区 上面(水田層)	常滑	甕	胴部	12c	小片	393-2
148	-	8	北東区 上面清掃	常滑	甕	胴部	12c	49と同一個体か	404-2
149	13	8	調査区東側水田 重機対応	常滑	甕	肩部	12c	6と同一個体か	10-4・15・51
150	14	8	103号土坑(南拡張)	常滑	甕	胴部	12c	押印 25と同一個体か	34-9・36・54・451・482
151	13	8	103号土坑(南拡張)	渥美	甕	口縁部	12c	小片	493-2
152	13	8	103号土坑(南拡張)	産地不明	甕	肩部か	中世	生焼け	493-3
153	-	8	P101(南拡張)	常滑	甕	肩部	12c		495-3
154	-	8	P101(南拡張)	渥美	甕	肩部	12c	31と同一個体か	495-4
155	-	8	重機対応(南拡張)	渥美	甕	肩部	12c	31と同一個体か 小片	505-5
156	13	8	重機対応(南拡張)	渥美	甕	肩部	12c	117と同一個体か	505-4
157	14	8	重機対応(南拡張)	渥美	甕	胴部	12c	押印 5と同一個体か	505-2・505-3
158	-	8	北壁 水田層(南拡張)	常滑	甕	胴部	12c		487
159	13	8	遺物包含層(南拡張)	渥美	甕	肩部	12c	押印	484・485
160	13	8	遺物包含層(南拡張)	渥美	甕	胴部	12c	漆付着 159と同一個体か	480
161	-	8	101号土坑周辺(南拡張)	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か	506-4
162	14	8	101号土坑周辺(南拡張)	渥美	壺	肩部	12c前	袈裟襷文 45と同一個体か	294-3・506-2
163	14	8	101号土坑周辺(南拡張)	渥美	甕	胴部	12c	押印	506-3・506-6
164	14	8	101号土坑周辺(南拡張)	渥美	甕	胴部	12c	159と同一個体か	506-5
165	-	-	重機対応	常滑	甕	胴部	12c	2と同一個体か 小片	171-3
166	14	8	調査区電柱移設立会 表土-1.5m	渥美	甕	胴部	12c	押印 5と同一個体か	391-1
167	14	8	清掃一括	常滑	甕	底部	12c	49と同一個体か	294-2・26
168	14	8	調査区周辺 表土採取	常滑	鉢	底～体部	12c		507
169	14	8	調査区周辺 表土採取	渥美	甕	肩部	12c		1

花立Ⅱ27

第５表　土師器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備　考	登録No
1	11	9	中央西区3号溝	甕	口縁部	平安		213

第６表　須恵器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備　考	登録No
1	-	-	中央西区 重機対応	坏	体部	9・10c		2-5

第７表　瓦観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法　量（cm）			重量（g）	色調	胎土	年代	備　考	登録No
					長さ	幅	厚さ						
1	15	9	南西区1号溝	丸	[6.8]	[6.3]	2.8	115.1	灰黄	軟	12c	凹面に布目 側端部面取り 縄面にケズリ 摩滅	80
2	15	9	南西区 地山直上	平	[3.0]	[4.0]	1.5	15.5	灰白	軟	12c	小片 凹面に布目 凸面に縄目 側面に縄目 摩滅	48
3	15	9	南西区西狭都底	平	[4.5]	[4.3]	1.8	27.8	灰白	軟	12c	凹面に布目 凸面に縄目 端面縁	151
4	15	9	中央西区3号溝 埋積下層	桶平か	[2.4]	[5.4]	[2.6]	48.8	灰白	硬	12c	側部 貼り付け 側部断側と 縄面にケズリ 表面に摩	204
5	-	-	中央西区監視トレンチ	不明	[3.9]	[3.3]	2.1	25.7	淡黄	軟	12c	一部に摩 摩滅 小片	381-2
6	15	9	北西区西トレンチ 下層	平	[3.4]	[3.4]	[1.0]	10.1	灰黄	軟	12c	凹面に布目 側端部面取り 縄面にケズリ 薄い	378-2
7	15	9	南西側 重機対応	平	[5.4]	[4.2]	[1.6]	32.5	灰白	軟	12c	一部に縄目か 摩滅	6-8

第８表　土壁観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法　量（cm）			重量（g）	スサの有無	備　考	登録No
				長さ	幅	厚さ				
1	-	9	P101（南掘立）	0.9~5.6	0.7~1.5	0.3~3.3	213.3	有	16点	395-1
2	-	9	P102（南掘立）	0.7~5.5	0.6~4.2	0.3~2.7	265.5	有	68点	469
3	-	-	P102（南掘立）	3.2~3.3	3.0	1.5~2.1	27.4	有	2点	397-1

第９表　羽口観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法　量（cm）			重量（g）	備　考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
1	-	-	南西区遺跡 木田下層	2.5	2.2	1.6	6.7		67-5
2	-	-	南西区西狭都底	1.0	2.8	2.2	10.9		162-2
3	-	-	中央西区3号溝トレンチ	2.4	1.9	1.2	5.6		206-2
4	-	-	中央西区3号溝トレンチ	2.0	1.7	1.5	5.3		206-4

第10表　近世国産陶磁器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	器種	部位	年代	備　考	登録No
1	-	9	中央西区 重機対応	陶器	皿	体部	16C 末~17C	唐津	4-6
2	-	9	中央東区 土坑清掃	磁器	碗or皿	体部	近世	肥前 発色が良	399-6

第11表　滓観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	大きさ(cm)	重量(g)	磁着	種類	備考	登録No
1	-	-	南西区1号溝	3.0~7.7	150.0	有	鉄滓	2点	138
2	-	-	南西区1号溝	2.9×3.1	23.3	有	鉄滓	1点	98
3	-	-	南西区P4東 壁内層	0.8~4.2	57.9	有	鉄滓	5点	218-2
4	-	-	南西区P7	1.5×1.6	3.3	有	鉄滓	1点	272-2
5	-	-	南西区P21	1.5×2.1	3.0	有	鉄滓	1点	205-1
6	-	-	南西区P21 下層	1.9~6.3	100.4	有	鉄滓	4点	212-1
7	-	-	南西区P24 中層	3.2×5.0	30.5	有	鉄滓	1点	227-1
8	-	-	南西区P28	2.3×3.5	11.6	有	鉄滓	1点	273-2
9	-	-	南西区P41	0.9×0.9	0.5	有	鉄滓	1点	301-2
10	-	-	南西区P66	0.9×1.4	0.8	有	鉄滓	1点	512-2
11	-	-	南西区P72	1.6×2.0	2.9	有	鉄滓	1点	442-2
12	-	-	南西区P75 下層	2.6×3.6	11.7	有	鉄滓	1点	443-1
13	-	-	南西区南拡張 下層	6.9×7.9	246.2	有	鉄滓	1点	103
14	-	-	南西区拡張 下層	0.5~8.9	310.6	有	鉄滓	4点	108-4
15	-	-	南西区西側 下層	1.3~2.8	18.8	有	鉄滓	3点	109-5
16	-	-	南西区 下層	0.5~8.0	381.0	有	鉄滓	27点	107
17	-	-	南西区 整地層表面	2.1×3.5	16.6	有	鉄滓	1点	240-2
18	-	-	南西区 整地層	1.6×1.8	7.4	有	鉄滓	1点	195-2
19	-	-	南西区 整地層	1.4×1.6	2.2	無	鉄滓か	1点	195-3
20	-	-	南西区 整地層	0.5~7.4	179.6	無	鉄滓か	10点	223
21	-	-	南西区 地山直上	4.5×7.0	95.9	有	鉄滓	1点	58
22	-	-	南西区 地山直上	1.7×2.6	6.4	有	鉄滓	1点	91
23	-	-	南西区東側南北トレンチ	3.0×3.6	27.4	有	鉄滓	1点	29-5
24	-	-	南西区 清掃一括	1.5×2.0	2.0	有	鉄滓	1点	136-2
25	-	-	中央西区 整他	2.3×3.5	15.4	無	鉄滓か	1点	135-3
26	-	-	中央西区壁側トレンチ	1.3×2.2	1.8	無	鉄滓か	1点	381-7
27	-	-	中央東区東西トレンチ 下層	2.7~4.2	26.3	有	鉄滓	3点	401-3
28	-	-	北西区4号溝 上面	1.3~3.6	46.3	有	鉄滓	10点	313-7
29	-	-	北西区4号溝 上面	1.5~3.3	18.3	無	鉄滓	5点	315-4
30	-	-	北西区西トレンチ 上砂層～中ブロック層	1.3×3.6	4.0	有	鉄滓	1点	343-3
31	-	-	北西区西トレンチ西壁寄り 上砂層～中位	2.2~3.8	15.2	有	鉄滓	3点	510-5
32	-	-	北東区4号溝 下層	1.7×3.1	3.1	有	鉄滓	1点	405-5
33	-	-	北東区下面	2.0~3.0	15.9	有	鉄滓	3点	383-3
34	-	-	101号土坑（南擁壁）	2.4×2.7	17.4	有	鉄滓	1点	479
35	-	-	地山直上	1.9×2.5	7.2	有	鉄滓	1点	254-2

第12表　木製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	形状	法量(cm)			備考	登録No
						長さ	幅	厚さ		
1	15	9	南西区P27	部材	角状	3.0	4.9	2.4		316
2	-	9	南西区P28	柱根	丸太状	34.0	径11.5	-	多角形に面取り	468
3	15	9	南西区P30	加工木	板状	16.3	3.2	0.8	一部に薄いシミ	337
4	15	-	南西区P39	加工木	棒状	4.5	5.2	2.9		338
5	-	9	南西区P70	加工木	板状	13.2~16.3	0.6~1.5	0.5~1.4	加工痕のある小片52点	368-1
6	15	9	中央西区3号溝東トレンチ 下層・黒色層	漆器	椀	4.5	3.5	0.4	口縁部付近 小片2個 法量は大きい方のもの	270-2
7	-	-	中央西区3号溝東トレンチ 下層・黒色層	加工木	板状	[8.9]	[3.8]	0.5		270-7
8	-	-	中央西区3号溝端部西側トレンチ 青灰色層	加工木	板状	7.0	2.7	1.1		207
9	-	9	北西区東西トレンチ4号溝 上層	加工木	板状	8.0	2.1	0.4		456-2
10	15	9	中央西区西トレンチ西壁	箸	棒状	[0.2]	0.6	0.5	欠損	375-2
11	-	9	中央西区西トレンチ西壁	加工木	板状	4.9	3.1	0.4		375-3
12	15	9	北西区4号溝 上面	曲物か	板状	[8.5]	[1.4]	0.3	側板か 刻みあり	313-2
13	15	9	北西区4号溝 上面	部材	板状	17.0	2.3	0.4	箱の底か 端部に4か所木釘	315-6
14	-	9	南西区P2	加工木	板状	3.2~22.0	0.7~7.0	0.1~2.4	加工痕のある小片23点	198
15	15	9	北西区西トレンチ上層	形代か	宝塔か	4.3	2.9	[0.8]	笠と塔身か 一木造	376
16	-	9	中央西区壁側トレンチ	箸	棒状	[8.1]	0.6	0.4		381-3

花
立
Ⅱ
27

第13表　植物遺体観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種　類	大きさ (cm)	備　考	登録No
1	-	-	南西区2号溝	核果の種	2.0	1/2×1点 破片4点	275
2	-	-	南西区2号溝	すもも類の種	1.3	1/2×1点	276-1
3	-	-	南西区P2	核果の種	2.8	完形1点	126
4	-	-	南西区P6	核果の種	-	破片6点	257
5	-	-	南西区P33	核果の種	2.2	ほぼ完形1点 破片1点	300-2
6	-	-	南西区P77	核果の種	3.0	完形1点	169
7	-	-	中央西区3号溝	核果の種 胡桃か	核1.8 胡桃1.9	核1/2×1点 胡桃1/2×1点	356-5
8	-	-	中央西区3号溝	核果の種	2.8	完形1点	370
9	-	-	中央西区3号溝	核果の種	2.8	ほぼ完形1点	371
10	-	-	中央西区3号溝	核果の種	2.2	1/2×1点	372
11	-	-	中央西区3号溝	核果の種	2.5	完形1点	373
12	-	-	中央西区整地トレンチ	核果の種 松ぼっくり	核2.9 松ぼっくり2.3	核完形1点 松ぼっくりの芯1点	381-6
13	-	-	北西区東西トレンチ	松ぼっくり	3.4	ほぼ完形1点 破片3点	457-2
14	-	-	中央東区3号溝	核果の種	2.4	1/2×1点	417-5
15	-	-	中央東区3号溝の下の生活層	核果の種	3.2	完形1点	420
16	-	-	中央東区東西トレンチ 下層	核果の種	1.6	1/4×1点	401-6
17	-	-	中央東区南北トレンチ	核果の種	3.0	完形1点	415-4
18	-	-	中央東区	松ぼっくり	2.4	芯のみ1点	425-1
19	-	-	北西区4号溝 上面	松ぼっくり	2.2～4.0	1/2×2点 芯のみ2点 破片13点	315-3
20	-	-	北西区4号溝 上面	松ぼっくり	3.1～4.3	ほぼ完形3点 破片15点	313-5
21	-	-	北西区4号溝 肩付近	松ぼっくり	2.9	1/2×1点	379-3
22	-	-	北西区4号溝 上部より下	核果の種	2.5	完形1点	377-2
23	-	-	北西区4号溝 砂層	核果の種	2.8～3.2	完形2点	378-4
24	-	9	北西区西トレンチ周辺掘り下げ(ベルト中位	核果の種 松ぼっくり	種2.6～3.1 松ぼっくり2.9～3.3	種完形4点 松ぼっくり1/2×1点 ほぼ完形5点 種片32点	510-1
25	-	-	北東区4号溝 下層	松ぼっくり	4.0	1/2×1点 種片10点	105-3

第14表　石製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	法　量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	色調	備　考	登録No
1	15	9	南西区1～2号溝間 整地層	石錐状	[2.8]	[2.4]	0.7	6.9	灰白	板状に加工後、1面に2つの凹状窪み 一部破損か	65-2
2	15	9	南西区 最下層	敲石	8.5	5.8	1.2	125.1	灰白	全面に敲痕	97

第15表　石器観察表

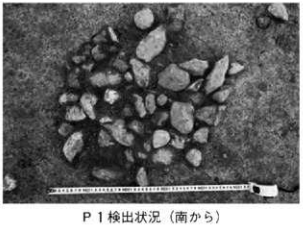
No	図版	写真図版	出土位置・層位	種　別	法　量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備　考	登録No
1	-	-	南西区1号溝	剥片	9.0	6.3	2.2	79.1		296-2
2	-	-	南西区 P59	剥片か	4.5	4.0	0.7	12.3		341
3	-	-	南西区南壁 下層一括	未製品か	1.7	1.2	0.1	0.6	先端部のみ	109-6
4	-	9	南東区	サイドスクレイパー	6.4	2.1	0.8	11.0		9-7

第16表　その他観察表

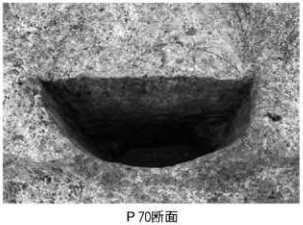
No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	重量 (g)	備　考	登録No
1	-	9	南西区1～2号溝間 整地層	水晶	0.8×2.5	2.6		65-4

南西区遺構遺物検出状況（南から）

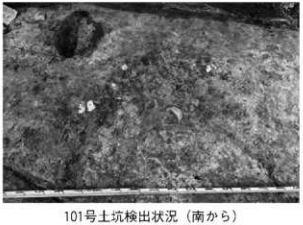
南西区完掘状況（東から）


P１検出状況（南から）

P21破材出土状況


P70断面

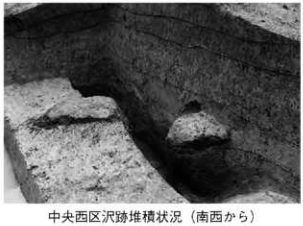
P103断面


101号土坑検出状況（南から）

南擁壁部（北東から）

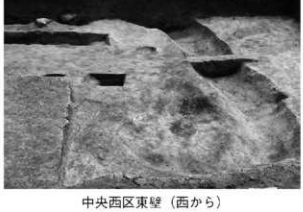
写真図版１

中央西区（東から）



中央西区沢跡堆積状況（南西から）

中央西３号溝・沢跡（東から）



中央西区東壁（西から）

３号溝遺物出土状況

写真図版２

調査区全景（南西から）

中央東区（南東から）

中央東区（東から）

中央東区層位（南西から）

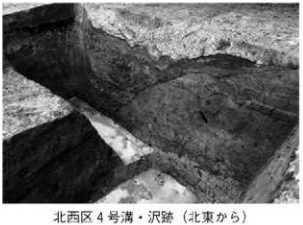
中央東区３号溝遺物出土状況

写真図版３

北東区・北西区（南東から）

北西区・中央西区（東から）

北西区 4 号溝・沢跡（西から）


北西区 4 号溝・沢跡（北東から）

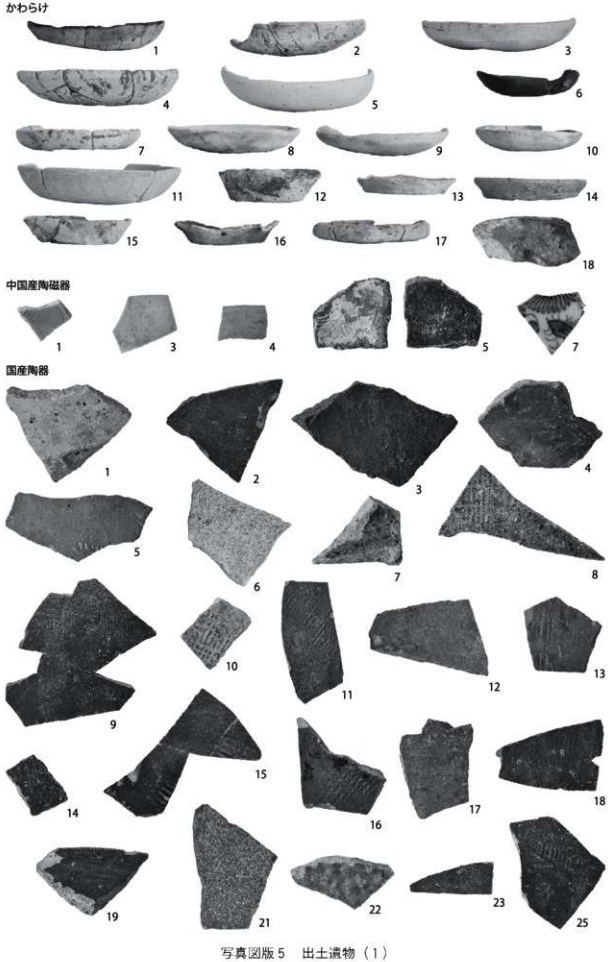
北東区 4 号溝

北東区 4 号溝（東から）

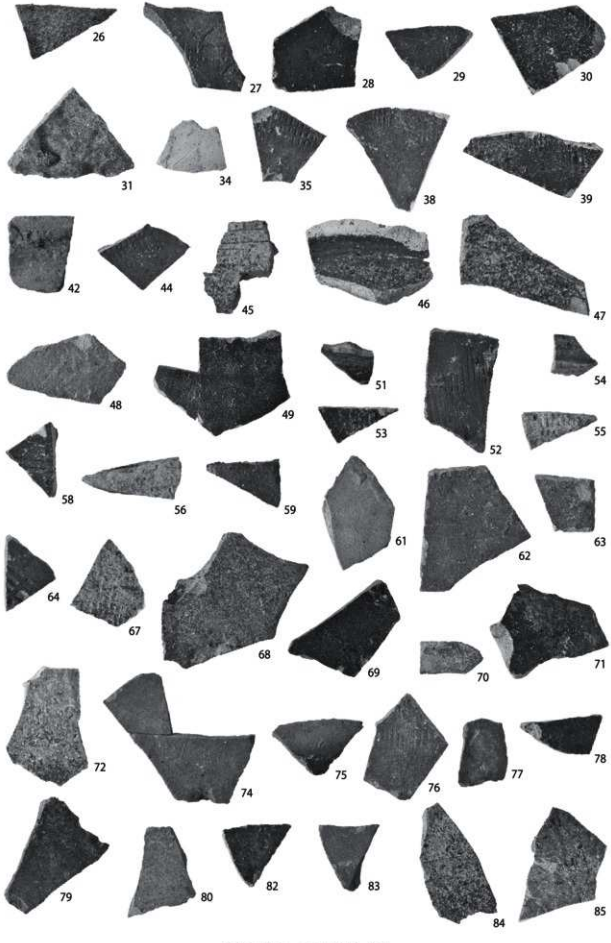
南東区（北から）

調査区全景（北東から）

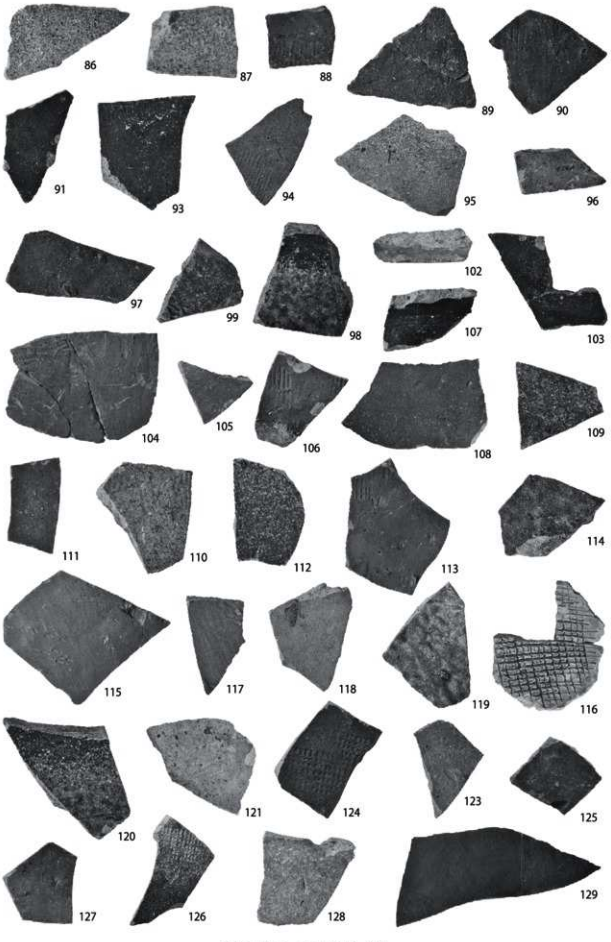
写真図版 4


かわらけ
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
中国産陶磁器
1
3
4
5
7
国産陶器
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
21
22
23
25

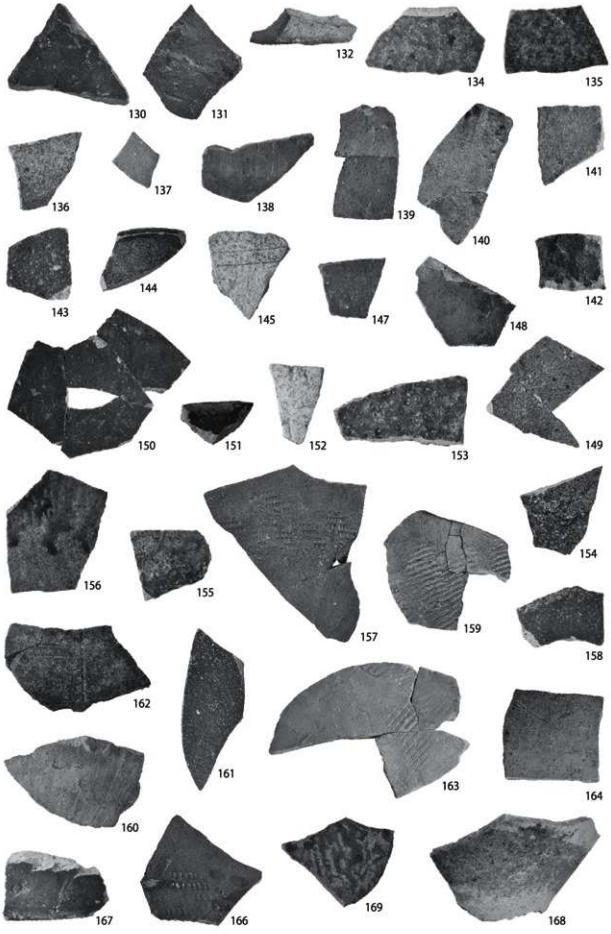
写真図版5　出土遺物（1）


26
27
28
29
30
31
34
35
38
39
42
44
45
46
47
48
49
51
53
52
54
55
58
56
59
61
62
63
64
67
68
69
70
71
72
74
75
76
77
78
79
80
82
83
84
85

写真図版６　出土遺物（２）


86
87
88
89
90
91
93
94
95
96
97
99
98
102
107
103
104
105
106
108
109
111
110
112
113
114
115
117
118
119
116
120
121
124
123
125
127
126
128
129

写真図版7　出土遺物（3）


130
131
132
134
135
136
137
138
139
140
141
143
144
145
147
148
142
150
151
152
153
149
156
155
157
159
154
158
162
161
163
164
160
167
166
169
168

写真図版８　出土遺物（４）

写真図版９　出土遺物（５）

花立Ⅱ遺跡第28次発掘調査

1　調査要項

地　　点　岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立122番１他
調査面積　37㎡
調査期間　令和２年４月７日～５月22日
原　　因　物置建築
調査担当　菅原計二

2　位置と概要

本調査はＪＲ平泉駅の北に約800ｍ、特別史跡無量光院跡の堀跡から北に約40ｍの地点に位置する住宅の物置建築に伴う調査である。当地点の西は金鶏山と花立山東麓の緩斜面を段々に造成した水出で、北と東は県道110号（平泉停車場中尊寺線）と猫間が淵跡を挟み、高舘山と柳之御所遺跡が立地する舌状台地に続く。

県道は近世の奥州道中を踏襲した道路で、沿道には店舗や住宅が立ち並ぶ。調査地点の南は水田を挟んで堀跡と土塁に囲まれた無量光院跡の史跡地が広がる。当地点の東側では平成８年(1996)に７次調査を行い、平成30年(2018)に北側隣接地で行った26次調査では12世紀と近世の整地並びに溝跡・土坑・柱穴を検出した。この内、南北溝（３号溝）から12世紀のかわらけや木製品等の遺物が多く出土した。本調査(28次)の結果、当地点の大部分で地山を深く掘り込む大溝（４号溝）を検出し、溝跡の底面から上位まで人為的な埋め戻し土で被われていた。調査区北側では４号溝上位の整地を掘り込んで26次調査区から続く南北溝（３号溝）の延長を検出した。調査区東側では４号溝上位の整地を掘り込む溝跡と土坑を検出した。以下は経過である。４月３日現場確認と準備作業、７日・８日重機による掘削、８日から発掘資材搬入と重機の残土処理と壁面の切り落し、９日から組掘りと遺構検出・実測・写真撮影等を並行して行う。24日３号溝の完掘、５月18日４号溝の完掘と全体写真撮影、その後埋め戻しと発掘資材の搬出等を行い、22日に現場での作業を終了した。

第１図　位置図（1/5,000）

3　調査成果

遺　構：溝跡4条、土坑2、整地

遺　物：かわらけ、国産陶器、中国産磁器、瓦、金属関連遺物、石製品・石器、木製品、炭・焼土、種子類、貝、近現代陶磁器、その他

（1）土層（第7図・8図・表1）

本調査区の標高は西側の水田畦畔が約31.0m、北側の宅地平坦面が29.7m、東側隣接地が29.6mで、十層は南西壁面と北西壁面で観察した。表土から地山を含めて7層（Ⅰ～Ⅶ）に分けられる。各々の層位は細分される。Ⅰは表土で現代の耕作土や客土・撹乱。Ⅱは客土で耕作土と撹乱。Ⅲは区画整理に伴う造成土や小区画の旧水田耕作土と床土、Ⅳは4号溝上位の整地と耕作土に似た堆積土。Ⅴは3号溝埋土、Ⅵは4号溝の人為的な埋土、Ⅶは地山である。この内、Ⅳの地山ブロック粘土を多く含む整地の上面を2基の土坑と3条の溝跡が掘り込む。Ⅶの地山はシルトから粘土主体である。地山は標高24.5m付近を境として上位は浅黄～にぶい黄色、下位はグライ化してオリーブ灰～緑灰を呈する。

表1　土層

層	内　容	土色・土質
Ⅰ	表　土	10YR5/2灰黄褐シルト～粘土　現代の畑耕作土と客土・撹乱を一括した　草が生える
Ⅱ	客　土	10YR5/2灰黄褐シルト～粘土　近年の客土と耕作土・床土（酸化鉄分沈着）及び撹乱
Ⅲ	耕作土	10YR5/2灰黄褐シルトと2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土混土　昭和の水田造成土を含む
Ⅳ	整　地	10YR4/2灰黄褐シルトと2.5Y7/4浅黄粘土の混土　4号溝上位の整地　上位は畑耕作土に似る
Ⅴ	3号溝	2.5Y6/4にぶい黄粘土地山ブロックと10YR4/2灰黄褐シルト主体　かわらけや木片、黒色炭化物多く混
Ⅵ	4号溝	2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック主体と灰黄褐シルト混　全体が人為的な埋戻し土　木製品やかわらけ片が多く出土
Ⅶ	地　山	2.5Y7/4浅黄・2.5Y6/4にぶい黄シルト～粘土　下位はグライ化し5GY5/1オリーブ灰を呈する

（2）遺構（第2・3・6～9図・表2・写真図版1～3）

4条の溝跡と土坑2基を検出した。この内4号溝は本調査区の南東側で層を検出した大溝で、人の背丈よりも深く地山を掘り込んでいる。4号溝の埋土Ⅵ層とⅣ層の上面を掘り込む形で2基の土坑（1号土坑・2号土坑）と3条の溝跡（1～3号溝）を検出した。いずれも近年の水田耕作や東側斜面の切土等により上位の埋土が失われている。南東側から1号溝・1号土坑・2号溝・2号土坑の順に並ぶ。

土坑

1号土坑　東西0.65×南北0.44mの楕円形で深さ23cmを測り、断面はU字形を呈する。底面標高29.62mで、新旧関係は1号土坑が4号溝と1号溝を切り、1号土坑が新しい。埋土は灰黄褐シルト主体で底面直上に20cm大の円礫1個が入る。埋土は2号土坑に似る。遺物はかわらけが少量（21点）出土した。埋土の様相から近世以降の何らかの施設に伴う掘り込みと推定した。

2号土坑　東西0.42m×南北0.42mの楕円形で深さ16cmを測り、断面は逆台形を呈する。底面標高29.72mで4号溝を切る。埋土は灰黄褐シルトで小礫を少量含む。遺物はかわらけが8点出土した。埋土の様相から近世以降の何らかの施設に伴う掘り込みと推定した。

溝跡

1号溝　調査区南端から北東方向にN38°Eの軸線で長さ2.25m、南壁で溝幅0.52m、深さ35cmを測り、断面U字形を呈する。底面標高は南壁29.83m、北東端29.63mで南西から北東方向に下る。4号溝を切り1号土坑に切られる。埋土は灰黄褐シルト主体で下位に砂質を少量含む。出土遺物はかわらけがやや多く出土した（178点）。埋土の様相から近世以降の溝跡と推定した。

2号溝　調査区南西から北東方向にN75°Eの軸線で長さ0.45m、溝幅0.35m、深さ22cmを測り、断面U字形だが底面の一部が窪む。溝跡の底面標高は29.62mを測る。4号溝を切る。埋土は灰黄褐シル

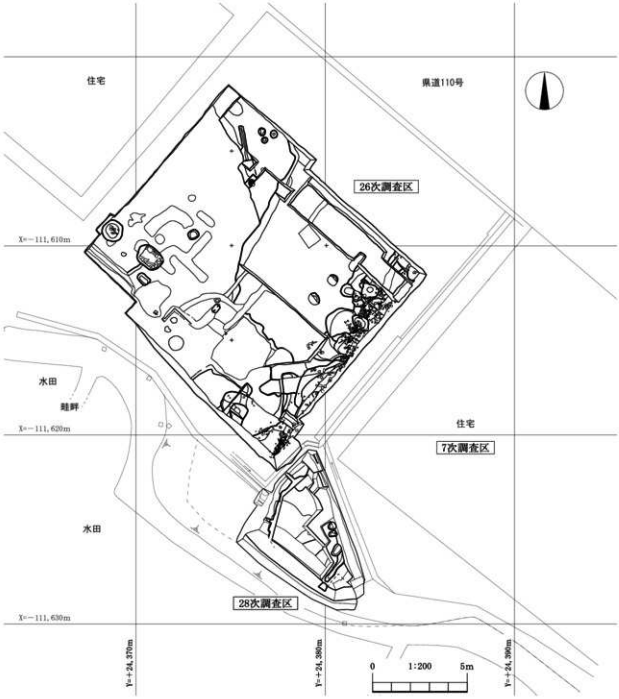
ト主体で砂質分の堆積は無い。かわらけ2点が出土した。埋土の様相から近世以降の溝跡と推定した。

3号溝（Ⅴ層）　調査区北側で検出した。南西壁面から北東側に検出長4.60m以上、南西壁面で溝幅1.70m以上、深さ70cmを測る。底面標高は南西壁面で29.40m、北東側29.25mで、N28～38°Eの軸線で26次調査区に続き、さらに猫間が淵跡の低地に向かうものとみられる。埋土は上位が地山ブロック粘土主体の人為的な切土盛土の混土で、埋め戻して整地状を呈する。中位は灰黄褐シルトが主体で流水に伴う砂質ラミナと炭化物が交互に重なり、下位は粘性が強い。3号溝と4号溝の境界となる層位は互いにグライ化して変色している。中～下位からは炭や黒色炭化物と共に多数のかわらけや加工木・箸や漆器、形代等の木製品が出土した。かわらけは手づくねの大・小の皿形のほか、少数の鉢形、内折れ、ロクロかわらけが8.5kg出土したほか、鉄滓、種子類（クルミの殻・モモ類）などが少量出土した。出土遺物から遺構の年代は12世紀中葉～後半と推定した。

4号溝（Ⅳ・Ⅵ層）　本調査区の南東側を肩にして、地山を大きくU字形に掘り込む。溝の埋土は人の背丈を超えるほどの深さがあり、堀状の大溝として捉え4号溝の名称を与えたが、大形土坑の可能性もある。検出長東西4.50m以上、幅南北5.00m以上、深さ200cmを測り、南東側の肩口では軸線N38°Eの傾きを持つ。埋土Ⅵ層の特徴は、底面から上位まで地山を切土した粘土～シルトと灰黄褐シルトが混じる人為的な地業層で占められことで、調査区の北東から南西側に向かって土砂を投入した形で土層が傾斜する。4号溝上位のⅣ層はⅥ層を被う整地だが、上位は地山ブロックが少なくⅥ層とは異なる水平基調の層位と捉えた。Ⅳ層上面で検出した溝跡や土坑はいずれもこの層位を掘り込んでいる。遺物はⅥ層（6層系）からロクロかわらけや木製品や加工木・木片が多く出土した。埋土下位の6-13層などから、わずかに手づくねの破片が出土したことから、遺構の破棄年代は12世紀中葉と推定される。

清浜の底面では拳大の不整円形の窪みを複数検出した。直径は約10cm、深さは5cm程の窪みで埋土は黄灰シルトと地山ブロックが混じるもので、4号溝を掘削する際の痕跡とみられる。

写真図版1　4号溝中央ベルトと土層断面（北から）



第２図　調査地点全体図（1/200）

（３）遺物（第10～14図・表３～６・写真図版４・５）

遺物は素焼きの土器かわらけと加工木・木製品が３号溝と４号溝から多く出土した。かわらけは調査区全体で整理用コンテナ10箱(約51kg)が出土した。かわらけの成形技法はロクロと手づくねに大別されるが風化や小片のために不明なものも多い。器形は大小の皿形が大部分を占めるが、特殊な器形として鉢形やコースター状の内折れ、口縁を耳皿風に折り曲げた破片が少数出土した。この他に国産陶器（常滑・渥美・須恵器系）、中国産磁器、瓦、加工木や木製品(箸・漆器・形代・折敷状)と木片、金属関連、石製品・石器、炭・焼土、種子類、貝等が出土した。この他に遺構外や撹乱から近世陶磁器や近現代陶磁器、雑物（ガラス・レンガ等）が出土した。第10図、11図１～63はかわらけで、年代

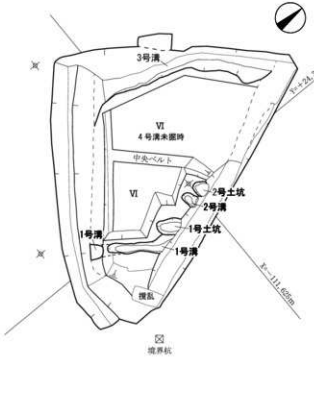
は12世紀中葉～後半とみられる。第12図64～86は国産陶器で常滑産甕13点と皿１点、瀬戸産甕７点、須恵器系甕２点である。中国産磁器は87～89の３点で青白磁碗１点（87）と白磁壷１点（88）と皿１点（89）である。国産陶器と中国産磁器はいずれも12世紀の所産である。第13図90～111は木製品で箸や加工木、漆器、形代、刀子の柄、折敷状の製品がある。112は淡水性の貝殻、第14図113～116は瓦、117～120は金属関連で鉄製品（117・118）と鉄滓（119）、羽口（120）の破片、121～124は石製品で砥石１点（121）と石器３点（122・123・124）がある。

4　まとめ

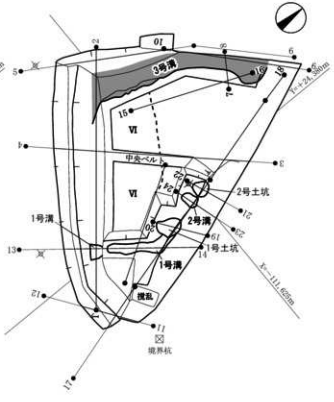
本調査区は無量光院跡の土塁と堀跡から約40ｍ北側に位置する。調査の結果、４条の溝跡と土坑２基を検出した。４号溝は地山を深く掘り下げた大溝で、地山を切り土した造営層に被われる。埋土から箸や漆器などの木製品や多数の加工木片と共にロクロかわらけが多く出土し、手づくねかわらけがわずかに出土した。４号溝の年代は12世紀中葉と推定される。調査区北西側では隣接する26次調査区に続く３号溝を検出し、人為整地に被われた埋土から多数のかわらけや木片・木製品が出土した。26次調査区で複数の溝の造り替えが確認されており、12世紀中葉から後半にかけて存続し、人為的に埋められた溝である。４号溝上位の整地上面で検出した１号土坑・２号土坑・１号溝・２号溝の年代は不明だが、検出層位と埋土の様相から近世以降の可能性が高い。

表２　遺構表

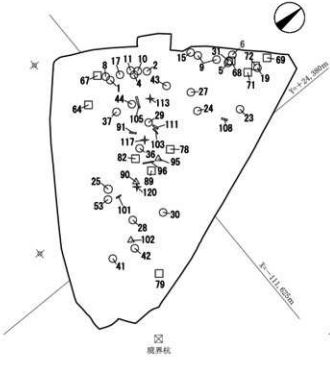
遺構	想定年代	重複（新>旧）	規模 検出長 cm	幅 cm	深さ cm	底面標高 m	形状	軸線	埋土・遺物
1号土坑	近世以降	1号土坑>1号溝>4号溝	65	44	23	29.62	平面円形か 断面U字形	－	埋土：10YR5/3灰黄褐シルト　2号土坑に酷似る 遺物：かわらけ少量　20cm大の円礫1
2号土坑	近世以降	2号土坑>4号溝	42	42	16	29.83	平面円形か 断面U字形	－	埋土：10YR5/2灰黄褐シルト　小規模な掘り込み 遺物：かわらけ少量
1号溝	近世以降	1号土坑>1号溝>4号溝	225	53	35	南端 29.82 北東 29.63	断面U字形	N38°E	埋土：10YR5/2灰黄褐シルト　整地上 西を掘り込む 遺物：かわらけ少量
2号溝	近世以降	2号溝>4号溝	15	35	22	29.62	断面U字型	N70～80°E	埋土：10YR4/2灰黄褐シルト　整地上 西を掘り込む 遺物：かわらけ少量
3号溝	12c中葉～後半	3号溝>4号溝	160以上	170以上	70	南端 29.36 北東 1.25	断面逆台形	N28～38°E	埋土：上位2.5Y6/4にぶい黄橙山ブロック粘土と10YR5/2灰黄褐シルト50%混　整地状の人為埋土 中位10YR1/7～2/2黒褐シルトと黒色変化粘多く混 下位　10YR5/2灰黄褐シルト～粘土と砂質ラミナ 遺物：手づくね・ロクロかわらけ 木製品等多数
4号溝	12c中葉	1号溝・2号溝>4号溝 3号溝>4号溝	450以上	500以上	200	28.04	全体形不明 断面U字形か	N38°E（由東溝）	埋土：10YR4/2.灰黄褐シルトと5GY5/1オリーブ灰粘土塊山ブロック混土　埋土全体が人為的な整地層 遺物：ロクロかわらけ主体で手づくねかわらけわずかに混入　木製品や加工木等多数



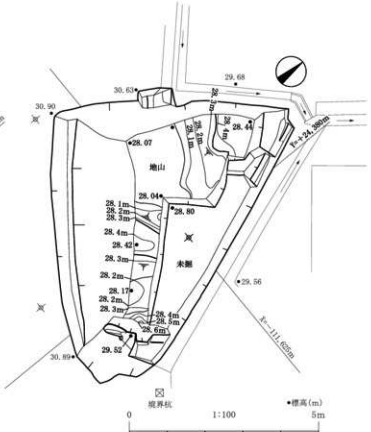
第３図　Ⅳ層上面検出遺構　完掘図（1/100）



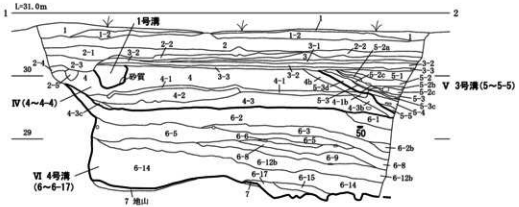
第４図　測点位置図（1/100）



第５図　遺物出土地点位置図（1/100）



第６図　４号溝完掘　コンター図（1/100）



1-2　調査区南西壁面・3-4　調査区北西壁面・5-6　4号溝中央ベルト断面

Ⅰ　表土　畑耕作土・客土・撹乱（1層系）

1　　10YR4/2灰黄褐～10YR4/1にぶい黄褐シルト　現代の畑耕作土　西側の水田畦畔高まりに続く

1-2　　2.5Y7/3浅黄～2.5Y5/4にぶい黄地山ブロックシルト主体　しまりあまりない　客土

1-3　　コンクリート擁壁の裏込め土　撹乱

1-4　　側溝コンクリートの裏込め土　撹乱

Ⅱ　客土　近年の盛土・耕作土・撹乱（2層系）

2　　2.5Y4/2暗灰黄シルト　黒色炭化物や白色堺石灰が少量混　畑耕作土

2-1　　2.5Y5/3黄褐シルト主体＋2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト少量混　客土

2-2　　2.5Y5/2暗灰黄シルト主体＋2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロックシルト　1～3cm大で20%混　客土

2-3　　10YR4/2灰黄褐シルト＋5～20ミリ大の炭化物少量、ガラス片、昭和の陶磁器片混入　撹乱

2-4　　10YR5/2灰黄褐シルト　斜面に続く埋土層　撹乱

2-5　　10YR4/2灰黄褐シルト主体　煉み状の埋土　溝の掘り込みか水穴か不明

2-6　　10YR4/2灰黄褐シルト　客土を掘り込む新しい撹乱状の埋土

Ⅲ　耕作土　旧水田耕作土・床土・造成土（3層系）

3　　10YR5/2灰黄褐～2.5Y4/2暗灰黄シルト主体　休水田耕作土

3-1　　10YR5/2灰黄褐シルト＋7.5YR4/4褐酸化鉄分沈着土20%混　水田床土　オレンジ色の帯層

3-2　　10YR4/2灰黄褐～2.5Y5/2暗灰黄シルト＋7.5YR4/4褐酸化鉄分沈着土10%混　旧耕作土床土　帯状に鉄分が沈着

3-3　　10YR5/2灰黄褐シルト＋7.5YR4/4褐酸化鉄分沈着土30%混　かわらけ片わずかに含む　床土　帯状に鉄分が沈着

Ⅳ　4号溝上位（4層系）

4　　10YR6/2灰黄褐～2.5Y5/2暗灰黄シルト主体＋中間に2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック5%混＋2～10ミリ大の黒色炭化物1～3%混

4b　　10YR6/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土5%混炭化物5～20ミリ大で数量混　グライ化

4-1　　10YR5/2～6/2灰黄褐シルト＋7.5YR4/4褐酸化鉄分30%混＋黒色炭化物1～2%混　酸化鉄分沈着層

4-1b　　10YR6/2灰黄褐シルト＋7.5YR4/4褐酸化鉄分30%混＋黒色炭化物2%混　グライ化

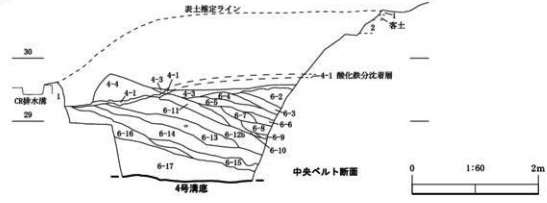
4-2　　10YR5/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック2cm大で20%混＋黒色炭化物5ミリ大で2%混

4-3　　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋1～3cm大の2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック粘土20～30%混＋黒色炭化物2～3%混

4-3b　　10YR5/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック2～3cm大で30%混　かわらけ片混

4-3c　　2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック

4-4　　10YR5/2灰黄褐シルト主体　2～10ミリ大の黒色炭化物1%混　かわらけ少量混



第７図　断面図１（1/60）

Ⅴ　3号溝（5層系）

5　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物1%混　かわらけ片少量含む
5-1　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋10YR4/4褐酸化鉄分少量混
5-1　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物2%混　かわらけ片含む
5-2　10YR4/2～5/3灰黄褐シルト主体＋10YR2/1黒色炭化物2～10ミリ大で7%混　かわらけ片入る
5-2a　10YR4/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック30%混＋10YR2/1黒色炭化物2～8ミリ大で2%混
5-2b　10YR5/2灰黄褐シルト＋10YR4/4褐酸化鉄分沈着土30%混＋10YR2/1黒色炭化物2～10ミリ大で3%混　かわらけ片入る
5-2c　10YR4/2灰黄褐砂質シルト～シルト主体　かわらけ片入る
5-3　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋3～5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物15～20%混　炭化物が多い
5-3a　2.5Y6/2灰黄色シルト＋2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック30%混　西壁
5-3b　2.5Y6/2灰黄シルト＋2.5Y7/3浅黄粘土地山ブロック30%混＋10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で1%混　西壁
5-3c　2.5Y4/1黄灰粘土＋10YR2/1黒色炭化物2～5ミリ大で2～3%混
5-3d　10YR4/2灰黄褐シルト～5/2灰黄褐砂質シルト～シルト主体＋10YR2/1黒色炭化物2～10ミリ大10%混　かわらけ片入る
5-4　10YR4/2灰黄褐粘土主体＋10YR2/1黒色炭化物2～5ミリ大で1%混　加工木、かわらけ片入る
5-4-1　10YR5/2灰黄褐シルト主体
5-4-2　2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック粘土＋10YR5/2灰黄褐シルト50%混
5-4-3　10YR4/2灰黄褐シルト主体
5-4a　10YR4/2灰黄褐粘土＋2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック1～3cm大で20%混＋10YR2/1黒色炭化物2～5ミリ大で1%混
5-4b　10YR4/2灰黄褐粘土＋砂質土10%＋2.5Y6/3にぶい黄粘土地山ブロック30%混
5-5　10YR4/2～5/3灰黄褐粘土～シルト＋砂質ラミナ＋2.5Y6/3にぶい黄粘土地山ブロック1～2cm大で5%混＋10YR2/1黒色炭化物10～30%入る　底面粘性強い　完形かわらけや加工木・形代等の木製品入る層

Ⅵ　4号溝（6層系）

6　10YR4/2～5/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y6/3にぶい黄地山ブロック粘土少量混　かわらけ片混
6-1　10YR4/2～5/2灰黄褐シルト主体＋5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土10～30%混＋10YR5/6黄褐酸化鉄分沈着シルト10%混　2～10ミリ大の10YR2/1黒色炭化物1%　地山ブロックが酸化して2.5Y6/3～2.5Y6/4にぶい黄となる
6-1b　2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土主体＋10YR4/2灰黄褐シルト20%混
6-2　10YR4/2～5/2灰黄褐シルト主体＋5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で30～40%混＋10YR2/1黒色炭化物2～20ミリ大で5～7%混　かわらけ、木片混
6-2a　10YR5/2灰黄褐シルト主体＋2.5Y7/3浅黄地山ブロック粘土2～3cm大で10%混
6-2b　2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土主体＋10YR5/2灰黄褐シルト20%混　地山ブロック主体
6-2b　10YR5/2灰黄褐シルト＋砂質分50%＋5GY6/1オリーブ灰粘土地山ブロック3～20ミリ大でラミナ状に堆積　西壁ベルト断面
6-2c　10YR5/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土1～3cm大の細かい地山ブロックが30%混　地山ブロック多い
6-2d　10YR5/2灰黄褐シルト＋2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土1～5cm大で30～40%混やや大きな地山ブロック多い
6-3　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト40%混＋10YR2/1黒色炭化物2～20ミリ大で5%混　かわらけ、木片混
6-4　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～2cm大＋10YR4/2灰黄褐シルト50%混＋10YR2/1黒色炭化物2～10ミリ大で30%混　陶器擂美片出土
6-5　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～3cm大で30～40%混＋10YR2/1黒色炭化物2～7ミリ大で1～2%混　やや多く入る
6-6　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト40%混＋10YR2/1黒色炭化物1%混
6-7　10YR4/2灰黄褐シルト主体＋5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～2cm大で30～40%混＋10YR2/1黒色炭化物5～10ミリ大で2%混
6-8　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト40%混＋10YR2/1黒色炭化物2～8ミリ大で2%混　かわらけ片、木片少量入る
6-9　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30%混＋10YR2/1黒色炭化物5～10ミリ大で1%混　木片少量入る
6-10　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト40%混＋10YR2/1黒色炭化物1%混　かわらけ、木片少量混
6-11　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30～40%混＋10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で1%混　かわらけ片少量混
6-12　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～3cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30%混＋10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で3%混　木片入る
6-12b　5GY6/1オリーブ灰粘土地山ブロック2～5cm大で主体＋10YR5/2灰黄褐シルト30%混＋10YR3/2黒褐シルト2～3cm大で1%混　木片、かわらけ片少量混
6-13　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～3cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30%混＋10YR2/1黒色炭化物2～5ミリ大で3%混　かわらけ、木片少量混
6-14　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30～40%混＋10YR2/1黒色炭化物3～7ミリ大で3%混
6-15　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～5cm大で主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30%混＋木片少量混
6-16　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土1～3cm大のブロック主体＋10YR4/2灰黄褐シルト40～50%混
6-17　5GY5/1オリーブ灰地山ブロック粘土2～10cm大のブロック主体＋10YR4/2灰黄褐シルト30%混＋10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で1%混＋木片少量混

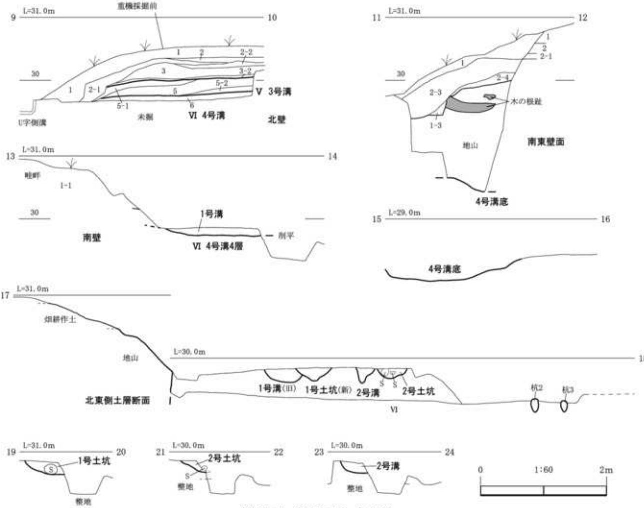
Ⅶ　地山（7層系）

7　5GY5/1オリーブ灰粘土～シルト　上位2.5Y7/4浅黄～2.5Y6/4にぶい黄粘土～シルト

遺構

1号土坑　埋土　10YR5/2灰黄褐シルト　20cm大の円礫1、かわらけ片少量　2号土坑に埋土掘る
2号土坑　埋土　10YR5/2灰黄褐シルト
1号溝　埋土　10YR5/2灰黄褐シルト
2号溝　埋土　10YR4/2灰黄褐シルト

第８図　断面図２（1/60）



第9図　断面図3（1/60）

表3　遺物集計表

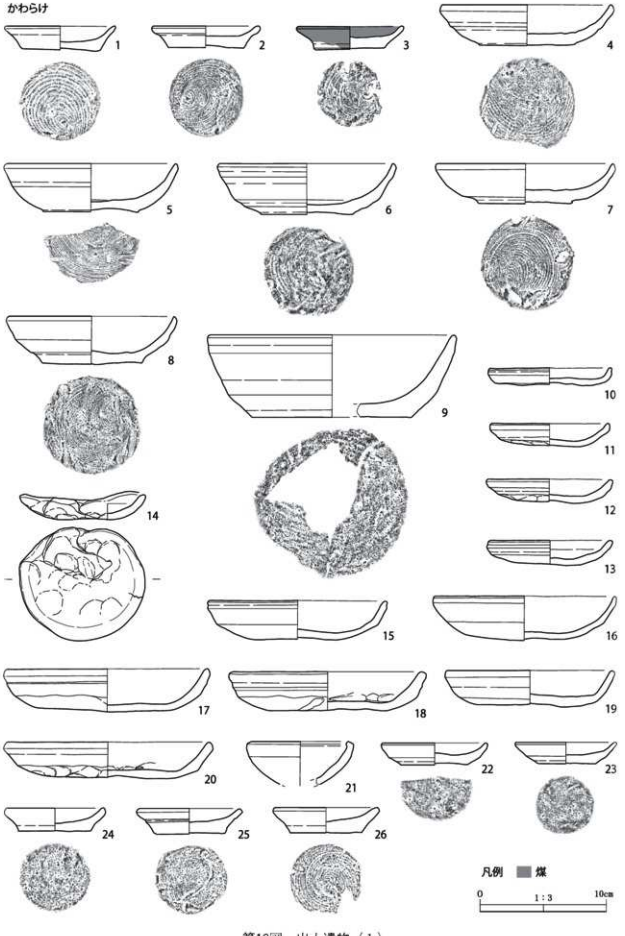
出土区／遺構		層位	かわらけ 点数	手	ロ	不明	特殊	重量(g)	国産陶器 常滑	渥美	須恵器系	中国産陶磁	木製品	加工木(点)	加工木木片(g)	種子類	その他
1号土坑		堆二	21	1	1	19		10									
2号土坑		堆二	8			8		14	1								
1号溝		堆二	178		11	167		342									焼土、炭、石
2号溝		堆二	2			2		4									
Ⅰ－Ⅲ	遺構外 表土一括		1,877	118	287	1,467	5	8,118	3	1	1	青白磁1 白磁1		34	345	クルミ2 モモ核1	鉄製品、銭貨、キセル、国産陶器、近現代陶磁器、[illegible]、瓦、不明土器、壁土、炭・炭化物、雑物（ガラス、ビン等）、石
Ⅳ	整地	4層	3,103	45	405	2,373	5	15,92[illegible]	1	3				73	251	クルミ1 モモ核4 不明2	国産陶器、陶器、焼土、鉄製品、銭貨、[illegible]、石・石器
Ⅴ	3号溝	堆二 5層	176	120	67	289	0	3,890	1				漆器1	6	91	クルミ2 モモ核3 不明2	焼土・土製品、[illegible]、炭、石
		5-1層	135	10	20	103		1,327	2								炭、[illegible]、石
		5-2層	151	21	12	117	1	815							1		[illegible]、炭、石
		5-3層	53	6	10	32	3	611	2								鉄製品、焼土、炭、石
		5-4層	20	10	3	43	3	204								モモ核1	木炭、[illegible]
		5-5層	116	33	18	65	0	1,622					漆器1	1	22		炭、骨、石
	小計		988	202	130	649	7	8,309	8				漆器2		117		
Ⅵ	4号溝	堆二 6層	2,324	34	862	1,431	1	15,216	1			白磁1	[illegible]1 箸1 曲物1 漆器1	309	5,007	クルミ16 モモ核28	瓦、瓦、釘、羽口、鉄滓、焼土、炭、骨、石器、砥石、石
		6-1層	23		8	15		102									[illegible]メノウ、木炭、石
		6-2層	97	3	34	56		541						11	235	モモ核1 ウメ核1	焼土、炭、石
		6-3層	32		21	11		199						1	7	モモ核2	石
		6-4層	13			13		34		1					174		炭、石
		6-5層	12	1	10	1		98						1	26		炭、石、骨
		6-6層	4		2	2		9							12		羽口、炭
		6-7層	8		7	1		31							1		炭
		6-8層	7		7			32						1	29		炭、石
		6-9層	8		8			107							36	クルミ1	石
		6-11層	6		6			33						1	21		炭
		6-12層	68		38	30		432						9	91		炭、石
		6-13層	29	3	7	19		227						21	131	クルミ1 モモ核1	炭、石
		6-14層	71		37	34		480						20	278	モモ核1	焼土、炭、石製品、石
		6-15層	18		14	4		94					箸1	1	51	モモ核1	炭、石
		6-16層	60		19	41		263						10	57	モモ核1	炭、石
		6-17層	19		9	10		139							44	クルミ1 不明1	炭、石
	小計		2,799	43	1,079	1,673	4	18,0[illegible]	1	1		1	6	436	6,213		
合計			8,9[illegible]6	409	[illegible],188	6,3[illegible]8	21	51,03[illegible]	14	5	1	3	8	436	6,876	24	

表4　かわらけ観察表(1)

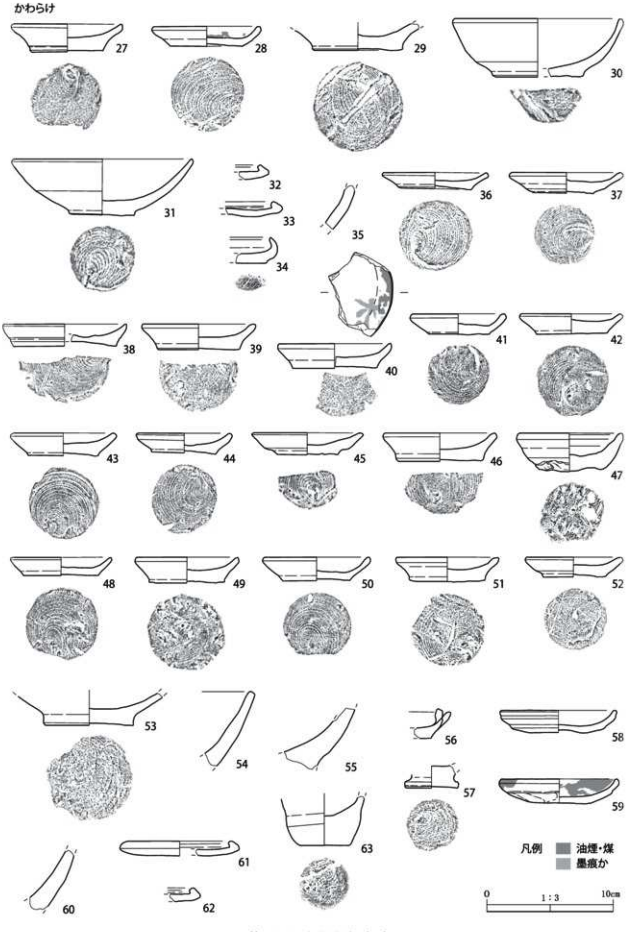
( ) 推定値

No.	図版	写真図版	出土位置・層位		種類	法量cm 口径	底径	器高	残存率(%)	時代	備考(色調〜)	登録No.
1	10	4	V	3号溝 底二	ロクロ・小・皿	8.6	6.3	2.0	90	12c	灰白〜浅黄橙　回転糸切り痕	74
2	10	4	V	3号溝 底二	ロクロ・小・皿	8.6	6.0	1.6	90	12c	大外面浅黄橙一にぶい橙に変色　4片接合	94
3	10	4	V	3号溝 3-1層	ロクロ・小・皿	8.4	5.4	3.0	90	12c	口縁一内面に煤付着　灯明皿	170-1
4	10	4	V	3号溝 底二	ロクロ・大・皿	(13.8)	7.6	3.3	50	12c	浅黄橙〜褐灰に変色　回転糸切り痕	129-1
5	10	4	V	3号溝 底二	ロクロ・大・皿	(13.8)	7.5	3.8	40	12c	浅黄〜浅黄橙　回転糸切り痕	172
6	10	4	V	3号溝 5-5層	ロクロ・大・皿	(14.2)	7.2	4.0	60	12c	大外面に煤付着　灯明皿か　(29.38)	197
7	10	4	V	3号溝 5-5層	ロクロ・大・皿	14.2	7.5	3.2	100	12c	胎土にぶい橙 磨耗大きい　大外風化	195-2
8	10	4	V	3号溝 5-5層	ロクロ・大・皿	13.5	7.8	3.8	60	12c	3片接合　胎土浅黄橙に赤褐色粒子含む 大外一部黒色	395
9	10	4	V	3号溝 5-3〜5-4層	特殊・鉢	(19.7)	(12.6)	6.5	60	12c	胎土やや明褐色　底部穿孔　7片接合	168 他
10	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・小・皿	9.7	–	1.5	90	12c	灰白　口縁横なで　2片接合	398
11	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・小・皿	9.4	–	2.0	100	12c	灰白一浅黄橙　スノコ状　圧痕	400
12	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・小・皿	10.0	–	2.0	100	12c	灰白　胎土に石英粒混入　口縁横なで	195-3
13	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・小・皿	9.9		2.2	100	12c	接合痕　浅黄橙　表面酸化鉄付着 2片接合	19-4
14	10	4	V	3号溝 底二	手づくね・小・皿	10.0	–	2.4	100	12c	成形時の接合線明瞭　胎土灰白	159-2
15	10	4	V	3号溝 3-1層	手づくね・大・皿	14.3		3.3	50	12c	摩滅　灰白	163
16	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・大・皿	14.5	–	3.8	60	12c	胎土灰白良好　5片接合	405
17	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・大・皿	16.3	–	3.8	70	12c	口縁横なで　指頭圧痕	396
18	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・大・皿	15.6		3.0	50	12c	口縁横なで　内面に煤付着 底部にスノコ状圧痕	19-1
19	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・大・皿	13.8	–	2.8	100	12c	摩滅著しい　灰白	170
20	10	4	V	3号溝 5-5層	手づくね・大・皿	16.5		3.5	100	12c	口縁横なで　4片接合　灰白	403 他
21	10	4	V	3号溝 底二	特殊・小鉢	(8.4)	–	–	30	12c	手づくね小鉢　灰白	505
22	10	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	(8.4)	5.8	1.7	50	12c	灰白一にぶい橙　摩滅	19-1
23	10	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	8.0	4.7	1.7	90	12c	口縁一内面底部灰白一黒に変化　煤付着か (29.28)	50
24	10	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	(8.0)	5.5	1.8	80	12c	胎土石英含みやや粗　摩滅　灰白　(29.58)	51
25	10	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	8.3	5.7	2.1	100	12c	灰白　(29.73)	32-1
26	10	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	(8.4)	5.6	2.0	60	12c	灰白一褐灰に変色　胎土に石英粒多量	67-1
27	11	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	8.8	5.7	2.3	80	12c	底面に分離痕あるか　胎土粗 浅黄一浅黄橙　(29.51)	72
28	11	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	8.6	6.0	1.7	90	12c	大外面に煤付着か　胎土粗い　浅黄橙 (29.62)	76
29	11	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・大・	–	7.0	–	50	12c	底の調整か　スノコ状圧痕　浅黄橙	69
30	11	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・大・坏	(13.6)	(7.1)	4.6	40	12c	スノコ状圧痕　胎土粗一だがやや粗 浅黄橙　(29.75)	106
31	11	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・大・坏	14.3	5.2	4.5	60	12c	底部小さい椀　スノコ状圧痕　浅黄橙 (29.21)	212
32	11	4	Ⅳ	整地 4層	特殊・内湾皿	(10.3)		(1.3)	破片	12c	コースター状　浅黄橙	202-3
33	11	4	Ⅳ	整地 4層	特殊・内湾皿	(10.0)	–	(1.2)	破片	12c	コースター状　にぶい橙	15-2
34	11	4	Ⅳ	整地 4層	ロクロ・小・皿	–	(6.0)	2.1	破片	12c	口縁は皿状	20
35	11	4	Ⅳ	整地 4層	特殊・鉢	–	–	–	破片	12c	体部　外面に煤付着	204
36	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	8.4	5.8	1.5	90	12c	回転糸切り痕　浅黄橙　(29.30)	127-1
37	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	9.0	5.0	1.5	80	12c	回転糸切り痕　灰白一黄灰　(29.15)	128-1
38	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	(9.8)	8.1	1.9	30	12c	底部大　回転糸切り痕　淡黄	228
39	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	(9.0)	6.3	2.0	50	12c	回転糸切り痕　淡黄	257-1
40	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	(9.0)	(6.6)	2.0	30	12c	口縁に煤付着　内面に黒化か	273
41	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	7.6	4.9	1.8	60	12c	焼成良好　回転糸切り痕　整形　(29.20)	339
42	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	8.1	5.5	3.0	80	12c	焼成良好　回転糸切り痕　整形　(28.93)	3?0
43	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	8.4	5.6	2.0	80	12c	焼成良好　回転糸切り痕　整形　(28.24)	383
44	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	7.6	5.2	1.7	80	12c	回転糸切り痕　淡黄　(28.28)	391
45	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	8.8	5.0	1.8	50	12c	口縁内外に煤付着　3片接合　淡黄 (28.85〜)	404
46	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	9.0	6.5	2.2	50	12c	胎土良質　糸切り痕	437
47	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	8.4	5.3	3.0	70	12c	全体やや厚手で丈夫　灰白一淡黄 (28.60〜28.80)	309-1

花立
Ⅱ
28

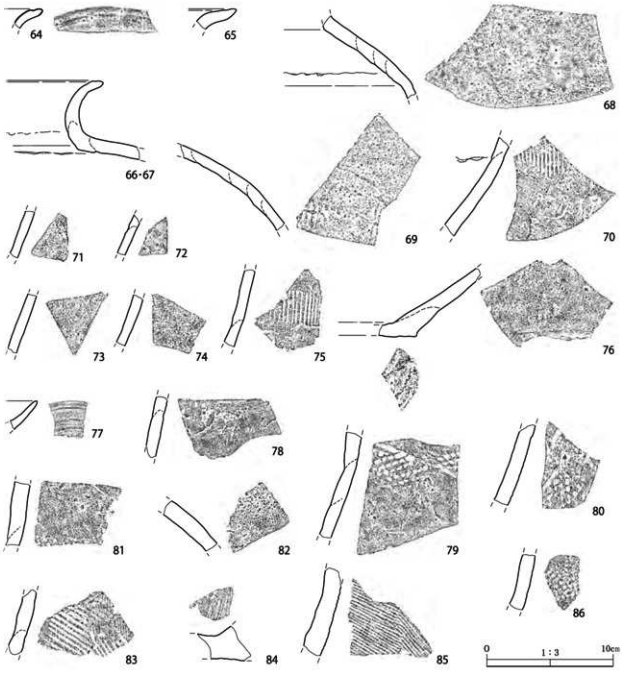

かわらけ
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
凡例
煤
0
1：3
10cm

第10図　出土遺物（1）


かわらけ
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
凡例
油煙・煤
墨痕か
0
1:3
10cm

第11図　出土遺物（2）

国産陶器



中国産磁器

第12図　出土遺物（3）

表4　かわらけ観察表（2）

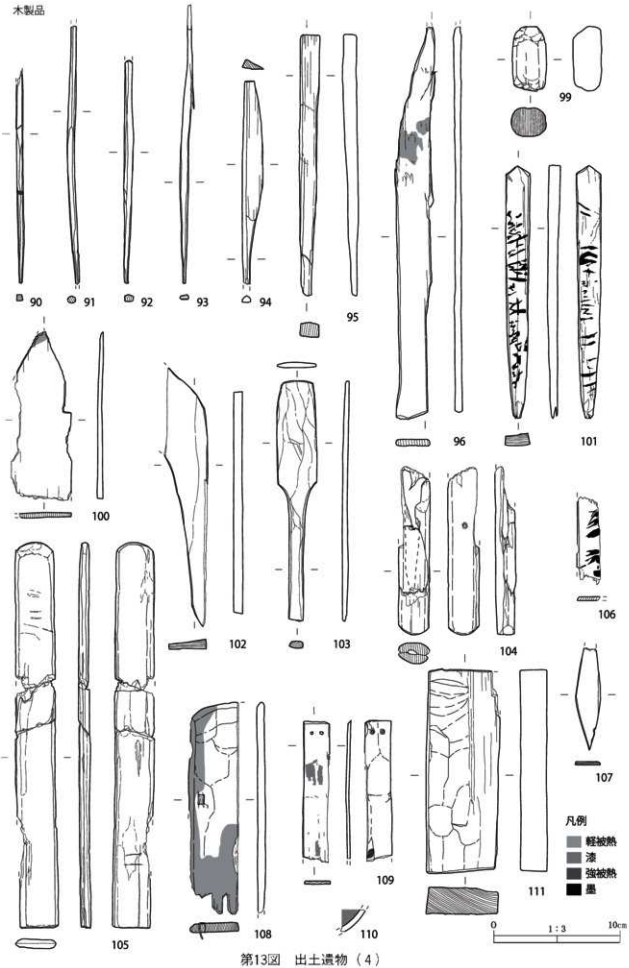
（　）推定値

No.	挿図	写真図版	出土位置・層位		種類	法量cm			残存率(%)	年代	備考(胎土ほか)	登録No.
						口径	底径	器高				
48	11	4	Ⅵ	4号溝 6-2b層	ロクロ・小・皿	8.0	5.8	1.4	40	12c	胎土混黄粒 糸切り痕 (26.85)	484
49	11	4	Ⅵ	4号溝 6-2a層	ロクロ・小・皿	8.2	6.0	2.1	70	12c	胎土淡黄 糸切り痕 (29.14)	485
50	11	4	Ⅵ	4号溝 6-2層	ロクロ・小・皿	8.6	5.4	1.8	70	12c	胎土淡黄 糸切り痕 (29.30)	486
51	11	4	Ⅵ	4号溝 6-12層	ロクロ・小・皿	8.2	5.8	1.9	60	12c	胎土淡黄粒 糸切り痕	451
52	11	4	Ⅵ	4号溝 6-14層	ロクロ・小・皿	7.7	5.1	1.5	60	12c	胎土淡黄粒 糸切り痕	454
53	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・大・皿		7.1		50	12c	椀形の体ー底破片 (29.02)	135
54	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	特殊・鉢	-	-	-	破片	12c	鉢の口縁ー体破片 ロクロか	133-1
55	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	特殊・鉢				破片	12c	鉢の体破片 ロクロか	209
56	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	ロクロ・小・皿	-	-	-	破片	12c	口縁手捏風に折り曲げ	349-11
57	11	4	Ⅵ	4号溝 6層	特殊・柱状高台	-	4.2	-	40	12c	高台のみ 底径小さい (26.75)	259-1
58	11	5	Ⅵ	4号溝 6層	手づくね・小・皿	(9.2)	-	1.8	40	12c	胎土淡黄 内面に煤か	306
59	11	5	Ⅵ	4号溝 6層	手づくね・小・皿	9.6	-	2.0	30	12c	口縁内外に煤付着 灯明皿	349-1
60	11	5	Ⅰ	遺構外表土	特殊・鉢			2.0	破片	12c	鉢の体部	502
61	11	5	Ⅰ	遺構外表土	特殊・内折れ	(9.5)	-	(1.2)	20	12c	コースター状	32-2
62	11	5	Ⅰ	遺構外表土	特殊・内折れ	(10.3)		(1.1)	破片	12c	コースター状	200
63	11	5	Ⅰ	遺構外表土	特殊・小鉢	-	4.2	-	80	12c	小鉢状 底ボテ 一部欠損 4片接合	42-2

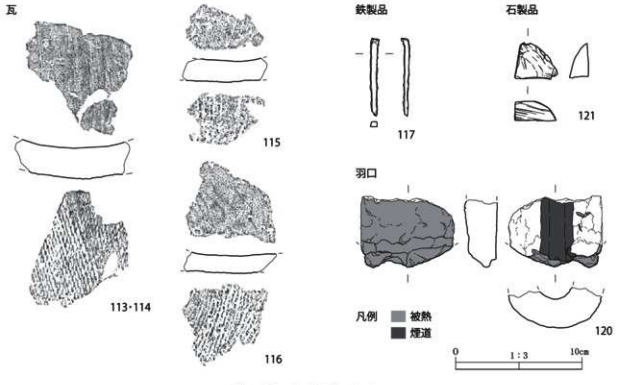
表5　国産陶器・中国産磁器観察表

No.	挿図	写真図版	出土位置・層位		種類		器形	部位	年代	備考	登録No.
64	12	5	Ⅴ	3号溝	国産陶器	常滑	甕	口縁	12c	2~3型式	313他
65	12	5	Ⅳ	整地4層	国産陶器	常滑	甕	口縁	12c	64~75同一個体	43-3
66	12	5	Ⅴ	3号溝 5-1層	国産陶器	常滑	甕	口縁ー頸	12c	66・67接合	46-1
67	12	5	Ⅴ	3号溝 底面	国産陶器	常滑	甕	頸ー肩	12c	66・67接合	3-2
68	12	5	Ⅴ	3号溝 5-3層	国産陶器	常滑	甕	肩	12c		166
69	12	5	Ⅴ	3号溝 5-1層	国産陶器	常滑	甕	胴	12c	外面に押印 自然釉あり	165
70	12	5	Ⅴ	3号溝 底面	国産陶器	常滑	甕	胴	12c	格子状押印	505
71	12	5	Ⅴ	3号溝 底面	国産陶器	常滑	甕	胴	12c		171
72	12	5	Ⅴ	3号溝 底面	国産陶器	常滑	甕	胴	12c		161
73	12	5	Ⅴ	3号溝 5-1層	国産陶器	常滑	甕	胴	12c		174-2
74	12	5	Ⅱ	表土	国産陶器	常滑	甕	胴	12c		181
75	12	5		土坑1 底面	国産陶器	常滑	甕	胴	12c	格子状押印	12-1
76	12	5		出土位置不明	国産陶器	常滑	甕	胴下ー底	12c		2-1
77	12	5	Ⅴ	3号溝 5-3層	国産陶器	常滑	小壺	口縁ー体	12c		179-2
78	12	5	Ⅵ	4号溝 6層	国産陶器	渥美	甕	胴	12c	外面と断面の一部に釉付着	3-4
79	12	5	Ⅳ	整地	国産陶器	渥美	甕	胴	12c	押印 79~81同一個体	53
80	12	5	Ⅳ	整地	国産陶器	渥美	甕	胴	12c	押印 79~81同一個体	87-2
81	12	5	Ⅳ	整地	国産陶器	渥美	甕	胴	12c	79~81同一個体	247-2
82	12	5	Ⅵ	4号溝 6-2層	国産陶器	渥美	甕	肩	12c		427
83	12	5	Ⅰ	遺構外 表土	国産陶器	渥美	甕	胴	12c	押印	49-2
84	12	5	Ⅵ	4号溝 6層	国産陶器	渥美	甕	底	12c	外底に籾殻痕	232
85	12	5	Ⅰ	遺構外 表土	国産陶器	須恵器系	甕	胴	12c後半	外面タタキ 内面ナデ	5-1
86	12	5	Ⅵ	4号溝 6層	国産陶器	須恵器系	甕	胴	12c後半	外面擦痕	433-2
87	12	5	Ⅰ	遺構外 一括	中国産	青白磁	瓶	口縁	12c		27-2
88	12	5	Ⅰ	遺構外 表土	中国産	白磁	碗	胴	12c	Ⅲ系	515
89	12	5	Ⅵ	4号溝 6層	中国産	白磁	皿	口縁ー体	12c	Ⅱ類	88

花立Ⅱ28


木製品
90
91
92
93
94
95
96
99
100
101
102
103
104
106
105
107
108
109
110
111
凡例
軽被熱
漆
強被熱
墨
0
1:3
10cm

第13図　出土遺物（4）



第14図　出土遺物（5）

表6　木製品・その他観察表

（　）残存/値

No.	地区	方位 遺構	出土位置・状態		種類	法量cm 長さ	幅	厚さ	年代	備考	収蔵 No.
90	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		箸	(16.8)	0.5	0.3	12c		133
91	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		箸	(20.4)	0.6	0.5	12c		136
92	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		箸	(17.6)	0.7	0.6	12c		145
93	13	5	Ⅵ	4号溝　6-15層		箸	22.0	0.6	0.4	12c	完形	469
94	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		加工木	(16.0)	1.6	0.7	12c	片側を三次に加工	328-2
95	13	5	Ⅵ	4号溝　6-15層		加工木	30.5	1.5	1.2	12c	芯持材	439
96	13	5	Ⅵ	4号溝　6-15層		刀形	(20.0)	2.3	0.6	12c	刀子形　一面穿孔	329
97	-	5	V	3号溝　2-5層		箸状	(11.2)	0.7	0.3	12c	両端欠損　棒状　細かな切目　使用痕か	89-5
98	-	5	Ⅵ	1号溝　6層		加工木	(1.6)	(1.1)	3.3	12c	両方向加工か　杭状か	352
99	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		加工木	5.1	2.7	2.2	12c	割下材	351-2
100	13	5	Ⅵ	4号溝　6層	木製品	刀形	(13.3)	(4.8)	0.4	12c	完形	142-1
101	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		要検討	18.9	2.0	0.9	12c	両側に加工	126
102	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		刀形	28.4	(3.9)	0.8	12c	完形	220
103	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		ヘラ状	18.9	3.1	0.6	12c	完形	334
104	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		刀子柄	(13.2)	2.4	1.7	12c	下端部欠損　目釘穴	353-2
105	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		割下板	29.4	5.1	0.9	12c	端欠　未製品	336-1
106	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		加工板	(7.0)	(3.8)	0.3	12c	断面三形か	120-1
107	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		刀形	(8.0)	3.0	0.3	12c	茎是状に突起上に段る　一端欠損	170-2
108	13	5	Ⅵ	1号溝　6層		杭状に	(16.8)	4.0	0.7	12c	やや丸太　一部加工	386
109	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		割下板	(11.1)	3.0	0.7	12c	小穴に転用	407-2
110	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		箸状	(5.5)	(3.7)	1.4	12c	両端折損　焼の体残痕有	415-3
111	13	5	Ⅵ	4号溝　6層		割下板	16.1	5.7	2.1	12c		335
112	-	5	V	3号溝　2-5層	他	漆木皮　板状	-	-	-	-	イシガイ科	491
113	14	5	Ⅵ	1号溝　6層	瓦	平瓦	(9.8)	(8.5)	3.5	12c	113・114接合	397
114	14	5	Ⅵ	1号溝　6層		平瓦					113・114接合　小片	349-2
115	14	5	I	造構外　表採		平瓦			1.8	12c		51
116	14	5	I	造構外　表土		平瓦			1.4	12c		507-2
117	14	5	Ⅵ	4号溝　6層	鉄製品	刀子	8.1	0.6	0.4	12c		132
118	3	5	撹	撹乱　4層		鉄製品	(5.5)	(3.5)	1.2	12c	違い板状で分離に有	10-3
119	-	5	V	3号溝　2-5層		鉄滓	6.5	6.0	1.5	12c	椀に　溶全有	495-1
120	14	5	Ⅵ	4号溝　6層	羽口	羽口	(5.2)	(7.4)	2.6	12c	内径3.0cm　129g　火平有り	131
121	14	5	Ⅵ	4号溝　6層	石製品	紡錘車	(2.9)	(3.4)	1.4	12c	分割で使用痕	349-8
122	-	5	撹	撹乱　1層		砥石	2.8	1.6	0.3	縄文	片岩粗粒凝	308
123		5	Ⅵ	1号溝　6層		スクレイパー	8.0	3.0	1.6	縄文	二側	349-9
124	-	5	Ⅵ	4号溝　6-14層		石錘	8.8	3.0	0.8	縄文	未製品か　二側	497-5

重機掘削と北側土層断面（北から）

1号溝・1号土坑・2号溝・2号土坑完掘（北東から）

発掘調査状況（北から）

4号溝中央ベルト土層断面（北西から）

4号溝南西壁　土層断面（北東から）

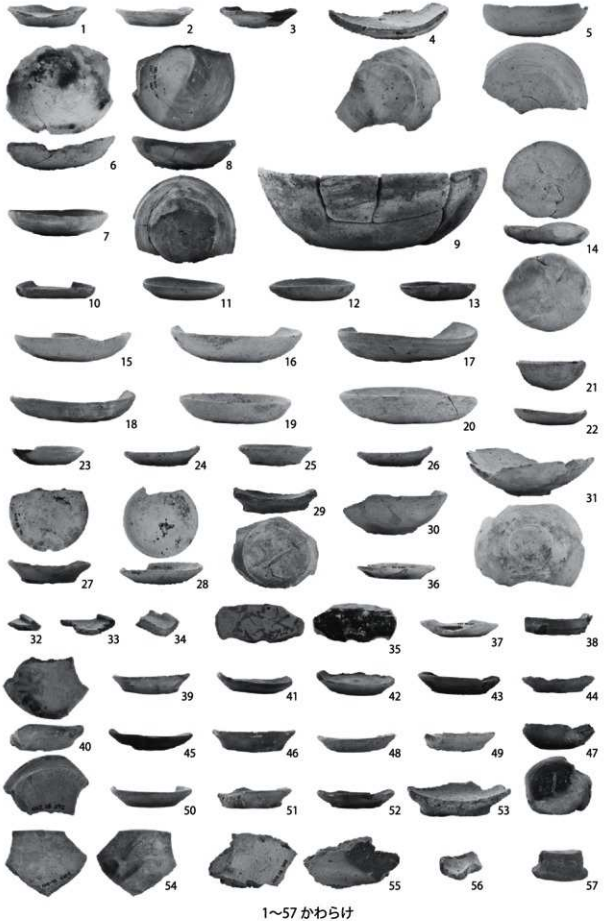
写真図版2

調査区南東側の４号溝肩　立ち上がり（北から）

調査終了全景（南東から）

４号溝底面検出（西から）

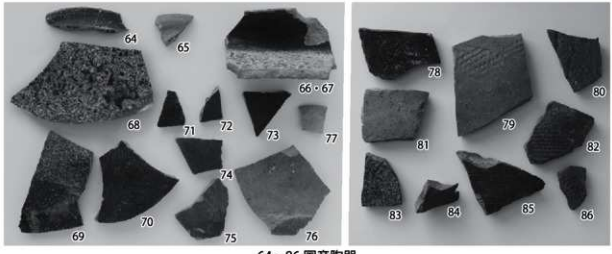
写真図版３



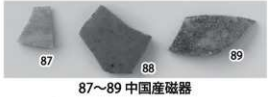
1～57 かわらけ

写真図版4　出土遺物（1）

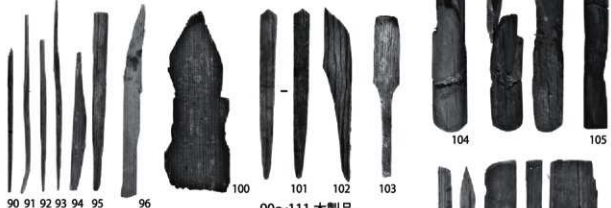
58～63 かわらけ



64～86 国産陶器



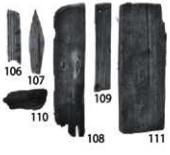
87～89 中国産磁器



90～111 木製品

112 貝

117～120 金属関連



113～116 瓦

121 砥石・122～124 石器

写真図版5　出土遺物（2）

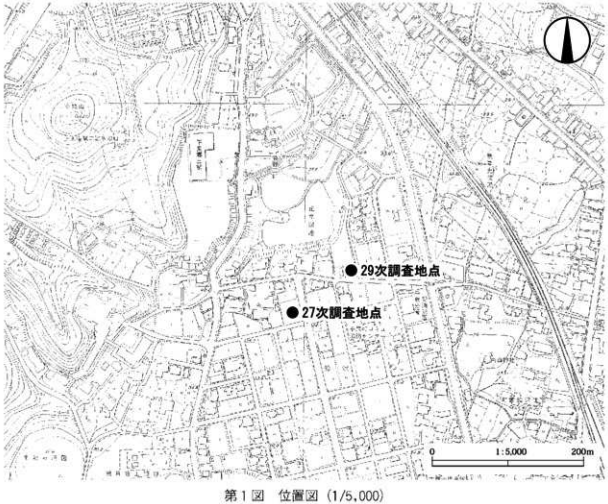
花立Ⅱ遺跡第29次発掘調査

1　調査要項

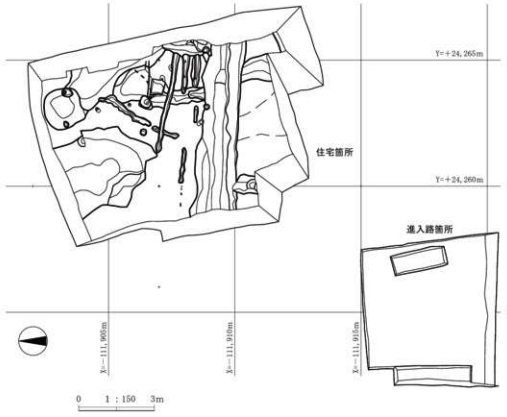
調査地点　平泉町平泉字花立147－3
調査面積　110㎡
調査期間　令和2年7月31日～9月8日
調査原因　住宅建築
調査担当　鈴木江利子

2　調査位置と概要

花立Ⅱ遺跡の南側は昭和50年代に区画整理が行われて、町の中心域でもあることから宅地化が進んでいる。周辺地形は、西の金鶏山側から東の鈴沢の池や北上川に向かって下がっている。遺跡西側は金鶏山遺跡と花立Ⅰ遺跡が接し、東側は無量光院跡と白山社遺跡が位置している。調査箇所周辺は「三十三間堂跡」の伝承地であるが、位置などは不明である。調査区北側にある花立ため池は現在水出用のため池として使われている。「三十三間堂」と同じくこの池もいつ造られたのか分かっていない。ため池が、周辺の土県状に盛られた箇所に囲まれているため、調査箇所は池より一段低い状態である。調査区は休耕田であり、区画整理により切土盛土されていた。



第1図　位置図（1/5,000）



第２図　調査区全体図

3　調査成果

検出遺構は、柱穴６個、土坑１基、落ち込み３か所、溝跡９条等である。上層は後世に削られている様子で、遺構は浅い状況である。落ち込みについては、土坑や溝とも言いにくい不明な箇所で、浅い掘り込み状である。遺物も出土していることから遺構として報告する。

（１）柱穴

調査区Ⅳの東側に検出している。Ｐ２とＰ５は口径に対して深く掘られている。殆どの柱穴は切り合いや出土遺物などから12世紀と考えられる。Ｐ３については周辺の遺構より新しく、埋め土から角材状の木製品が出土したことから近世のものと思われる。

No	掘り方 (cm)	平面形	底面標高 (m)	深さ (cm)	出土遺物等
1	35 × 35	円形	28.62	55	種子 炭 木片
2	24 × 22	楕円形	28.74	49	土錘 炭 木片 鉄滓
3	38 × 42	楕円形	28.50	63	かわらけ 木材 炭 種子 砥石 石
4	38 × 42	楕円形	28.92	26	かわらけ 炭 種子
5	21 × 21	円形	28.41	61	かわらけ
6	25 × 25	円形	28.42	35	

（２）土坑

１号土坑：調査区北東に浅い状態で検出している。落ち込み１が遺構南側を覆っている。Ｐ２とＰ４は土坑底で検出しており、土坑の方が柱穴より新しい。かわらけや木片、種子等を出土している。出土遺物や堆積状況から12世紀の遺構と思われる。

（３）落ち込み

落ち込み１：調査区Ⅳ東側で、北西から南東方向に延びて検出している。検出面と底は共に南東側に低くなって調査区外に広がる状況である。埋土は灰黄色で砂を含んでいる。落ち込み２とは接するが、

当遺構を落ち込み2が覆っている様子から、当遺構が古く落ち込み2が新しい。7号溝を切って、調査区外に続いている。

落ち込み2：調査区東側に検出し、南側は1号溝に達している。北側では落ち込み1の上に浅く広がり、2号溝周辺からは底面の標高も下がり、溝状を呈しやや深くなっている。1号溝から南には検出していない事から、1号溝の中で収まると考えられる。1号溝との重複関係は、現代の埋め土が直上まであり切り合いを確認することができなかった。埋め土には炭を多く含み、落ち込み3と共通する。P3に切られている。

落ち込み3：北側に検出している。径3m程度の広がりを持つが周辺に炭を含む灰色の層が散るようにある。底は平坦でなく浅い凹凸がある。底から中位に炭の層が広がり、雲母や鉄滓、木片などを出土している。他にもかわらけや陶器、磁器、瓦が1～数点ずつ出土している。

遺構名	平面形	検出規模(m)	断面形	深さ(cm)	検出標高(m)	底面標高(m)	出土遺物等
1号土坑	円形	1.5~1.7	皿状	10~20	29.18~29.27	29.06~29.08	かわらけ 木片 炭 土器 種子
落ち込み1	不整形	[4.3]×[1.6]	皿状	7~24	29.25	29.03~29.11	かわらけ 陶器 炭 鉄滓 種子 石
落ち込み2	不整形	[3.65]×[1.25]	皿状	3~18	29.13~29.17	28.94~29.12	かわらけ 陶器 中国産磁器 土師器 土錘 鉄滓 石 炭
落ち込み3	不整円形	2.8~3.5	皿状	35	29.14~29.36	29.20~29.50	かわらけ 陶器 中国産磁器 土師器 瓦 鉄滓 木 木片 種子 雲母 炭 石

（4）溝跡

1号溝：調査区南で東西方向に検出している。底面標高は全体に西から東に低くなっているが、東から2m西側に若干窪む箇所を持っていて、一定の勾配を示してはいない。断面形は西が逆かまぼこ状から逆台形状に変わり、東壁では層が開いた椀状を呈する。東側下層では流水の痕跡も示され、徐々に土砂が堆積した状況である。西ではブロックも混じり埋め戻されている様子が見られる。東側は上層に炭を多く含む層が堆積している。これは落ち込み2から1号溝に流れ込み堆積していった状態で、西側とは堆積状況が異なっている。上層は明黄褐色や灰オリーブ色の粘土層で人為的に埋め戻されている。堆積の順番としては、溝に土砂が自然に堆積し、上に落ち込み2から土や炭が流れ込み、東側に広がっている。中層から下層にかけては遺物も多く含まれている。上層は埋める際に粘土ブロックを用い埋め立てた状態であり、西側では浸漬によるものか、北側に幅が広がっている。

直線的な状態や規模から区画を意図した溝と思われ、出土遺物から年代は12世紀と考えられる。

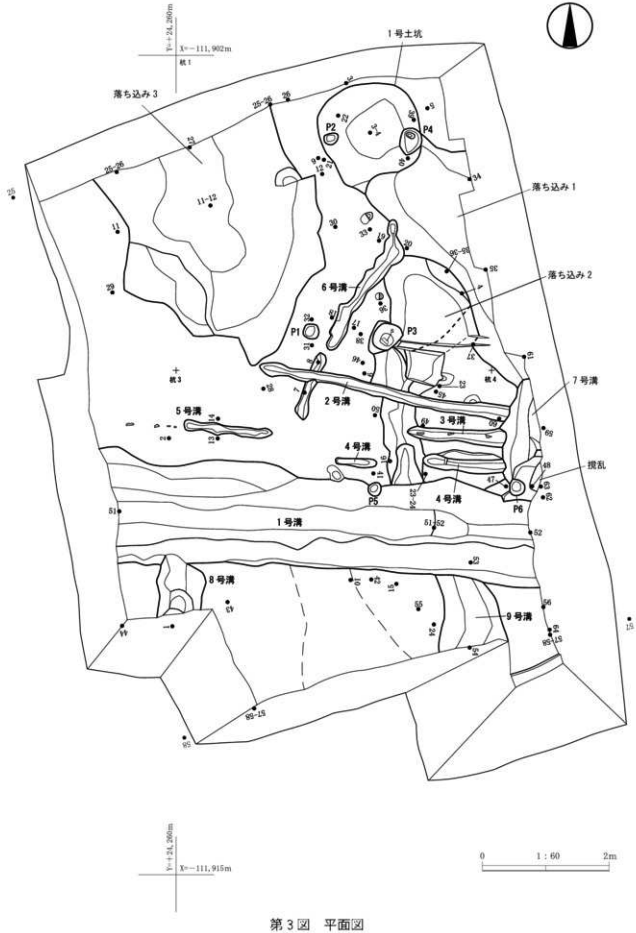
出土遺物はかわらけが多く、陶器、瓦、木製品、種類の種が出土している。

2号溝：調査区中央から東にかけて東西方向に検出しており、底は西から東に低くなっている。6号溝と落ち込み2、7号溝を切っている。平面では確認できなかったが、東壁の断面61-62では板の痕跡と思われる層があり、護岸の可能性がある。同断面で3号溝と接するが、当遺構が3号溝上層を切っている様子が示されている。2号溝の軸方向は他の溝と異なっていることや、3号溝との切り合いから、2号溝は3号溝よりも新しいと考えられる。

3号溝・5号溝（塀跡）：東西方向の延長上にあるため、削平を受け途切れている同一遺構の可能性が高い。合わせると6.5mの検出である。3号溝底は東に向かって下がっており、50～60cm間隔で、5×2cm～13×4cmの大きさの板を打ち込んでいる痕跡が認められ、この事から塀跡と考えられる。5号溝側は浅い状態で、西の先には板痕跡のみ残っている事から、深く削平されている様相である。

4号溝：断続的に検出し、浅い状態の遺構であるが、底は若干東側に低くなっている。西は調査区内で途切れていて、東方向では東壁の断面61-62の17層が対応する可能性があるが、撹乱の影響ではっきりしない。他遺構との新旧等の関係は浅いこともあり不明である。

6号溝：北東から南西方向に向かう溝跡である。落ち込みとの新旧関係は落ち込み2の上を切って、


Y=+24,260m
X=−111,902m
杭1
1号土坑
落ち込み3
落ち込み1
落ち込み2
6号溝
7号溝
5号溝
2号溝
3号溝
4号溝
1号溝
8号溝
9号溝
撹乱
P1
P2
P3
P4
P5
P6
杭3
杭4
Y=+24,200m
X=−111,915m
0
1：60
2m

第３図　平面図

落ち込み1の上層に広がっている様に見えたが、浅いことで確認は難しい。北も南も調査区内で消失している。状況から周辺遺構より新しいと思われる。

7号溝：調査区東端に検出した南北方向の溝である。切り合いなどから周辺の溝や柱穴より古い。北は調査区外にあるが、南は1号溝に切られて先には検出していない。須恵器が出土している。

8号溝：調査区南に検出した南北方向の溝である。1号溝とは境が明瞭でないため同時に存在していた可能性もある。底は1号溝の方が低いが、当溝の南端は調査区外に深く掘り込まれた状態で、土坑状に見える。円盤状のかわらけを出土している。

9号溝：1号溝の南東側にある。落ち込み2の延長にあるものの炭の混入などは少なく、別の遺構と思われる。底は南に下がっていて、埋め土には砂を含んでいる。

遺構名	検出長(m)	幅(m)	深さ(cm)	方位	検出標高(m)	底面標高(m)	出土遺物等
1号溝	6.90	1.35～1.66	37～48	N87°W	29.10	28.53～28.67	かわらけ 中国産磁器 陶器 瓦 土錘 土壁 木片 炭 種子 鉄滓 石 加工木
2号溝	1.50	0.10～0.30	3～26	N78°W	29.30	29.00～29.13	かわらけ 陶器 木 掘除の可能性
3号溝	2.67	0.17～0.30	5～23	N87°W	29.30	29.00～29.15	炭 掘除
4号溝	2.70	0.10～0.30	2～15	N88°W	29.11	28.99～29.06	
5号溝	2.30	0.10～0.20	3～4	N87°W	29.15	29.09～29.12	掘除
6号溝	3.55	0.15～0.30	6～7	N 0°E→ N38°E→ N20°E	28.33	28.02～28.17	かわらけ 石
7号溝	1.60	0.55～0.66	23	N 7°E	29.23	29.00程度	かわらけ 須恵器 木片 炭 種子 石
8号溝	1.00	0.80	10～21	N 3°E	28.93	28.71～28.83	かわらけ(円盤)
9号溝	1.20	0.70～1.10	1～15	南北方向	28.90	28.76～28.87	かわらけ 須恵器 瓦 炭

（5）その他の遺構

落ち込み3の東端11・10層（断面11-12と29-30）については、堆積状況が異なるため、浅い溝跡や窪みであった可能性がある。検出距離は1.5m程度である。

1号溝南の調査区中央は周辺より窪んだ状態である。堆積状態は溝の様に流れの痕跡はなく、自然の湿地であった様子である。8・9号溝も南に下がっている事で、地形に伴い窪んでいると考えられる。

当調査区は住宅建築箇所であるが、敷地が南側の路面よりも高いため、進入路Ⅱを設ける際には掘削が伴う。そこで工事が及ぶと考えられる部分も調査している。部分的に、40～50cmの深堀もしているが昭和の区画整理や最近の砕石などを盛っている事が分かった。工事で遺構に届く可能性がないことが確認できたので工事の掘削面までの調査にとどめた。

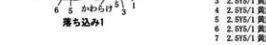
4　出土遺物

かわらけ、陶器、磁器、土師器、須恵器、瓦、土錘、土壁、種、木製品、雲母、鉄滓等が出土した。出土遺物は12世紀の遺物が多く、これらを含む遺構もまた主体が12世紀と考えられる。かわらけは、全体に手づくねが多く出土している。1号溝からも手づくねが多いが、ロクロも破片で出土している。全体ではコンテナ4箱程度である。磁器や陶器は全て12世紀のもので、1号溝や落ち込み、遺構外からも出土している。土師器は小片が4点、1号土坑と落ち込み2、現代の埋め土から出土した。土壁は大きいもので5cm程度であるがほとんど3cm以下の欠片で、1号溝から12点、1号土坑から2点、落ち込み3・3から1点ずつ出土した。鉄滓は、水田層から出土した1点が5cm程度あり一番大きいが、他は1～2cm程度である。落ち込み1・3から2点ずつ、遺構検出面と現代埋め土から1点ずつ出土した。雲母は落ち込み3の中位炭の集中する層からから出土した。合わせて3×3cm程度の大きさになるが、5片程度の破片である。木製品は1号溝から出土している。板状に加工痕はあるものの何の部分かは不明である。他に端材や自然の枝状の物も出土した。小片の端材は柱穴や7号溝などからも出土している。種は、1号土坑から多く、柱穴や落ち込みから数点出土している。落ち込み3か

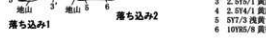
土坑・落ち込み

3-4
1 2.5Y6/2 灰黄砂 鉄分含 部分的に 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック混入
2 2.5Y4/1 黄灰粘土 2.5Y5/2 暗灰黄砂と斑風入する
3 5Y5/1 灰粘土
4 2.5Y6/2 灰黄粘土 砂・鉄分混入
5 2.5Y5/1 黄灰砂 鉄分含
6 2.5Y5/1 黄灰粘土
7 2.5Y5/2 暗灰黄(～ 5/1 黄灰シルト) 同色砂・鉄分含
8 10YR5/2 灰黄褐粘土 砂含 鉄分・炭含
9 5Y4/1 灰シルト 5Y6/2 灰オリーブと砂・炭など混じる

5-6
1 2.5Y5/2 暗灰黄褐砂 鉄分含 粘土含
2 2.5Y5/2 暗灰黄褐砂 炭含 粘土含
3 2.5Y5/1 黄灰粘土 炭含 部分的に 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入



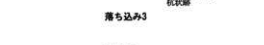
33-34
1 10YR5/2 灰黄褐シルト 7.5YR3/4 暗褐(鉄分)集積 10YR6/6 明黄褐ブロック混入
2 2.5Y5/1 黄灰粘土 砂含 10YR4/1 褐灰粘土斑状にブロック状に散在 鉄分・炭含
3 2.5Y5/1 黄灰粘土 2.5Y6/4 にぶい黄粘土ブロック少し混入 炭多く含
4 2.5Y5/1 黄灰シルト 鉄分多く含
5 2.5Y5/1 黄灰シルト 同砂と 2.5Y6/3 にぶい黄砂混入 部分的に 5Y6/2 灰オリーブ粘土ブロック入る
6 2.5Y5/1 黄灰粘土 5Y7/2 灰白と砂少し含
7 2.5Y5/1 黄灰シルト 鉄分含

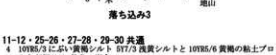


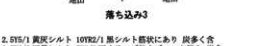
35-36
1 10YR5/2 灰黄褐シルト 7.5YR3/4 暗褐(鉄分)集積 10YR6/6 明黄褐ブロック混入
2 2.5Y5/1 黄灰シルト 2.5Y6/3 にぶい黄砂混入
3 2.5Y5/1 黄灰シルト 10YR5/8 黄褐粘土ブロック少し混入
3' 2.5Y5/1 黄灰粘土 炭含 部分的に 5Y6/2 灰オリーブ(地山ブロック)入る
4 2.5Y4/1 黄灰(～4/2 暗黄灰)シルト～粘土 下方に炭が集中する
5 5Y7/3 浅黄シルト 10YR3/2 黒褐粘土筋状～ブロックで少し混じる
6 10YR5/8 黄褐シルト 2.5Y8/3 淡黄シルト マンガン筋状に入る

45-46
1 下面に炭集中 5Y5/1 灰シルト 10YR4/6 褐粘土ブロック混じる
2 薄い層土 10YR5/6 黄褐粘土 5Y5/1 灰シルト少し混じる

49-50
1 2.5Y5/1 黄灰シルト 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック混入 炭含







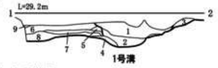
11-12・25-26・27-28・29-30 共通
4 10YR5/3 にぶい黄褐シルト 5Y7/3 浅黄シルトと 10YR5/6 黄褐の粘土ブロックなど混じる 鉄分・炭含
5 2.5Y4/1 黄灰シルト 5Y6/2 灰オリーブ粘土ブロック混入 炭含
5' 2.5Y4/2 暗灰黄シルト 5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入 5'層下は 1 cm程の厚さで 10YR2/1 黒色土筋状に有 炭多く含 鉄分含
6 2.5Y5/1 黄灰シルト 10YR2/1 黒シルト筋状にあり 炭多く含
7 2.5Y6/2 灰黄シルト 5Y6/2 灰オリーブ粘土ブロック混入 炭含
8 5Y7/2 灰白シルト 5Y6/1 灰粘土ブロック混入 砂混
8' 地山と思われるが、10YR6/8 明黄褐シルトに 5Y6/1 灰シルト部分がある
9 2.5Y5/1 黄灰粘土
10 10YR5/1 褐灰シルト
11 10YR6/3 にぶい黄橙粘土 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック混入 炭含

57-58
3 10YR4/6 褐シルト～砂 鉄分多く含 水田層か
4 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 上部を中心に鉄分の集積がみられる 中～下層は鉄分ボロック状
5 鉄分集積層 10YR4/3 にぶい黄褐シルト
6 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 砂含 下方中心に 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入する 鉄分・炭含
7 2.5Y4/2 暗灰黄シルト 鉄分集積 炭含
8 5Y6/1 灰シルト 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック混入
9 2.5Y7/1 灰白粘土 5Y7/2 灰白粘土ブロック、5Y5/3 灰オリーブ砂など混じる
10 5Y6/1 灰粘土に鉄分多く含
11 5Y8/4 淡黄シルトブロック

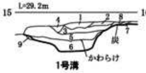
0 1:60 2m

第4図 断面図（1）

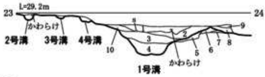
溝



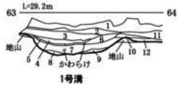
1-2・9-10 共通
1 2.5Y6/6 明黄褐と 5Y6/3 オリーブ黄粘土の粘土や砂のブロック主体 2.5Y3/2 黒褐粘土間に入る
2 2.5Y4/1 黄灰粘土 砂含 5Y6/4 オリーブ黄粘土ブロック混入 木片含 1 層境に黒色の藻状堆積有
3 5Y5/1 灰粘土 砂含 5Y7/4 浅黄粘土ブロック混入
4 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 5Y6/3 オリーブ黄砂ブロック混入 炭含 崩壊層と思われる
5 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 砂含
6 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 砂含 炭・鉄分含 南側に 2.5Y4/2 暗灰黄粘土ブロック混入
7 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 砂含
8 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 粘性強い 炭少し含
9 10YR4/6 褐粘土 砂混入 鉄分含
2 号溝 10YR5/2 灰黄褐～2.5Y5/1 黄灰 粘性有 2.5Y7/2 灰黄粘土ブロック混入
4 号溝 10YR5/3 にぶい黄褐シルト 鉄分・炭含



15-16
1 2.5Y4/2 暗灰黄粘土 斑砂含 炭多く上部に鉄分多く含
2 2.5Y4/2 暗灰黄砂 10Y5/1 灰粘土ブロック混入 炭含
3 2.5Y3/2 黒褐砂 粘土含 5Y6/3 オリーブ黄の砂ブロック少し混入 炭含 木片入る
4 2.5Y5/1 黄灰砂 しまり有 鉄分多く含
5 5Y7/2 灰白粘土ブロック主体 2.5Y4/2 暗灰黄粘土と 5Y6/3 オリーブ黄砂ブロック混入
6 5Y5/1 灰粘土 5Y5/2 灰オリーブ粘土ブロック 2.5Y4/1 黄灰砂ブロックなど混じる 炭少し含
7 10YR5/6 黄褐シルト～粘土 2.5Y4/1 黄灰シルト混入 炭含
8 5Y4/1 灰 炭多く含
9 10Y7/2 灰白粘土 2.5Y4/1 黄灰粘土混入



23-24
1 2.5Y3/1 黒褐 炭多く含 上部は 2.5Y5/2 暗灰黄シルト～粘土に 10YR5/6 黄褐砂ブロック含
2 5Y5/2 灰オリーブ砂 鉄分含 下位に 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック集積する
3 2.5Y3/2 黒褐砂 粘土含 5Y6/3 オリーブ黄の砂ブロック少し混入 炭含 木片入る
4 5Y5/1 灰粘土 5Y5/2 灰オリーブ粘土ブロック 2.5Y4/1 黄灰砂ブロックなど混じる 炭少し含
5 2.5Y5/1 黄灰シルト 砂・鉄分含
6 10Y6/1 灰シルト 2.5Y7/6 明黄褐粘土混じる 鉄分含
7 5Y6/1 灰粘土 鉄分含
8 5Y7/1 灰白 5Y7/3 浅黄粘土ブロック混入 鉄分含
9 2.5Y4/1 黄灰粘土 水田層
10 2.5Y4/2 黄灰シルト 10Y5/1 灰粘土ブロック混入 細かい炭含

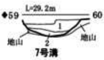


63-64
1 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 鉄分含
2 2.5Y4/1 黄灰シルト 鉄分含
3 2.5Y4/1 黄灰粘土ブロック 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック 鉄分など混じる
4 5Y4/1 灰シルト 2.5Y6/6 明黄褐粘土ブロック混入 炭少し含
5 2.5Y3/1 黒褐粘土 5Y4/1 灰粘土混入
6 2.5Y3/1 黒褐シルト 炭含 5Y4/1 灰砂など混じる 鉄分含
7 5Y3/2 オリーブ黒シルト 2.5Y4/1 黄灰粘土ブロック少し含
8 5G5/1 緑灰砂 5Y4/1 灰シルト混じる
9 5Y4/2 灰オリーブシルトブロック主体 10Y4/1 灰粘土筋状に入る
10 5Y4/3 暗オリーブシルト～砂 鉄分含 2 層と似る
11 10Y4/1 灰粘土 鉄分含 水田層か
12 2.5Y4/1 黄灰粘土ブロック 5Y3/1 オリーブ黒シルト混入 炭含

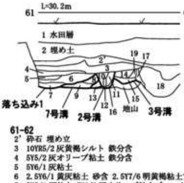
7-8
1 2 号溝 2.5Y5/1 黄灰粘土 5Y7/3 浅黄～7/4 のシルトブロック混入 炭多く含
2 6 号溝 2.5Y6/1 黄灰砂（～シルト）鉄分・炭含

13-14
1 2.5Y4/1 黄灰シルト 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック混入

19-20
1 10YR5/3 にぶい黄褐シルト 鉄分・炭含

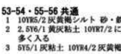


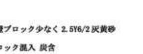
59-60
1 2.5Y4/1 黄灰シルト 鉄分多く含
2 2.5Y4/1 黄灰粘土 5Y7/1 灰白シルトブロック 炭混入



61-62
2' 砕石 埋め立
3 10YR5/2 灰黄褐シルト 鉄分含
4 5Y5/2 灰オリーブ粘土 鉄分含
5 5Y6/1 灰粘土
6 2.5Y6/1 黄灰粘土 砂含 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック混入
7 5Y5/1 灰粘土 5Y6/2 灰オリーブ粘土ブロック混入 炭・鉄分少し含
8 5Y5/1 灰粘土 炭・鉄分少し含
9 5Y4/1 灰粘土 5Y6/1 灰シルトブロックなど混入
10 2.5Y5/1 黄灰粘土 10YR5/8 黄褐粘土ブロック混入
11 5Y5/1 灰粘土 鉄分多く含 炭少々含
12 柱痕跡の可能性有 5Y4/1 灰シルト
13 2.5Y6/1 黄灰粘土 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック混入
14 5Y4/1 灰粘土 10YR5/8 黄褐粘土ブロック 鉄分含
15 10YR4/2 灰黄褐粘土 鉄分集積ブロック有
16 5Y6/2 灰オリーブ粘土ブロック 5Y5/1 灰少し含
17 5Y4/2 灰オリーブシルト 鉄分少し含
18 攪乱 2.5Y3/2 黒褐シルト ビニール入る
19 5Y4/2 灰オリーブ粘土 10YR5/8 黄褐粘土ブロック混入

43-44
1 水田盛土 10YR4/6 褐粘土 5Y7/3 浅黄と 2.5Y6/3 にぶい黄粘土混入 鉄分含
2 2.5Y5/2 暗灰黄粘土 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック少し混入 炭少し含
3 2.5Y5/2 暗灰黄砂 2.5Y5/1 黄灰粘土混入 鉄分少し含
4 2.5Y7/4 浅黄粘土 5Y4/1 灰粘土少し含
5 5Y4/1 灰 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック 炭含
6 2.5Y6/4 にぶい黄シルト 鉄分含

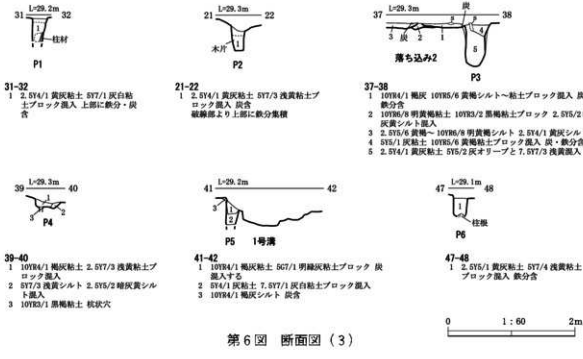




53-54・55-56 共通
1 10YR5/2 灰黄褐シルト 砂・鉄分含
2 2.5Y6/1 黄灰粘土 10YR7/2 にぶい黄橙ブロック少なく 2.5Y6/2 灰黄砂多く入る
3 5Y5/1 灰粘土 10YR4/2 灰黄褐粘土ブロック混入 炭含

0 1：60 2m
◆ 0 1：40 1m

第５図 断面図（２）



第６図　断面図（３）

らは炭や鉄滓などを出土しているが、使用については不明である。土錘が出土している事では、調査区南に鈴沢という沢跡、北側に花立ため池があり、利用する側所は近在している。柱穴や溝から桃類の種が多く出土している事は周辺の環境にも関係すると考えられる。

５　まとめ

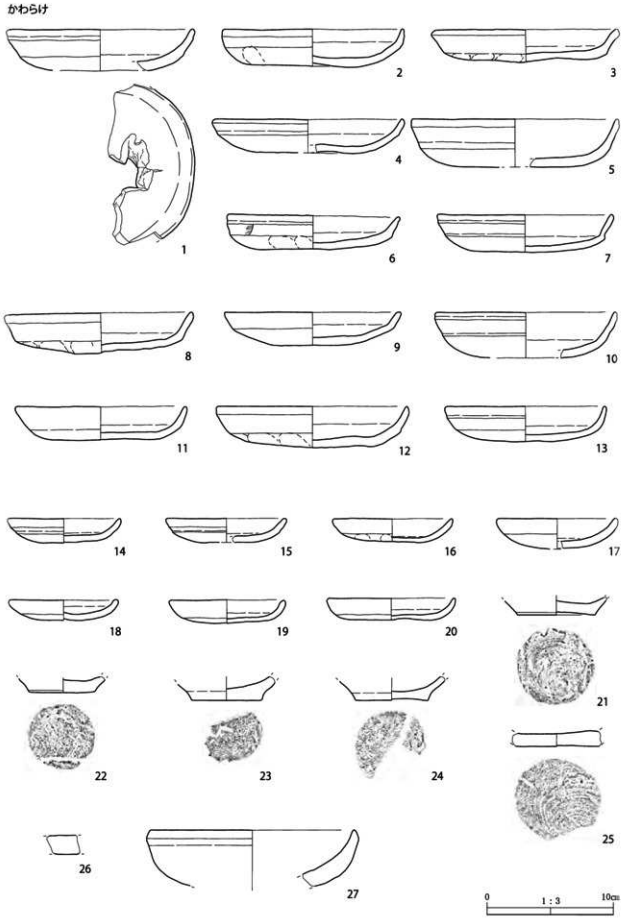
調査区に検出した落ち込みについては、上部が削平を受けている様相であるが、炭の多い下層を粘土で埋め戻している状況も見られる。火を受けた痕跡は確認していないため、捨て場としての使用も考えられる。落ち込みは３か所に分かれているが、同じような目的で、また落ち込み１を落ち込み２が切っている様子ではあるが、期間は大きく隔てたのではないと思われる。出土遺物は少ないものの12世紀の遺構と考えられる。

溝については、１号溝を中心に周辺の溝を配置している様子が見える。２～５号溝はほぼ平行し、塀跡の可能性もあることで１号溝とは同時存在の可能性が高い。２号溝の傾きは他とわずかに異なるが、新しい時期の１号溝（上層）とはほぼ同軸にあり、同時期の可能性がある。１号溝は、形状などから、12世紀の区画溝と考えられるが、除々に埋まって弾み状となり、調査区北側から流れた土や炭が堆積した状況である。

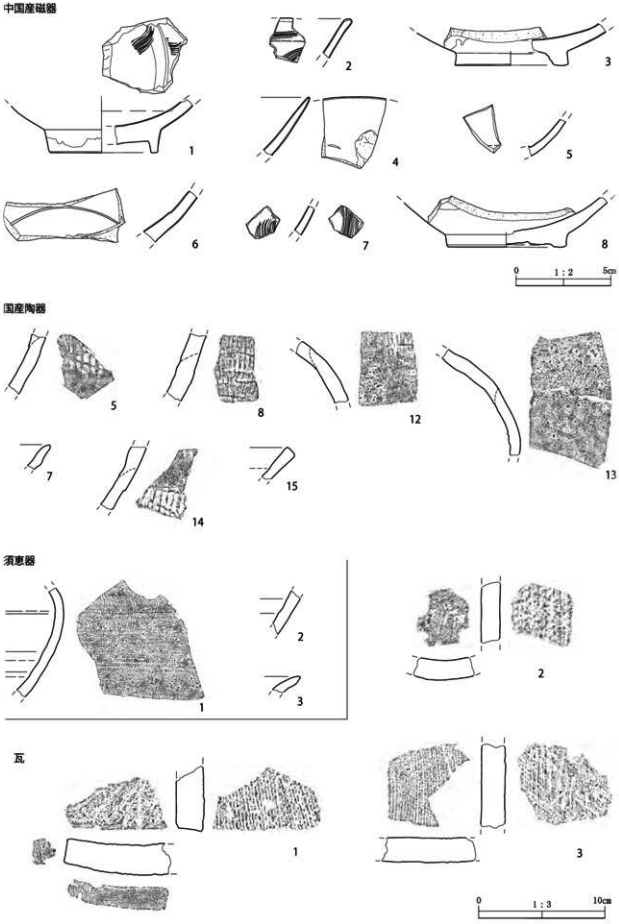
７号溝は１号溝と直行する位置であるが、間に撹乱が入ることや、調査区の端であることで切り合いが明瞭なものではない。１号溝の上層の時期に７号溝を切っている事も考えられ、当初は同時期にあった可能性もある。１号溝とは同時期と考えている３～５号溝には切られていることで、これらよりは古くなる。

８号溝や９号溝は１号溝より南にあるが、共に南に下がる地形の影響を受けた12世紀の遺構と考えられる。

１号溝から南側は北側より20～30㎝低くなっていることや、北側には塀跡（３号溝）もあることで、区画した範囲は北側と考えられる。しかし、今回の調査では具体的に屋敷跡などは検出していないことから、さらに北側や調査区よりも高所である西側に中心域があったと思われる。


かわらけ
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
0
1：3
10cm

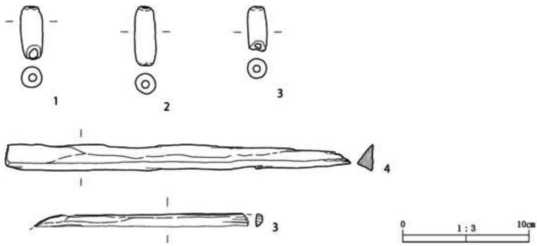
第７図　出土遺物（１）


中国産磁器
1
2
3
4
5
6
7
8
0 1:2 5cm
国産陶器
5
8
12
13
7
14
15
須恵器
1
2
3
2
瓦
1
3
0 1:3 10cm

第８図　出土遺物（２）

土製品

木製品



第９図　出土遺物（３）

第１表　かわらけ観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量(cm) 口径	底径	器高	残存率(%)	年代	備考	登録No
1	7	4	1号溝 断13 16 3層	手づくね大	14.8		3.2	40	12c	穿孔か	47・62-1・118-1・73
2	7	4	1号溝東 ブロック層より下の層	手づくね大	14.4	-	2.9	ほぼ完形	12c	外面指痕 摩滅	44・123
3	7	4	1号溝 炭層	手づくね大	14.4	-	2.6	90	12c	外面指痕 スノコ痕	65-1・118-1・125・146・
4	7	4	1号溝 中層	手づくね大	15.2		2.6	50	12c		127
5	7	4	1号溝 下層	手づくね大	16.5	-	3.8	40	12c		142
6	7	4	1号溝 下層	手づくね大	13.7	-	2.7	ほぼ完形	12c	外面指痕 スノコ痕	143・47-1・174-1
7	7	4	1号溝	手づくね大	14.0	-	3.0	90	12c		10・13-1
8	7	4	1号溝	手づくね大	14.9		3.2	ほぼ完形	12c	外面指痕 スノコ痕	38・47-1・48・50・143・146-1・147-1
9	7	4	1号土坑	手づくね大	14.0	-	2.6	60	12c		35・42-1
10	7	4	1号土坑	手づくね大	14.4		3.6	30	12c		36
11	7	4	1号土坑	手づくね大	13.6	-	2.7	50	12c	摩滅 口縁部に歪み	77・104-1
12	7	4	落ち込み1	手づくね大	15.2	-	3.2	98	12c	内面にタール付着か 外面指痕 スノコ痕	138
13	7	4	重機対応	手づくね大	12.8	-	2.8	60	12c	摩滅	1-8
14	7	4	1号溝 上層	手づくね小	9.0	-	1.9	ほぼ完形	12c	摩滅	85
15	7	4	1号溝	手づくね小	9.6	-	1.9	40	12c	摩滅	9
16	7	4	1号溝	手づくね小	9.6	-	1.9	70	12c	外面指痕 スノコ痕	99・131
17	7	4	1号溝	手づくね小	9.6	-	2.4	50	12c	外面指痕 スノコ痕	82
18	7	4	1号土坑	手づくね小	8.8		1.6	ほぼ完形	12c	摩滅	22
19	7	4	1号土坑	手づくね小	9.2	-	1.8	完形	12c	摩滅	78
20	7	4	1号土坑	手づくね小	10.2	-	1.7	60	12c	外面にタール付着 摩滅	29-1
21	7	4	1号溝東	ロクロ	-	6.2	[1.4]	60	12c	縁打ち欠きか	58
22	7	4	落ち込み2 上面	ロクロ小	-	5.2	[1.1]	70	12c	摩滅	21
23	7	4	落ち込み2	ロクロ小		5.6	[1.3]	50	12c	摩滅	167
24	7	4	落ち込み2	ロクロ小	-	5.7	[1.5]	40	12c		171・181-1
25	7	4	8号溝	ロクロ	-	7.0	[1.2]	30	12c	円盤状に縁打ち欠き後調整か 摩滅	8
26	7	4	重機対応	鉢状か			[1.5]		12c	底部 摩滅	1-2
27	7	4	進入路調査区 排土	特殊	16.8	-	[4.4]	20	12c	ロクロの特大か	188-7

第２表　中国産磁器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	8	5	1号溝北側 落ち込み2の可能性あり	白磁	碗	底部	12c	V-4b類 内底見込みに沈線 内面に櫛目文	11
2	8	5	落ち込み2 上面	白磁	碗	口縁部	12c	V-4類 内面に櫛目文	20
3	8	5	落ち込み2	白磁	碗	底部	12c	Ⅱ類	172
4	8	5	落ち込み3	白磁	碗	口縁部	12c	V-1・Ⅷ-2類	25
5	8	5	落ち込み3 検出面	白磁	皿	体部	12c	V類 内面見込みに段	15-2
6	8	5	調査区南 水田層か	白磁	碗	体部	12c	Ⅳ・V類 内面見込みに屈曲	7
7	8	5	全体清掃	青白磁	碗	体部	12c	内外面に櫛目文	18-2
8	8	5	表土採取	白磁	碗	底部	12c	Ⅳ 1類	203

第３表　国産陶器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	-	5	1号溝 上層	常滑	甕	胴部	12c		86
2	-	5	1号溝 上層	常滑	甕	肩部	12c	小片	87
3	-	5	1号溝 上層	常滑	甕	底部	12c	小片	97-2
4	-	5	1号溝 上層～ブロック層まで	常滑	甕	口縁部	12c	小片	43-2
5	8	5	2号溝	渥美	甕	胴部	12c	押印	170
6	-	5	落ち込み1 上面	常滑	甕	肩部	12c	小片	84
7	8	5	落ち込み1	常滑	鉢	口縁部	12c		169-2
8	8	5	落ち込み2 上面	渥美	甕	胴部	12c	押印 内面に漆	90
9	-	5	落ち込み2 上面	渥美	鉢	体部	12c	断面に漆	91

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
10	-	5	落ち込み2	渥美	甕	口部	12c	小片	109-2
11	-	5	落ち込み3	渥美	鉢	体部	12c		26
12	8	5	調査区南東 包含層	常滑	壺	肩部	12c	押印	111
13	8	5	調査区壁	常滑	壺か	口部	12c		5
14	8	5	全体清掃	渥美	甕	胴部	12c	押印	6-2
15	8	5	南側 重機付近	須恵器系	鉢	口縁部	12c	産地不明 小片	3-2

第4表　須恵器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No
1	8	5	7号溝	壺	肩部	平安	内外面に漆付着	190
2	8	5	9号溝	壺	胴部	平安	1と同一個体か 内外面に漆付着	166
3	8	5	重機付近	壺	口縁部	平安	1と同一個体か 内外面に漆付着	1-3

第5表　瓦観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量（cm）			重量（g）	色調	焼成	年代	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ						
1	8	5	1号溝	平	8.5	5.2	1.9	103.4	灰白	硬	12c	凹面に布目 端部面取り 離れ砂 凸面に縄目 離れ砂 側面にケズリ 表面に煤	191
2	8	5	9号溝	平	5.7	5.0	1.6	48.4	灰黄	軟	12c	摩滅 凸面に縄目 表面に煤	189-1
3	8	5	落ち込み3 附29-30	平	7.3	7.3	1.8	103.0	にぶい黄橙	軟	12c	凹面に布目 凸面にケズリ	93
4	-	5	位置不明	丸	6.4	4.0	1.7	47.8	橙	軟	12c	摩滅 表面に煤	132

第6表　土製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	法量（cm）			重量（g）	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
1	9	5	1号溝 下層	土錘	4.7	1.6	1.6	11.5		165
2	9	5	P2西半	土錘	4.7	1.6	1.6	11.2		115
3	9	5	北東側遺構検出作業	土錘	3.5	1.5	1.5	7.5		28-2

第7表　土壁観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法量（cm）			重量（g）	スサの有無	備考	登録No
				長さ	幅	厚さ				
1	-	-	1号溝 炭層	3.7	3.7	1.6	13.0	有		95-2
2	-	-	重機付近	5.1	4.0	3.2	30.8	有		1-4

第8表　木製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	形状	法量（cm）			備考	登録No
						長さ	幅	厚さ		
1	-	5	1号溝 東側 中位	部材	板状	7.3	2.0	0.3		118-2
2	-	5	1号溝 下層	部材	板状	8.6	1.0	0.3	先端部加工	147-2
3	9	5	1号溝 下層	部材	板状	16.9	1.0	0.5	先端部加工	141
4	9	5	1号溝	部材	棒状	27.3	2.1	1.2		195

第9表　植物遺体観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ（cm）	備考	登録No
1	-	-	1号溝 上層	桃類の種	2.0~2.2	1/4×2点	97-5
2			1号溝 中層	桃類の種	2.3	1/2×1点	147-4
3	-	5	1号溝 中層	すもも類の種か	1.5	完形1点	146-2
4	-	-	1号溝 下層	桃類の種	2.6	完形1点	14
5	-	-	1号溝 中~下層	桃類の種	3.5	完形1点	193
6	-	-	1号溝	桃類の種	1.8	細片2点 1/2×1点	13-5
7	-	-	7号溝	桃類の種	2.3~3.1	完形2点	103-4
8	-	-	1号土坑 上層	桃類の種	2.2	ほぼ完形1点 表面焦げ	79
9	-	-	P1西半	桃類の種	2.6	1/2×1点	113-2
10			P3南半	桃類の種	2.3	1/2×1点	150-3
11	-	-	P4	桃類の種	2.5	ほぼ完形1点	151
12	-	-	P4	桃類の種	2.4	完形1点	94
13	-	-	落ち込み2	桃類の種	1.8	1/4×1点	51-2
14	-	-	落ち込み3	桃類の種	2.1~2.2	1/4×1点 1/2×1点	66
15			落ち込み3	桃類の種	2.3	1/4×1点	50-3
16	-	5	1号溝 上層	桃類の種	2.7~3.0	1/2×8点 完形1点	46-3
17	-	-	1号溝 下層	桃類の種	1.9	1/2×1点	47-4
18			調査区南東 地山直上	桃類の種	2.1~2.3	1/4×1点 1/2×1点	110
19	-	-	調査区南東 地山直上	すもも類・桃類	すもも1.3~2.6 桃1.9~2.6	すもも1/2×1点 桃1/2×2点 完形2点	205
20	-	-	調査区南東 地山直上	桃類の種	1.9~2.6	1/2×2点 ほぼ完形1点	206
21	-	-	1号溝南側清掃	桃類の種	1.9~2.2	1/2×2点	75
22	-	-	調査区南側清掃	桃類の種	2.5	1/2×1点	19-2

第10表　石製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	法量（cm）			重量（g）	色調	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ				
1	-	-	P3	砥石か	13.5	7.9	4.7	960.0	灰オリーブ	1面に擦痕	149
2	-	5	重機付近	砥石	4.5	3.0	1.2	13.7	灰白	板状 3面に擦痕	1-5

花立
Ⅱ
29

調査区全景（北から）

1号土坑・落ち込み1（西から）

落ち込み2（北から）

1号土坑・落ち込み3検出状況（東から）

落ち込み3（南から）

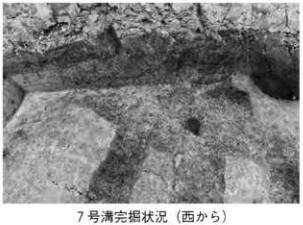
写真図版1

1号溝（東から）

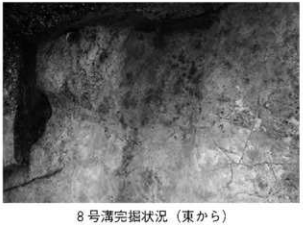
1号溝（西から）

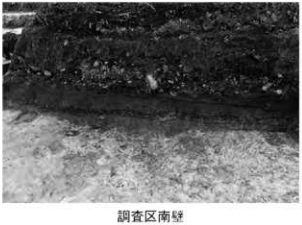
2・3・4号溝（西から）

検出溝位置関係（南から）


7号溝完掘状況（西から）

7号溝断面（北西から）


8号溝完掘状況（東から）

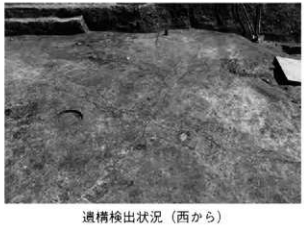

調査区南壁

写真図版2

調査区周辺（北から）

調査区全景（西から）

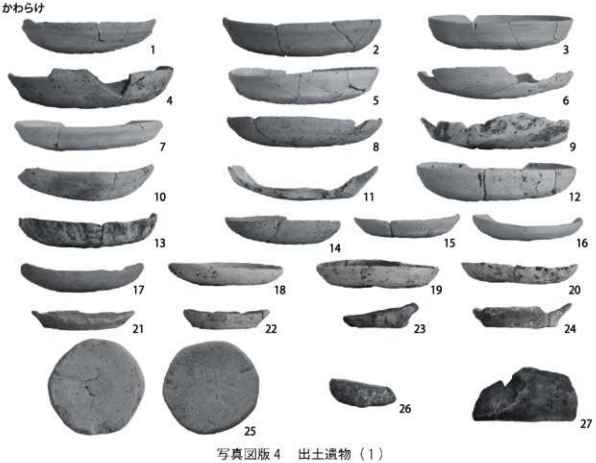
1号溝遺物出土状況（東から）



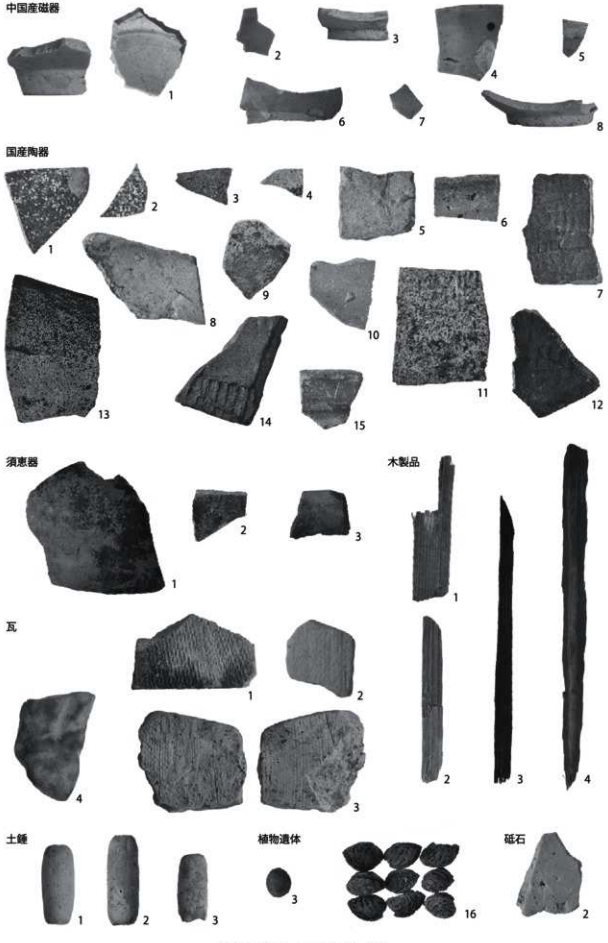
遺構検出状況（西から）

写真図版3

かわらけ



写真図版4　出土遺物（1）


中国産磁器
1
2
3
4
5
6
7
8
国産陶器
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
須恵器
1
2
3
木製品
1
2
3
4
瓦
1
2
3
4
土錘
1
2
3
植物遺体
3
16
砥石
2

写真図版5　出土遺物（2）

令和２年度立会調査履歴表

No	遺跡名	所在地	原因	所見
1	泉屋遺跡	平泉字泉屋25-1	倉庫建築	遺構・遺物無
2	新井田遺跡	平泉字新井田11-1	住宅建築	遺構・遺物無
3	宿遺跡	平泉字宿21-7他	造成	遺構・遺物無
4	白山社遺跡	平泉字鈴沢地内	水路改修	遺構・遺物無
5	中尊寺跡	中尊寺裏路傍	仏堂建設	立会無
6	猪岡遺跡	長島字須賀64-1周辺水門近	接地装置新設	立会無
7	志羅山遺跡	平泉字金町地内	住宅新築	遺構・遺物無
8	高田遺跡	平泉字高山72-2付近	電柱建替	遺構・遺物無
9	毛越Ｖ遺跡	平泉字毛越118付近	電柱建替	遺構・遺物無
10	中尊寺境内	平泉字衣関地内	立会木の伐採（スギ８本）	立会無
11	無量光院跡	平泉字花立174-1付近	電柱移設	立会無
12	宿遺跡	平泉字新井田11-1	下水道工事	立会無
13	高田遺跡	平泉字高田96	進入路工事	立会無
14	祇園Ⅱ遺跡	平泉字祇園203-1	盛土造成	立会無
15	花立Ⅱ遺跡	平泉字鈴沢85-2	電柱移設、撤去	立会無
16	宿遺跡	平泉字宿21-3	盛土造成	立会無
17	中村Ⅱ遺跡	長島字中村14	住宅・物置建築	立会無
18	志羅山遺跡	平泉字倉町62-6	車庫建築	立会無
19	泉屋遺跡	平泉字泉屋48番	無線基地局設備新設	立会無
20	衣関遺跡	中尊寺通電気脇	電線共同溝	立会無
21	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	電線共同溝	立会無
22	中尊寺境内	平泉字衣関	車椅子設置	立会無
23	花立Ⅱ遺跡	平泉字鈴沢地内	公共下水道桝設置	立会無
24	比丘尼寺隣接地	平泉字小金沢地内	メガソーラーに伴う進入路工事	届程Ⅰ確認　出Ⅰ遺物無
25	無量光院跡	平泉字花立124付近	電線共同溝	立会無
26	比丘尼寺跡周辺	平泉字小金沢	メガソーラー建設	立会無
27	佐野原遺跡	平泉字佐野原21-1	携帯無線基地局新設	遺構・遺物無
28	伽羅之御所遺跡	平泉字伽羅楽68-1	神輿設置工事	遺構・遺物無
29	金鶏山遺跡	平泉字花立9-2	携帯無線基地局新設	遺構・遺物無
30	比丘尼寺隣周辺	平泉字小金沢地内	電柱新設	遺構・遺物無
31	志羅山遺跡	平泉字志羅山36-1	カーポート建設	遺構・遺物無
32	金鶏山遺跡	平泉字花立9-2	電柱新設	遺構・遺物無
33	善阿弥遺跡	平泉字善阿弥165-1	住宅建築、進入路工事	遺構・遺物無
34	善阿弥遺跡	平泉字善阿弥165-1	住宅建築、進入路工事	遺構・遺物無
35	善阿弥遺跡	平泉字善阿弥165-1	住宅建築	遺構・遺物無
36	柳之御所跡	平泉字柳御所28-1	住宅建築	立会無
37	花立Ⅱ遺跡	平泉字鈴沢82-1周辺	電柱移設	立会無
38	泉屋遺跡	平泉字泉屋地内	下水道工事	遺構・遺物無
39	祇園Ⅰ遺跡	平泉字佐野原地内	下水道工事	遺構・遺物無
40	小島館遺跡	長島字古舘地内	電柱新設	遺構・遺物無
41	大仏遺跡	平泉字大平10-5ほか	工場新築	遺構・遺物無
42	祇園Ⅰ遺跡	平泉字佐野原地内	下水道工事	遺構・遺物無
43	衣関遺跡	平泉字衣関地内	下水道工事	遺構・遺物無
44	白光寺跡	平泉字北沢地内	維持管理に伴う立会	立会無
45	柳之御所跡	平泉字柳御所	変電所内監視装置設置	遺構無
46	祇園Ⅰ遺跡	平泉字祇園地内	電柱新設	遺構・遺物無
47	花立Ⅱ遺跡	平泉字鈴沢地内	電話柱撤去	遺構・遺物無
48	三日町Ⅰ遺跡	平泉字三日町156-1	住宅建築	遺構・遺物無
49	善阿弥遺跡	平泉字善阿弥165-1	住宅建築	立会無
50	伽羅之御所跡	平泉字伽羅楽	下水道工事	掘穴１個
51	中尊寺跡	平泉字衣関地内	電柱新設	遺構・遺物無
52	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	電線共同溝	立会無
53	無量光院跡	平泉字花立173-1、4、5	電柱、同支線設置	立会無
54	白山社遺跡	平泉字鈴沢34	電柱、同支線設置	立会無
55	大沢遺跡	平泉字大沢161番2	携帯基地局建設	遺構・遺物無
56	白山社遺跡	平泉字鈴沢地内	支障木伐採	立会無
57	衣関遺跡	平泉字衣関地内	電柱支線補設・撤去	立会無
58	花立Ⅰ遺跡	平泉字花立地内	電柱支線設置	立会無
59	柳之御所跡	平泉字柳御所地内	電柱支線設置	立会無
60	比丘尼寺跡	平泉字小金沢地内	電柱新設	遺構・遺物無

※住所は岩手県西磐井郡平泉町までを省略し、平泉・長島字から記載した。

岩手県平泉町文化財調査報告書第141集

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅰ遺跡第６次　　中尊寺跡第93・95・96次
花立Ⅱ遺跡第27・28・29次

印　刷　令和４年３月27日
発　行　令和４年３月31日

編集・発行　平泉町教育委員会
〒029-4102　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2
電話（0191）46-2111㈹　FAX（0191）46-2015

印　刷　株式会社 一関プリント社
〒021-0031　岩手県一関市青葉一丁目7-24
電話（0191）23-4586㈹

© 平泉町教育委員会 2022